

平成22年度 別府大学, 立命館アジア太平洋大学, 日本文理大学へ開放可能科目一覧 (全学共通科目)

主題	授業科目	担当教員(所属学部)	分野	学期	曜	限	備考
V	基礎理論化学Ⅰ	大賀(工)	自然	前	月	1	
I	アカデミックスキル―社会教育計画を題材に―	岡田(高教)	総合	前	月	2	
V	微分法と数学	大野(教)	自然	前	月	2	
V	生命観の変遷	牧野(高教)	自然	前	月	2	
VI	電気の世界Ⅱ	大久保(工)	自然	前	月	2	
VIII	生活文化論	財津(教)	人文	前	月	2	
V	原子と分子	飯尾	自然	前	月	4	
I	学習ボランティア入門	中川(高教)	総合	前	火	1	
IV	企業と労働	幸(経)	社会	前	火	1	
VI	建築構造工学	井上・佐藤・菊池・大谷(工)	自然	前	火	1	
VI	建築環境計画	佐藤・大鶴・真鍋・鈴木・小林・富来・姫野(工)	自然	前	火	1	
IX	地域の住まい学習	久保(教)	人文	前	火	1	
I	スポーツと生活	前田・岡内(工)	社会	前	水	1	
V	数理の世界	末竹(工)	自然	前	水	1	
V	ゲーム理論と社会	下田(経)	自然	前	水	1	
VI	情報科学の世界	伊藤, 藤田, 末田, 越智, 原, 和泉, 行天, 中島(工)	自然	前	水	1	
IV	現代社会と企業	松尾(経)	社会	前	水	1	
IV	日本経済入門	村山(経)	社会	前	水	1	
IV	企業会計のしくみ	梶田(経)	社会	前	水	2	
IV	資本市場論	金(経)	社会	前	水	2	
V	現代天文学とSETI	仲野(教)	自然	前	水	2	
VI	エレクトロニクスの世界Ⅰ	益子・古賀・工藤(工)	自然	前	水	2	
VII	福祉と工学技術	池内(工)	総合	前	水	2	
VII	医療人間科学	西他(医)	人文	前	水	2	
IX	環境の化学	飯尾・他(応化教員)(工)	総合	前	水	2	
IX	大分の水Ⅰ	市原(経) 他	総合	前	水	2	
IX	大分の水Ⅱ	市原(経) 他	総合	前	水	2	
V	生命科学と社会	高濱(教)	総合	前	水	3	
I	社会教育から見た教育の「協働」	中川(高教)	総合	前	水	3	
I	ボランティア体験と自己発見Ⅰ	山岸(教)	総合	前	水	3	
I	大分の人と学問	大嶋	総合	前	水	3	
III	社会調査実践論	永田(教)	社会	前	水	3	
VI	機械技術概論	佐久間(工)	自然	前	水	3	
IX	化学物質と環境影響	吉岡(教)	総合	前	水	3	
IV	人間・労働と技術の現代史	藤原(経)	社会	前	木	2	
IV	革新的企業経営	松岡(経)	社会	前	木	2	
IV	会社組織のしくみ	本谷(経)	社会	前	木	2	
VIII	中世イタリアの生活史Ⅰ	城戸(経)	人文	前	木	2	
I	心理学概論	藤田・古城和(教)	人文	前	金	2	
I	プロジェクト型学習入門	市原(経)、岡田(高教)	総合	前	金	2	
II	国文学作品研究	藤原(教)	人文	前	金	2	
V	原子と分子	大賀(工)	自然	前	金	2	
V	地球と生命の歴史	三次(教)	自然	前	金	2	
V	生活の化学	中島(教)	自然	前	金	2	
VI	エネルギー科学	濱本・江崎・後藤・高坂(工)	自然	前	金	2	
I	ボランティア体験と自己発見Ⅱ	山岸(教)	総合	前	集中	集中	
IX	里海と里山Ⅰ	市原(経)	総合	前	集中	集中	
I	ボランティア体験と自己発見Ⅲ	山岸(教)	総合	後	月	2	
I	キャリアデザイン入門	岡田・中川・非常勤講師(高教)	総合	後	月	2	
VI	電気の世界Ⅰ	榎園(工)	自然	後	月	2	
VII	カラダの見方・考え方	牧野(高教)	自然	後	月	2	
VII	精神科ソーシャルワーク論	橋本美枝(教)	総合	後	月	2	
VIII	市民参加と現代社会	豊島(経)	総合	後	月	2	
IX	地球環境とエネルギー	山田・岩本・堤(工)	自然	後	月	2	
V	物質の状態と変化	大賀 恭(工)	自然	後	月	4	
II	日本語はおもしろい	日高(教)	人文	後	火	1	
VI	機械の世界	木下・劉・濱川・田上(工)	自然	後	火	1	

VI	建築入門	井上・佐藤・菊池・大鶴・真鍋・鈴木・小林・大谷・富来	自然	後	火	1	
VII	ケアから導く創造力＝三好春樹の思想	工藤(教)	総合	後	火	1	
IX	地域と情報	藤井(教)	総合	後	火	1	
IX	化学物質と環境影響	吉岡(教)	総合	後	火	1	
I	生涯学習論入門	岡田(高教)	社会	後	水	1	
IV	地域ブランド入門	薄上(経)	社会	後	水	1	
IV	経済学で物事をみる	相浦(経)	社会	後	水	1	
V	海流とその研究	西垣(教)	自然	後	水	1	
VI	機械と文明	後藤・浜武・鹿毛(工)	自然	後	水	1	
III	税金入門	吉田(経)	社会	後	水	2	
IV	グローバル経済入門	柴田(経)	社会	後	水	2	
IV	経営学の基礎	仲本(経)	社会	後	水	2	
VI	エレクトロニクスの世界Ⅱ	厨川・佐藤・鍋島(工)	自然	後	水	2	
VI	くらしの化学	氏家 誠司、他応化教員(工)	自然	後	水	2	
VII	健康と看護	井上他(医)	総合	後	水	2	
VII	社会的排除と福祉	平塚(福祉)	総合	後	水	2	
VIII	東南アジアの社会と教育	平田(教)	総合	後	水	2	
IX	大分の水Ⅱ	市原(経)	総合	後	水	2	
IX	大分の水Ⅱ	市原(経)	総合	後	水	2	
I	大分を探ろう	大嶋	人文	後	水	3	
I	成人教育方法入門	中川(高教)	社会	後	水	3	
I	職業とキャリア開発	大嶋他	総合	後	水	3	
V	統計学入門	甲斐(経)	自然	後	水	3	
VII	医科学入門	西園 他(医)	総合	後	水	3	
VII	社会福祉と自立思想	衣笠(教)	総合	後	水	3	
VII	医学史のプロムナード	甘利(教)	人文	後	水	3	
VIII	マルチメディアとコミュニケーション	市原(教)	社会	後	水	3	
II	中世イタリアの生活史Ⅱ	城戸(経)	人文	後	木	2	
II	言語文化学入門	柿原(経)	人文	後	木	2	
III	現代社会の諸問題	大杉(教)	社会	後	木	2	
IV	日本の財政	小野(経)	社会	後	木	2	
IV	雇用社会の揺らぎ	阿部(経)	社会	後	木	2	
IV	企業ファイナンス入門	鶴崎(経)	社会	後	木	2	
IV	企業会計の基礎	大崎(経)	社会	後	木	2	
VIII	地域と地域主義	デイ(経)	総合	後	木	2	
I	大分大学を探ろう	市原(経)	人文	後	金	2	
III	日本の医療保障制度	深田(教)	社会	後	金	2	
III	政治と倫理	嘉目(経)	社会	後	金	2	
V	抽象化と代数学	馬場(教)	自然	後	金	2	
V	基礎理論化学Ⅱ	大賀 恭(工)	自然	後	金	2	
VI	情報科学の世界	伊藤、藤田、末田、越智、原、和泉、行天、中島(工)	自然	後	金	2	
VII	現代の福祉政策	垣田(福祉)	総合	後	金	2	
VIII	国際関係入門	高山(経)	総合	後	金	2	
V	物質の状態と変化	飯尾(工)	自然	後	金	4	
IX	里海と里山Ⅱ	市原(経)	総合	後	集中	集中	

短期留学プログラム科目	The Japanese News Media and Globalization 日本のニュースメディアとグローバルイゼーション	南里(国セ)		前	火	3	
	'Contact with the Foreign' in Modern and Contemporary Japanese Literature	菅沼(国セ)		前	火	4	
	Understanding Japanese Cybercultures	菅沼(国セ)		前	水	3	
	Intercultural Communication 異文化コミュニケーション	長池(国セ)		前	水	4	
	Japanese Popular CultureB: Manga, Animation and Mass Media 日本ポピュラーカルチャー論B:マンガ・アニメ・マス	長池(国セ)		前	木	3	
	Japanese Grammar and Discourse 日本文法とディスコース	南里(国セ)		前	金	3	
	The Japanese News Media and Globalization 日本のニュースメディアとグローバルイゼーション	南里(国セ)		後	月	2	
	Understanding Japanese Cybercultures	菅沼(国セ)		後	火	3	
	Intercultural Communication 異文化コミュニケーション	長池(国セ)		後	火	4	
	'Contact with the Foreign' in Modern and Contemporary Japanese Literature	菅沼(国セ)		後	木	4	
Japanese Grammar and Discourse 日本文法とディスコース	南里(国セ)		後	金	3		

授業科目名 (科目の英文名)
基礎理論化学I (Basic Theoretical Chemistry I)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2年以上	教・経	前期	月1	大賀 恭 内線 7958 E-mail: yohga@cc.oita-u.ac.jp

前・月

【授業のねらい】

大学の化学を受講してつまづく原因の一つとして、大学の化学にでてくる理論や法則に関する難しそうな方程式に対する拒絶反応があげられる。ところが一見複雑そうで高度に見える方程式も、実は高校数学の基礎知識レベルで十分理解できるものが大部分である。本講義では、専門基礎科目「原子と分子」および「物質の状態と変化」の内容の理解を前提に、これらの講義の中で扱った化学に関する理論や法則を、演習をまじえながらより深く理解することを目的とする。

【具体的な到達目標】

- (1) 自然科学に関する基本的な理論・法則に関する理解を深めること
- (2) 演習を通じて、理論・法則の使い方を身につけること
- (3) 化学を理解する上で必要な基本的な数学を復習する

【授業の内容】

およそ以下のスケジュールにしたがって行うが、進行状況や理解度に応じて演習と解説の時間を増やすこともある。

- 第1週 ガイダンス (講義内容の紹介)
- 第2週 基本事項1: 単位の取り扱い方・有効数字
- 第3週 基本事項2: 特殊関数とグラフ
- 第4週 基本事項1, 2に関する演習と解説
- 第5週 中間試験
- 第6週 熱力学1: 気体の状態方程式
- 第7週 熱力学2: 熱力学の第一法則と第二法則
- 第8週 熱力学3: 自由エネルギー
- 第9週 熱力学4: 相変化
- 第10週 熱力学1~4に関する演習と解説
- 第11週 中間試験
- 第12週 化学平衡1: 解離度・pH
- 第13週 化学平衡2: 平衡定数
- 第14週 化学平衡1, 2に関する演習と解説

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容に関する課題レポートを課す。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書】

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「FRESHMAN化学」(学術図書出版社)

【成績評価の方法及び評価割合】

演習・課題レポート40%, 試験(中間・期末)60%。

【注意事項】

毎時間講義の開始時にその日に使うプリントを配布するので、遅刻は厳禁。関数電卓必携。前期開講「原子と分子」および後期開講「物質の状態と変化」を履修済みであることが望ましいが、最低限、高校「化学I・II」を履修していることが必要である。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
アカデミックスキル入門—社会教育計画を題材に— (Introduction to Academic Skills)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	月2	岡田 正彦 内線 7647 E-mail: msokada@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

アカデミックスキルとは、大学などで学ぶために必要となる様々な技能を指します。具体的には、様々な情報を論理的に理解し、分析や総合により考察し、その結果を他者に効果的に示すといった一連のプロセスに関わる様々なスキルを含み、周囲の人々と良好なコミュニケーションをとることも必要となります。本授業では、社会教育計画を題材とし、調査法や社会教育計画の分析を通して、情報を読み取り、考え、示すスキルのブラッシュ・アップを図ります。

【具体的な到達目標】

- 1) 提示された資料等の情報を正確に読み取り、考察し、改善案を提示することができる
- 2) 質問紙の設計と作成ができる
- 3) 社会教育計画を分析し、その問題点を析出して改善案を提示することができる

【授業の内容】

- 1) オリエンテーション (アカデミックスキルとは何か、社会教育計画とは何か。アカデミックスキルに関する診断的ポートフォリオの作成)
- 2) 社会教育調査の分析 1 (社会教育調査の概要を説明し、調査分析の始点を示す。講義)
- 3) 社会教育調査の分析 2 (既存の調査を分析し、問題点を析出する。個人ワーク)
- 4) 社会教育調査の分析 3 (調査の改善案を作成し、発表・相互評価を行う。グループワーク)
- 5) 社会教育調査の設計 1 (社会教育調査を設計する際に必要な検討点を概説する。講義)
- 6) 社会教育調査の設計 2 (調査目的を設定し、調査構造図の作成と調査項目の検討を行う。グループワーク)
- 7) 社会教育調査の設計 3 (作成した調査項目案に基づき、ワーディングや回答方法の決定などを行い、具体的な調査票を作成する。グループワーク)
- 8) 社会教育調査の設計 4 (作成した調査票を発表し、相互評価する。グループワーク)
- 9) 社会教育計画の概要 (社会教育計画の目的・構造等について概説する。講義)
- 10) 社会教育計画の分析 1 (既存の中長期社会教育計画を題材とし、計画の構造について評価を行う。個人ワーク)
- 11) 社会教育計画の分析 2 (既存の中長期社会教育計画を題材とし、計画文言について評価を行う。個人ワーク)
- 12) 社会教育計画の分析 3 (既存の単年度社会教育計画を題材とし、計画の構造について評価を行う。グループワーク)
- 13) 社会教育計画の分析 4 (既存の単年度社会教育計画を題材とし、計画文言について評価を行う。グループワーク)
- 14) まとめ (アカデミックスキルの展望。自分のアカデミックスキルに関する評価的ポートフォリオの作成と今後の学習計画の策定)

【時間外学習】

授業時間中に終わらない個人ワーク、グループワークは時間外学習となる。使用するテキストは概説にとどめるので、個人ワーク・グループワークでのパフォーマンスを向上させるためには時間外学習が必要である。

【教科書】

鈴木真理・清國祐二編著『社会教育計画の基礎』学文社、2004年。

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

個人ワーク、グループワークでの提出物により評価する。

【注意事項】

授業の多くの部分は演習となり、個人あるいはグループで積極的に課題に取り組むことが求められます。グループワークでは他のメンバーと積極的にコミュニケーションをとり、効果的にグループワークを進めることに貢献することが求められます。遅刻や私語には厳しく対応します。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
微分法と数学 (Differentiation and Mathematics)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

前・月

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	月2	大野 貴雄 内線 E-mail
【授業のねらい】 1変数関数の微分法について学びます。数学を勉強する場合の基礎の基礎である1変数の微分の計算能力を育成することを目指します。						
【具体的な到達目標】 1. 数列と数列の極限の意味を理解し、その計算ができる。 2. 様々な関数の性質・法則を理解し、そのグラフを描くことができる。 3. 関数の連続性の意味を理解するとともに、関数の連続、不連続の判定ができる。 4. 微分法の意味を理解し、具体的な関数の微分が計算できる。 5. 微分法を用いて関数の変化の状態を調べることができる。						
【授業の内容】 1. 実数と数列 2. 単調数列と有界数列 3. 有理関数と無理関数 4. 指数関数、対数関数と三角関数 5. 合成関数と逆関数 6. 逆関数のグラフと逆三角関数 7. 関数の極限と連続関数 8. 微分係数と導関数 9. 和、差、積、商の微分と合成関数の微分 10. 逆関数の微分と高階導関数 11. 平均値の定理 12. 関数の極値 13. 不定形の極限值 14. テイラーの定理 15. まとめ						
【時間外学習】 教科書にたくさん問題がありますので、自分で解答し、理解を深めておくこと。						
【教科書】 基礎数学研究会編「基礎微分積分学」東海大学出版会						
【参考書】 学習指導要領						
【成績評価の方法及び評価割合】 レポート40%、テスト60%						
【注意事項】 なし。						
【備考】 なし。						

授業科目名 (科目の英文名)
生命観の変遷 (History of Biological Science)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	月2	牧野治敏 内線 7607 E-mail: lifesci@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
現代の生物学を理解するための基礎的な考え方を身につけることが、本授業のねらいである。しかし、それらを受容批判に受け入れるのではなく、歴史的な経緯をふまえることで、現代科学をクリティカルに考えることもねらいとしている。

【具体的な到達目標】

- 1) 生物科学の歴史の概略が説明できる。
- 2) 科学の発展と宗教との関係を簡潔に説明できる。
- 3) ダーウィンの進化論と、それ以前の進化論との違いを示すことができる。
- 4) 生物学の歴史上、重要な人物をその業績と共に数人例示することができる。
- 5) 臓器移植の是非について、自分なりの考えを述べる事が出来る。

【授業の内容】

1. 命を考えることの意味 (本授業のオリエンテーション)
2. ギリシャの生命観1: 祈禱から治療へヒポクラテスの示した考え方
3. ギリシャの生命観2: アリストテレスによる生き物の記載
4. ローマの生命観3: ガレノスの考えた命の仕組み (生理学)
5. 中東の国々の自然科学: ギリシャ文化の伝承者たち
6. 新しい自然観: 画家たちによる人体の描写
7. 機械論的な生命観1: ベサリウス、ハーヴィの考え
8. 後成説と前成説: 生きものを形作る基はどこにあるのか (胚発生)
9. 自然発生説の否定: 生きものはどこから生まれるのか (パスツールの結論に至るまで)
10. 進化論I: ダーウィン以前の進化に関する考え方 (ビュフォン、ラマルクを例として)
11. 進化論II: ダーウィン、ウォレスの進化論とネオ・ダーウィニズムによる進化論
12. 分子生物学の成立: 分子による生命現象の記述
13. 遺伝子とDNA
14. 人類の進化: ホモ・サピエンスの位置づけ
15. 「操作できる生命」という考え方について: 臓器移植など

【時間外学習】

- 1) ギリシャ哲学についての基本的な事項を学習しておくこと
- 2) 予習よりも復習を重視する (資料はWebClass上に掲示する)
- 3) WebClassからの課題があります

【教科書】
特に定めない

【参考書】
外科学の歴史 (クロード・ダレーヌ、小林武夫ほか訳) 白水社、医学の歴史 (小川鼎三) 中公新書、裸のサル (デズモンド・モリス) 講談社、生物学の歴史 (チャールズ・シンガー; 西村顕治訳) 時空出版、改訂新版・脳死とは何か (竹内一夫) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験50%、授業中の課題30%、WebClassによる課題20%

【注意事項】
生物学を基本とする授業なので、提示資料には動物等の解剖図、写真等を使うときがあります。苦手な人は授業選択の際に注意してください。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
電気の世界II (Introduction to Electrical Engineering II)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

前・月

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	月2	大久保 利一 内線 7829 E-mail :
<p>【授業のねらい】 電気は現代社会において、幅広く用いられている。しかし、実際に目に見えるものでないので理解することが難しい。この講義では、電気の基本について学び基礎から応用を含めて、簡単なデモや最近の話題を含めて解説する。特に、電気の基本的な理解を重視して、幅広く多くのことを学ぶよりも基本を理解することに努める。応用では、電気と環境問題の関連について理解を深める。また、最新の電気技術のいくつかを取り上げて、解説する。また、自分でも調べることができるようになること。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 1. 電気の基本について理解をする。 2. 電気の応用技術について知識を得る。 3. 最新の電気技術について知識を得る。</p>						
<p>【授業の内容】 1. 講義内容の説明 2. 電気の発見と歴史 3. 電気とは 4. 電荷の発生と帯電列 5. 電気力と電気エネルギー 6. 電気が使われるのはなぜか？ 7. 電気回路の基礎I 8. 電気回路の基礎II 9. 電気回路の基礎II 10. 電気の応用技術 11. 環境問題と電気について 12. 最新の技術：静電気による環境浄化技術 13. 最新の技術：電子ペーパー 14. 最新の技術：エレクトロクロミックについて 15. 電気技術の今後について</p>						
<p>【時間外学習】 電気を用いた技術、製品及びその仕組みに関して普段から興味を持って調べておくこと。</p>						
<p>【教科書】 教科書は用いない。必要に応じ資料を配布する。</p>						
<p>【参考書】 講義の中で必要があれば参考書等を紹介する。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 出席2/3以上のものに対して成績評価を行う。レポート：60%、演習・小テスト：40%</p>						
<p>【注意事項】 出席及びレポートの提出に注意すること。</p>						
<p>【備考】 磁気及び磁力が関連する電気の分野に関する講義は、「電気の世界I」で行われる。この講義では、電荷や電流などに関する静電気の分野について講義を行う。</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
生活文化論 (Livelihood culture)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	月2	財津 庸子 内線 7601 E-mail: yzaitso@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
現在の消費生活の現状について、物質的豊かさをキーワードに戦後の消費モデルの変化をふまえて検討し、消費のあり方と幸福感について考える

【具体的な到達目標】
消費生活の現状について理解を深めることにより、自分自身の現在の生活をふりかえり、さらに今後ののぞましい生活のあり方を展望することができる

【授業の内容】

1. 戦後消費モデルの変化と幸福の物語
2. 幸福が見えれば消費が見える
3. 「自分を極める物語」の幸福と消費
4. 「社会に貢献する物語」の幸福と消費
5. 「人間関係のなかにある物語」の幸福と消費
6. 究極の消費としての仕事
7. つながりと幸福の弁証法的関係

【時間外学習】
自分自身の消費生活に関心をもつ
消費生活に関する情報に関心をもつ
時事問題に関心をもつ

【教科書】
山田昌弘＋電通チームハピネス「幸福の方程式ー新しい消費のカタチを探る」ディスカヴァー・トゥエンティワン 1000円

【参考書】
堀内圭子「＜快樂消費＞する社会」中公新書
三浦展「シンプル族の反乱」KKベストセラーズ
本田和子「変貌する子ども世界」中公新書

【成績評価の方法及び評価割合】
講義中のミニレポート (30%)
試験 (70%)

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
原子と分子 (Atoms and Molecules)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1年以上	教・経	前期	月4	飯尾 心 内 線 7959 E-mail : kokoro-i@cc.oita-u.ac.jp

前・月

【授業のねらい】

物質科学の基礎としての化学を、原子・分子という微視的観点から学ぶことによって、物質の成り立ちについての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】

原子構造の基本すなわち原子内に存在する電子の状態を知り、それらがどのようにしてイオン結合、金属結合、共有結合などをつくるかを知る。またその知識に基づいてイオン性物質、金属、共有結合性物質などの構造と性質を理解する。

【授業の内容】

講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。

第1～3週 ガイダンス、第1章 化学の基本 (物質の分類, 元素, 元素記号, 原子量)

第4週 第2章 単位と測定値の扱い (単位, 物理定数, 有効数字)

第5～8週 第3章 原子の構造と性質 (原子の構造, 原子スペクトル, ボーアのモデル, 電子の波動性, 軌道関数, 電子配置, 周期表)

第9～11週 第4章 原子から分子へ (共有結合, 混成軌道, π 結合, 配位結合, 電気陰性度, 分散力, 水素結合)

第12～13週 第5章 いろいろな結晶 (イオン結晶, 金属結晶, 共有結合結晶, 半導体)

中間試験 (試験時間30分程度。試験範囲: 第1～3章) を第3章が終わった翌々週に行う。

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「FRESHMAN化学」(学術図書出版社)

【参考書】

浅野 努, 荒川 剛, 菊川 清 共著「第4版 化学-物質・エネルギー・環境-」(学術図書出版社)

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「原子・分子から学ぶ化学の世界-基礎化学・エネルギー・環境-」

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート(30%), 中間試験(20%), 期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】

高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ、その講義内容および方針は高校までの化学と異なり、基本原理の理解に重点を置く。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で、期末試験も同一時間帯・同一問題で行う。人数のアンバランスを防ぐために、工学部1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが、工学部2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】

後期開講の「物質の状態と変化」を合わせて受講することを強く勧める。

授業科目名 (科目の英文名)						区分・分野・コア
学習ボランティア入門 (Introduction to Learning Volunteer)						全学共通科目 総合
必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	前期	火1	中川 忠宣 内線 7647 E-mail:msokada@cc.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 現代社会において少子高齢化が進む中、青少年の健全育成や団塊世代・高齢者の地域貢献などの活動の推進が、教育及び福祉等の分野において大きな課題とされ、家庭や学校、地域住民等の相互の連携・協力を通じた具体的な取り組みが推進されていますが、特にこの分野においては地域住民の積極的な関わりが求められています。そこで、こうした地域社会での活動について、自らが学んだ成果を、他の人々の学習や福祉活動に活用（支援・指導等）する学習ボランティアとして参加することを通して、地域社会への理解や自分自身のコミュニケーション能力・職業観などの学びを深めます。そのために、ボランティアに関する基礎知識と、自分が選んだボランティア活動体験を組み合わせ、ボランティアの意義について学びます。						
【具体的な到達目標】 1. 学習ボランティアの心得と社会的意義を説明できる。 2. ボランティア活動を通しての自分自身の変化や成長に気づき、ボランティア活動の大切さを説明できる。 3. 今後のボランティア活動に関する自分自身の考え方を述べるができる。						
【授業の内容】 1. 生涯学習社会の形成のための学習ボランティアの意義を考えよう 1 2. 生涯学習社会の形成のための学習ボランティアの意義を考えよう 2 3. 自分にとってのボランティアの意義とボランティアの心得を考えよう 4. ボランティア活動計画を作ろう 5～13：地域でのボランティア活動 ① 13時間以上のボランティア活動を行う ② 活動内容は、学校教育、社会教育、社会福祉の分野とする ③ 1～4の授業や時間外学習で計画した個人又はグループでの活動を自主的に行う ④ 活動報告書（別途様式）を作成する 14. ボランティア活動報告を整理しよう 15. ボランティア活動から学んだことを語り合おう						
【時間外学習】 ○県及び市町村等が主催する事業等の紹介を行うが、各自で自分にあった活動を見つけることが必要です。 ○実際のボランティア活動は時間の制限等は明確でない場合があるので、積極的な参加をして欲しい。						
【教科書】 ○特定の教科書は使用しない。適宜、資料を提示する。「学習ボランティアノート」を配布する。						
【参考書】 ○参考書は適宜紹介する。						
【成績評価の方法及び評価割合】 ① 「到達目標」に関する最終レポートによって、学習ボランティア経験によるボランティアの意義の理解や意識の変化を評価する。（50%） ② 活動報告書によって、ボランティア活動への積極的な参加度を評価する。（50%） ③ 特別な理由以外での授業への欠席は基本的に認めない。特別な理由の場合は別途課題を与える。						
【注意事項】 ○活動に関する条件（傷害保険等）をしっかりと把握し、自分の責任とならない活動を計画してください。 ○報償費を受けるもの（アルバイト的）は除きますが、交通費や食事代等は必要経費なので受領しても可です。						
【備考】						

授業科目名 (科目の英文名)

企業と労働
(Enterprises and Labour)

区分・分野・コア

全学共通科目
社会

前・火

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	前期	火1	幸 光善 内 線 7712 E-mail:
<p>【授業のねらい】 現代社会において企業は大きな地位・役割を占めている。とりわけわが国の場合、企業社会と言われるほど経済、政治、社会などに与える影響は多大である。本講義のねらいは、こうした企業の重要性に鑑み、企業の全体構造とその機能、企業と我々の労働生活との関わりを明らかにすることにある。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 企業はどのような形態をとって現れるのか、どのような原理によって支配され行動しているのか、企業の支配構造はどのような仕組みになっているのかなど、企業そのものの理解を深めることができる。さらに、企業活動の基本的枠組みをなす購買、生産、販売の諸過程やヒト、モノ、カネの諸要素の流れがどのように結合して経営管理が行われるのか、アメリカにおける経営管理の生成・発展はどのような形で現れたのか、わが国の経営管理はどのようなものであったのかを、とりわけその生産・労働に関わる歴史的内容を理解することができる。</p>						
<p>【授業の内容】 1. 商品生産と企業形態 2. 企業の基本的目的と諸活動 3. 企業の支配構造 4. 経営管理の生成・発展 5. 経営管理の諸領域</p>						
<p>【時間外学習】 最初の授業で、学習に必要な参考文献や辞典などを紹介する。</p>						
<p>【教科書】 教科書は使用しない。プリントを配布する。</p>						
<p>【参考書】 講義の中で紹介する。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 期末試験で評価する。</p>						
<p>【注意事項】 オフィスアワーは火曜日昼休み</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
建築構造工学 (Structural Engineering)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	前期	火1	井上(工)/佐藤[嘉](工)/菊池(工)/大谷(工) 内 線 7936(事務室) E-mail:kenchiku@arch.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

本授業は、建築学における構造・材料系分野の立場から、建築について学習しようとするものである。建築物はその使用性や安全性に関して目標性能を確保できるよう、耐用年限中に建物に作用する各種の荷重や建物の環境条件を考慮して設計・施工されなければならない。たとえば、世界有数の地震国である我が国では、地震に対して建物が安全であるように設計することが重要である。また、21世紀は地球環境問題の深刻化に対応して、建設資源の有効活用やリサイクルの推進、既存建築物の改修による持続使用、耐久性に富む建築物の建設などが求められている。本授業では、これらのことを話題に取り入れながら、建築構造設計や材料・施工の基礎から最新技術まで学習する。

【具体的な到達目標】

次の事項について理解し、安全な町づくりや持続可能な建築の重要性をしっかりと認識する。建築形態と構造の概要/地震による建築物の被害とその教訓/安全な住まいづくり/構造設計の概要/身近な建築物の構造と防災対策/耐震診断と耐震補強の概要/主要な建築材料の力学的特性と耐久性/建設廃材のリサイクル/

【授業の内容】

1. 本授業の概要と位置づけ
2. 地球環境と木材利用
3. 木造建築物の紹介(1)
4. 木造建築物の紹介(2)
5. 建築構造設計の流れ、建築形態と構造
6. 建築物の地震被害とその教訓、既存建築物の耐震診断と耐震補強
7. 身近な構造物の耐震性と防災対策
8. 主要な建築材料の力学的特性と耐久性(1)
9. 主要な建築材料の力学的特性と耐久性(2)
10. 住宅の建設から解体まで
11. 機能性材料
12. 建設廃材のリサイクル
13. コンクリート構造物の耐久性診断 - 補修・補強技術の現状 - (1)
14. コンクリート構造物の耐久性診断 - 補修・補強技術の現状 - (2)

【時間外学習】

小テストやレポートを多く課す。これらは期末試験に代わるものであり、各担当教員の指示に従い十分準備しておくこと。

【教科書】

使用せず、必要に応じ講義資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点(出席・他)40%, 課題レポート60%

【注意事項】

遅刻、欠席、私語や居眠り等の受講態度を厳しくチェックし成績評価に反映させる。
毎回のレポート、課題レポートの成績次第では、毎回出席していても単位取得に至らない場合もあります。
本講義は建築学を専攻としない学科/学部の学生を対象としており、工学部福祉環境工学科建築コースの学生は受講できない。
「建築入門」を履修した者は受講できない。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
建築環境計画 (Environmental Design)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	前期	火1	佐藤[誠] (工) / 大鶴 (工) / 真鍋 (工) / 鈴木 (工) / 小林 (工) / 富来 (工) / 姫野 (工) 内線 7936(事務室) E-mail: kenchiku@arch.oita-u.ac.jp

前・火

【授業のねらい】

建築学は、人類の福祉のために、学術・技術・芸術の結晶たる建築・都市環境の創造とそれらの持続可能な発展を目指している。ここでは、建築環境工学と計画学の立場から以下の3項を目標とする。

1. 建築と生活環境、都市と地球環境との関係性及び重要性を理解する。
2. 建築と都市の背後にある理論や理念、技術、歴史などを知り、理解する力を培う。
3. 建築の専門家でない市民として、生活価値を高めると共に安全で快適な社会を創造していく上で必要とされる基礎知識と考える力を培う。

【具体的な到達目標】

1. 都市や建築空間における室内音響と騒音振動問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。
2. 都市や建築空間における光・熱環境に関わる問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。
3. 都市や建築空間における空気環境に関わる問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。
4. 都市計画に関わる問題の科学的理解と解決へ向けた議論の展開。
5. 建築計画学的観点 (=人間と空間と時間の相互関係) から、生活・居住環境の基礎的知識を修得する。

【授業の内容】

1. 本授業の概要と位置づけ
2. 建築は凍れる音楽か?
(1) 建築学の体系と建築環境工学の位置づけ、建築音響学の歴史と基礎理論
3. 建築は凍れる音楽か?
(2) 室内音響理論の概要と音響設計例、現状と課題、まとめテスト
4. 建築・都市における騒音問題
測定、評価、関連法規の理解
5. 建築・都市における騒音問題
環境基準の理解、現状と課題、まとめテスト
6. 建築の熱環境: 人体が感じる快・不快という観点から、熱環境評価手法について学ぶ
7. 建築の光環境: 自然光・人工光源の役割や照明と建築の関係の理解
8. 近代都市計画のはじまり (産業革命、都市計画家と理想都市)
9. 現代都市と都市デザインについて
10. 都市・地域環境が創り出す景観論
11. 都市景観と歴史的環境、まとめテスト
12. 生活環境論 (身の回りの生活環境について、福祉的な観点を含め概説する。) レポート課題提示
13. 住居論 (人間生活の最も基本といえる住居についての史的変遷と現代の問題点を概説する)
14. 建築と都市

【時間外学習】

それぞれの「まとめテスト」あるいは「レポート」は期末試験に代わるものである。各担当教官の指示に従い十分準備しておくこと。

【教科書】

使用せず、必要に応じ講義資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点40%, 課題レポート60%

【注意事項】

遅刻、欠席、私語や居眠り等の受講態度を厳しくチェックし成績評価に反映させる。
毎回のレポート、課題レポートの成績次第では、毎回出席していても単位取得に至らない場合もあります。
本講義は建築学を専攻としない学科/学部の学生を対象としており、工学部福祉環境工学科建築コースの学生は受講できない。
「建築入門」を履修した者は受講できない。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
地域の住まい学習 (Learning on Community-based Housing)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	前期	火1	久保 加津代 内線 7608 E-mail:kkubo@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

持続可能な社会をめざして、地域の気候・風土に根ざした住まい・まちづくりの重要性が指摘されている。住まい・まちづくりへの、地域の人々の主体的な参加がますます重要になっている。学校と、地域の人々と、自治体と、専門家の協働による、多様な住まい・まちづくり学習の実践が広がりはじめている。映像を活用しながら、各地の多様な実践に学び、地域に根ざした住まいづくり・住まい学習のあり方を具体的に考えていく。

地域に根ざした住まいづくり・住まい学習に主体的にかかわろうとする意欲に富んだ学生の受講を希望する。

【具体的な到達目標】

1. 地域の気候・風土に根ざしたサステイナブルな住まい・まちづくりの意義がわかる。
2. 地域の人々の主体的な住まいづくり・まちづくりへの参加の意義がわかる。
3. 学校・地域住民・自治体・専門家の協働による住まい学習の広がりを実感する。

【授業の内容】

1. はじめに
2. 地域の住まいづくりと住まい学習
3. HOPE計画, 住宅マスタープラン, 住生活基本計画にみる住教育
4. 住教育ワークショップ・地域点検マップづくり・住情報交流拠点
5. 学校・自治体・地域による協働の住まい学習
6. サステイナブル居住・環境共生と住まい学習
7. 高齢居住と住まい学習
8. まちなか居住と郊外住宅地
9. 家庭科教育と住まい学習
10. 総合学習と住まい学習
11. 学校と地域とをつなぐシステムづくり
12. 伝統的まちなみと住まい学習
13. 博物館・体験型施設と住まい学習
14. これからの住まい学習
15. まとめ

【時間外学習】

- 1) 参考書のなかから関心のある実践例をとりあげ、①この実践から学んだところ (約1000字), ②こうするとさらにより実践になる提案 (約1000字) について, レポートを作成する。
- 2) 各自の居住地または出身地における住まいづくり・住まい学習について2000字程度のレポートを作成する。

【教科書】

国土交通省『住まいから始める地域・まちづくり2006』『住まいから始める地域・まちづくり2007』『住まいから始める地域・まちづくり2008』『住まいから始める地域・まちづくり2009』などから抜粋して資料を作成して配布する。

【参考書】

地域の住まい学習研究会編(2006)『地域の住まい学習』ドメス出版, ¥2000+税

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験30%, 随時実施する小テスト20%, レポート30%, 平常時の学習態度20%

【注意事項】

とくになし

【備考】

とくになし

授業科目名 (科目の英文名)
スポーツと生活 (Sports and Life)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経 ・医・工	前期	水1	前田 寛, 岡内 優明 内線 7720 E-mail:hmaeda@cc.oita-u.ac.jp

前・水

【授業のねらい】

現代の私たちの日常生活では、特別に運動やスポーツを行わない限り、極端に身体活動が少なくなっている。また、社会生活においては仕事上のストレスや複雑な人間関係から来るストレスを乗り越えていかなければならない。近年、スポーツは多様化し競技スポーツだけでなくレクリエーションスポーツやアウトドアスポーツが広がっている。スポーツを行う効果として、ストレスの解消、生活習慣病予防、さらに円滑な人間関係の形成、自然環境への理解等が考えられる。スポーツを生活の中に取り入れることは、生活を豊かにし心身の健康を向上するために有用である。

本講義はスポーツや健康を多角的に捉えるとともに、スポーツを生活の中にとり入れる必要性とその方法等を中心課題とする。

【具体的な到達目標】

スポーツや身体運動を行うことの有用性やその効果を理解し、各自の生活の中で活かせるようになること。

【授業の内容】

- 1) ガイダンス, 地球環境とライフスタイル
- 2) 競技スポーツからアウトドアスポーツへ
- 3) グリーンツーリズム, 自分の森を作ろう
- 4) 自転車のある生活
- 5) 豊かさとは・先住民族の暮らし
- 6) 寝たきり老人を減らせ, アメリカのヘルシーピープル計画
- 7) カヌーと太平洋文化, 地域の特性と自然派スポーツ活動
- 8) 現代の生活と健康
- 9) 筋肉
- 10) 運動で体脂肪を燃焼させる
- 11) 運動と栄養
- 12) 体力トレーニングの理論と実際
- 13) 老化と体力
- 14) 食事と健康

【時間外学習】

【教科書】

適宜資料を配付

【参考書】

前田 寛 他 自転車と健康 (1999) 東京電機大学出版

【成績評価の方法及び評価割合】

小テスト60%・レポート等40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
数理の世界 (The World of mathematical Sciences)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水1	末竹 千博 内線 7961 E-mail

【授業のねらい】

整数は、人間の歴史が始まって以来もっとも身近で親しみのある数であり、数学に興味を持ってもらうための格好の材料を提供している。整数の研究は数学の様々な分野で多くの数学的概念を生み出した。近年では、素因数分解の困難性を利用した暗号理論、また有限体上のベクトル空間と関係した誤り訂正符号理論などのコンピュータ科学にも広く応用されている。整数の様々なタイプの計算をすることにより数学的な考え方を紹介したい。

【具体的な到達目標】

合同式に慣れてもらうのが目標である。数学では、それぞれの分野で興味が異なる。興味を特定して、それだけに集中し、関係のないところは見ない。合同式を扱うことによりそれを実感してもらう。

【授業の内容】

- 1～3. 自然数, 素数の性質
- 4～5. 1次不定方程式
- 6～7. 連分数
- 8～9. 合同
- 10～11. 合同式の解法
- 12～14. 指数, 原始根, 標数
15. 試験

【時間外学習】

練習問題を出すので必ず自分で解いてみること。

【教科書】

指定しない。

【参考書】

数論入門 北村泰一(著) 槇書店, 整数論入門 ヴィノグラードフ(著) 共立書店

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験 60%, 平常点出席・レポートなど 40%

【注意事項】

各授業時間に必ずノートをとること。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
ゲーム理論と社会 (Game Theory and Society)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水1	下田 憲雄 内線 7683 E-mail:nshimoda@ees.ec.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 社会の制度や慣習などをゲーム理論という手段を用いて見つめ直してみましよう。						
【具体的な到達目標】 1. 基礎的なゲーム理論の理解 2. 社会制度、慣習への考察						
【授業の内容】 1. ゲーム理論と社会という枠組みについて 2. 数学的準備 3. ゲーム理論の準備・・・ゲームの定義、表現、不確実性 4. ゲーム理論からの話題I・・・協力ゲームと非協力ゲーム 5. ゲーム理論からの話題II・・・繰り返しゲームと情報 6. ゲーム理論からの話題III・・・進化ゲーム 7. 社会制度・経済制度をモデル分析的に考えるとは？ 8. 社会・経済の制度事例の考察 9. 競争社会を考える・・・経済システムI 10. 競争社会を考える・・・経済システムII 11. 政府と経済制度 12. コミュニケーションを制度的に考えるI 13. コミュニケーションを制度的に考えるII 14. 社会の進化を考える						
【時間外学習】 社会に目をむけ考える習慣をつける						
【教科書】 資料を配付する						
【参考書】 松井彰彦『慣習と規範の経済学』 岩井克人『ヴェニス商人の資本論』 武藤滋夫『ゲーム理論入門』						
【成績評価の方法及び評価割合】 レポート (30%) と 学期末試験 (70%)						
【注意事項】						
【備考】						

授業科目名 (科目の英文名)
情報科学の世界 (Introduction to Information Science)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・医・ 工	前	水 1	伊藤哲郎 内線 7868 E-mail: ito@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
我々の周りにはさまざまな情報が渦巻いている。これらの情報は、数値や文字であったり、音声や画像で表現されたりとその形態が一樣ではない。また、その内容も広範囲で多岐に渡っている。情報科学は情報を取り扱うときの基礎となる理論の体系であり、20世紀後半に生まれた新しい科学である。
この講義では、我々の身近にある情報を取り上げ、その特徴ならびに使い方にかかわる基礎的な考え方を紹介する。さらに、コンピュータによる情報処理についても言及する。

【具体的な到達目標】
情報科学における考え方には、多くの視点のあることが分かる。
情報科学の基礎となる数学的な考え方について学ぶことができる：確率、統計など。
情報科学・情報技術の応用について知ることができる：WWW、電子図書館、パターン認識など。

【授業の内容】

1) 情報科学とは	
2) データのばらつきを科学する	- 確率と分布 -
3) 意思決定のための情報を作り出す	- データ解析の技術 -
4) 情報洪水に溺れないように	- WWWとインターネット -
5) 知識から情報へ	- 図書館と電子図書館 -
6) 情報の主たる担い手：言葉を解剖する	- 自然言語処理 -
7) 計算機はどこまで知的になれるか	- 人工知能 -
8) 百聞は一見に如かず	- 画像処理とパターン認識 -

【時間外学習】
課題レポート等 (各担当教員の指示による)。

【教科書】
教科書は用いない。適宜、参考資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】
各担当教員によるレポート・小テストの評価を集計することにより評価を行う。

【注意事項】
工学部知能情報システム工学科の学生は受講不可。

【備考】

- ・藤田米春(工), 末田直道(工), 越智義道(工), 中島 誠(工), 原 恭彦(工), 行天啓二(工)もあわせて担当する。
- ・すでに全学共通科目の「情報科学概論」あるいは「情報科学入門」の単位を取得している学生は、本科目を受講することはできない。

授業科目名 (科目の英文名)
現代社会と企業 (What is the KAISYA ?)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教、経、医 工	前期	水1	松尾 純廣 内線 7702 E-mail: vematsuo@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

「会社のしくみ」を理解することにより自分の「キャリア」について考えるための参考となることをねらいとしている。

【具体的な到達目標】

- ・会社のしくみを理解する。
- ・会社のマネジメントのしくみを理解する。
- ・これからの会社のあり方について考える。

【授業の内容】

- ・企業の成長とマネジメントのしくみ～これからの会社について考える～
 - ・講義のテーマは以下の5つです。各テーマにつき2～3回の講義を行います。
1. 「企業」のコンセプトと企業成長
 2. ビッグビジネスのマネジメント
 3. ベンチャービジネスのマネジメント
 4. 21世紀のビジネス
 5. スモールカンパニーについて考える。

【時間外学習】

普段に新聞などに目を通して、会社の変化について関心をもっておくこと。

【教科書】

教科書は特に指定しないが、下記参考書は講義の理解にかなり役立つと考えている。

【参考書】

日本経済新聞社編『一目でわかる会社のしくみ』

【成績評価の方法及び評価割合】

学期末試験により評価。100%。

【注意事項】

授業内容は「経済学部以外の学生」を主として想定している。そうした学生に「会社」がどういうものかを理解してもらうようわかりやすく解説するつもりである。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
日本経済入門 (Introduction to Japanese Economy)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教、経、医、 工	前期	水1	村山 悠 内線 E-mail

【授業のねらい】

現在の日本経済は、景気低迷、少子高齢化、雇用問題、環境問題など、さまざまな問題を抱えている。本講義では、これらの問題を取り上げ、どのような解決策が必要であるかを説明する。

【具体的な到達目標】

講義を通して、日本経済について関心を持ってもらい、日々変化し続ける日本経済を自身で分析できるようになってもらいたい。

【授業の内容】

1. イントロダクション
2. 日本経済の現状
3. 景気
4. 新成長の設計
5. 物価と市場経済
6. 人口減少時代の財政
7. 金融
8. 国際経済と日本の貿易
9. 前半のまとめ
10. グローバリゼーション下の円
11. 産業構造
12. 雇用問題
13. 環境問題
14. 環境立国への道
15. 後半のまとめ

【時間外学習】

日本経済新聞等を読むこと。

【教科書】

『ゼミナール日本経済入門<改訂版>』 三橋規宏、内田茂男、池田吉紀著 日本経済新聞出版社 2009

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

宿題 (30%)、期末試験 (70%) により総合的に評価する。

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
企業会計のしくみ (Financial Accounting)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水2	桃田龍三 内線 7691 E-mail

前・水

【授業のねらい】

「会計ビックバン (大改革)」という言葉を知っていますか。この具体的な内容は、個別決算報告書中心、原価・実現主義の会計から、連結決算報告書 (グループ経営決算報告書) 中心、時価・発生主義の会計への大回転を意味しています。この会計ビックバンが脚光を浴びるようになった理由は2つあります。まず第1は、経済・資本市場のボーダレス化や多国籍企業の増大等を背景として、世界的な秩序づくりの一環をなす国際会計基準-世界的に統一した企業会計のルールに対応しているということです。第2は、フリー、フェア、グローバルの3原則を目標とした日本版金融ビックバン (大改革) の一環をなしているということです。本講義では、会計ビックバンの内容を少しでも理解できるように、企業会計のしくみをやさしく解説します。これにより、現在の企業会計制度 (ルール) がどのようなものであり、また、将来においてどのように変化しようとしているのかを、展望してみたいと思います。

【具体的な到達目標】

最初の1~4回は、企業会計の基礎の基礎として、入門レベルの複式簿記 (日本商工会議所主催の商業簿記検定試験3級程度) を平易に解説します (プリント配布)。これにより、複式簿記の入門程度は理解できるものと思います。また、5~15回は、企業会計の基礎的な内容と最近の会計ビックバンの内容を解説しますので、わが国の企業会計の動向が理解できるものと思われます。

【授業の内容】

1. 企業会計の基礎の基礎である入門レベルの複式簿記のしくみを解説 (1~4回)
2. 企業会計の基本的しくみを解説 (5~12回)
3. わが国における会計ビックバンの内容を解説 (13~15回)

【時間外学習】

1~4回は、入門レベルの複式簿記をしますので、練習問題 (解答付) のプリントを配布し、つぎの講義までにしてきてください。
5~15回は企業会計の講義をしますので、レポート (1回) の提出を求めます。

【教科書】

未定

【参考書】

適時、紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験 (持込可) 60~70%、レポート30~40%。

【注意事項】

近年、わが国においては、国、地方の公的組織および国立大学が複式簿記を導入しつつあり、社会において、簿記・会計は重要なインフラになりつつあります。この講義では、複式簿記の知識は全く必要ありませんが、電卓を用意しておいてください。

【備考】

最初の複式簿記の講義に関しては、プリントを配布します。

授業科目名 (科目の英文名)
資本市場論 (Introduction to Capital Markets)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経 ・医・工	前期	水2	金 珍奎 内線 7690 E-mail
【授業のねらい】 資本市場とは何か、私たちとはどういう関係にあるのかについて学習する。						
【具体的な到達目標】 1. 資本市場の動きを読み取ること。 2. 証券投資がなぜ必要なかを理解すること。 3. 難しい専門用語に慣れること。						
【授業の内容】 1. ガイダンス 2. 金融証券の基礎知識 3. 金融市場の変遷 4. 証券について 5. 株式について 6. 債券について 7. 証券市場の仕組みについて 8. 投資信託とは何か 9. 証券会社について 10. 資産運用について 11. 総まとめ						
【時間外学習】 日本経済新聞を読むこと。						
【教科書】 日本証券業協会証券教育広報センター『新証券市場』中央経済社、最新版						
【参考書】 毎回資料を配布する。						
【成績評価の方法及び評価割合】 テスト (90%)、レポート (10%)						
【注意事項】 経済学部の証券論履修者および履修済み以外のものを受講対象にする。 出席は75%以上が必要。						
【備考】 レポートは5000字程度のものを提出してもらう。						

前・水

授業科目名 (科目の英文名)
現代天文学とSETI (Astronomy and SETI)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水2	仲野 誠 内線 7572 E-mail: mnakano@cc.oita-u.ac.jp

前・水

【授業のねらい】

宇宙を舞台に天体と生命としての人間との関係を理解するために、現代天文学を生命とからめて講義する。宇宙に存在する天体の階層構造とそのスケール、そしてその多様性についての理解を深めてもらうための天文学への導入部としたい。似非科学ではないSETI (地球外知的文明の探査)を手がかりに、その観点を広げてゆく予定である。

【具体的な到達目標】

- (1) SETI の考え方の中心となったドレークの式、現在行われている探査方法などが理解できる。また、地球の進化や生命の誕生の概要についてもふれることができる。
- (2) 地球を理解する上で必要な物理学的概念、および我々の太陽系内の他の惑星との比較、および最近発見されつつある太陽系以外の惑星系についての概観が得られる。
- (3) 自然の核融合反応によって絶妙のバランスで輝いている太陽の現代における描像、太陽を典型例とする一般の恒星および恒星の誕生、進化、およびその終末という順で理解を進めてゆくことができる。

【授業の内容】

- 1 SETIとは? (宇宙人はいるか?)
- 2 太陽系とボイジャー
- 3 地球の歴史
- 4 SETIの歴史
- 5 ドレークの式とは?
- 6 ドレークの式 銀河と星
- 7 ドレークの式 惑星と生命
- 8 ドレークの式 進化と社会
- 9 SETIへの道
- 10 我々の近くには? (太陽系の中における生命の可能性)
- 11 火星以外の候補は?
- 12 生命のエネルギー源 (母なる太陽と恒星の世界)
- 13 恒星
- 14 恒星の進化とその終末
- 15 まとめ

【時間外学習】

教科書の関連ページや問題等には十分目を通しておいておく。新聞やテレビ等にも注意を払ってもらいたい。e-Learning (WebClass) の利用は必須とする。なお、随時天体観測も実施する。

【教科書】

「新版・100 億年を翔ける宇宙」 加藤万里子著 恒星社
上で指定している教科書は天文学一般に関するものである。講義の内容は必ずしもその順序に沿ったものではないことには注意してほしい。

【参考書】

よくわかる宇宙の基本と仕組み (秀和システム)、地球外生命 (講談社新書)、人類の住む宇宙 (日本評論社)、最新宇宙学 (裳華房)、生命の星エウロパ (NHK出版)、望遠鏡でさがす宇宙人 (旬報社) など。そのつど紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

毎回、講義内容と関連した質問用紙に記入を求める。未提出3回の時点で受講資格は取り消す。適宜小テストやレポート等も課す。これらの平常点 (40%) と持ち込み不可の期末試験 (60%) と総合して最終的に評価する。

【注意事項】

受講者数は150名以下に制限する。

【備考】

高校での地学の履修は前提としない。

授業科目名 (科目の英文名)
エレクトロニクスの世界I (Introduction to Electronics I)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・医	前期	水2	益子洋治/古賀正文/工藤孝人 内線 7844 E-mail:mashiko@eee.oita-u.ac.jp (益子)

【授業のねらい】

急速に情報化が進む現代社会においては、文系・理系を問わず、エレクトロニクスに関連した様々な知識を必要とする機会が増えている。この講義では、エレクトロニクスの基礎から応用にわたる3つの分野（半導体集積回路、光通信、電磁波）を取り上げ、簡単なデモや最近の話題を交えて解説する。なお、後学期に開講される「エレクトロニクスの世界II」と併せて受講すれば、エレクトロニクスの幅広い分野を概観するのに効果的である。

【具体的な到達目標】

- (1) 上に示した3つのエレクトロニクス分野で用いられている理論や技術について、それらの基本概念や原理、構造や仕組みなどの知識を深める。
- (2) 3つのエレクトロニクス分野と現代生活との関係、およびその問題点を探り、各分野の理論や技術に対して我々はどのように向き合えばよいのか、ということを考えていくための素養を身につける。

【授業の内容】

第1部（第1週～第5週）「LSI技術と応用」（益子洋治）

LSI（半導体集積回路）は、携帯電話、デジタル家電をはじめ、今やあらゆる分野に用いられ、我々の生活を変えていく基礎部分にもなっている。この講義では、LSIの製造技術、構造、機能そして応用までを、現在取り組まれている最先端技術を含めて解説する。

第2部（第6週～第10週）「光と通信」（古賀正文）

世界中の情報を瞬時に捕捉可能にしているインターネットは、光ファイバ通信ネットワークの上に築かれている。この講義では、光ファイバの発明によって可能になった“光”による大容量通信技術を解説し、それが可能にしているインターネットの“光と影”について考える。

第3部（第11週～第14週）「電磁波の基礎」（工藤孝人）

通信、放送、医療、加工、探査など、様々な分野で電磁波は現代生活を支えている。この講義では、電磁波の歴史を振り返るとともに、電磁波を利用したいいくつかの科学技術について、その基本概念や原理について解説する。

【時間外学習】

宿題を課すことがある（詳細については、各部毎に、講義時に指示する）。また、新聞、TV、インターネットなどをできる限り活用して、講義内容に関連した記事や情報の収集・整理に努め、常日頃からエレクトロニクスに関心を持つように心がけること。

【教科書】

使用しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考書】

各部毎に、講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

各週の講義時に行う演習、または、各部の講義終了時に実施する小テスト・小論文：100%
成績評価は各部毎に実施し、最終評価は各部毎の評価を総合して行う。なお、各部毎に講義回数の3分の2以上出席しなければ、評価対象としない。

【注意事項】

講義は主にPowerPointのスライドと板書による。疑問点があれば、積極的に質問すること。

【備考】

工学部の学生については、自主的に聴講しても構わないが、成績評価は行わない。

授業科目名 (科目の英文名)
福祉と工学技術 (Technology of Helping People with Special Needs)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水2	池内秀隆 内線 7944 E-mail: hikeuchi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

高齢社会の到来とともに、福祉に関する取り組みが重要性を増し注目されています。この講義では福祉をキーワードとした工学技術・電子情報製品・機械製品に関する話題を提供し、これらへの理解を深めるとともに、工学的解析の役割や重要性を認識し、産業や制度・政策との関連についても言及することをねらいとしています。

バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉を見かけることが増えました。これらの考え方や知らないうちに身近に応用されている福祉的工学技術を紹介し理解を深めます。また、このような分野の話題を理解するために必要な用語や分野の内容、研究概要なども紹介します。さらに、障害者や高齢者の生活を支援する機器や支援技術(Assistive Technology)について学びます。これらを普及していくために産業や制度・政策に関連する項目も紹介します。

【具体的な到達目標】

- ・福祉に関する支援技術の重要性について理解を深めること
- ・福祉機器・介護機器について理解を深めること。
- ・福祉機器や介護機器の市場・利用法についての問題点を理解し、今後の方向性について考察することができること。
- ・福祉工学・リハビリテーション工学など新しい分野についての概要を理解すること。

【授業の内容】

次のような項目に関して講義を行います。

1. 障害とは何か：障害の種類、障害に対する誤解など
2. 福祉と工学：福祉工学とはなにか、福祉工学の歴史や現状
3. 身近な福祉関連技術

バリアフリー・ユニバーサルデザイン・共用品・情報機器アクセシビリティ・Webアクセシビリティなど

4. 障害と福祉機器

福祉機器とその市場、視覚障害に関する機器、言語障害・聴覚障害に関する機器、義肢装具、車いす、福祉車両、杖・歩行器、自助具、コミュニケーション機器、介護ロボット、知的障害や記憶・認知障害に関する道具や工夫

5. まとめ

【時間外学習】

資料を基に予習をしてきてください。

【教科書】

適宜、資料を配ります。

【参考書】

バリアフリーのための福祉技術入門、足立芳寛、後藤芳一、オーム社

福祉情報技術1、e-AT利用促進協会、ローカス

「誰でも社会」へーデジタル社会のユニバーサルデザインー、関根千佳、岩波書店

<http://www.kyoyohin.org>

ほか

【成績評価の方法及び評価割合】

筆記試験による評価を行う。

【注意事項】

「福祉と技術」を受講(単位取得)した者は、受講できません。重複履修となりますので、注意してください。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
医療人間科学 (Medical Human Science)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2, 3, 4年	教・経・工	前期	水2	西 英久, 上野 徳美, 林 智一 内線 E-mail:nishihi@med.oita-u.ac.jp : ueno@~ : thayashi@~

【授業のねらい】

今日、全人的医療が医療におけるキーワードのひとつとなっている。そのため、倫理学や心理学、行動科学の視点がその重要性を増している現状である。これは医療ソーシャルワーカー、病院心理療法士などコメディカル職の教養・基礎教育においても同様である。さらに、みずからの健康の維持増進のために、いかに医療に主体的に関わるかという問題もまた、一市民としてのわれわれが直面するテーマである。

そこで本科目では、医療者の倫理観の醸成、コミュニケーション能力の向上や患者の心理・社会面への配慮など、全人的医療に向けた人間教育を目的とし、医療人間科学の今日の問題について概説する。

【具体的な到達目標】

- (1) 生命倫理学の諸問題を個々の問題として理解するだけでなく、全体的でグローバル問題としても理解していく。
- (2) 医学・医療を相対化・客体化するための多様な人間理解の視点を習得し、人間性を涵養する。
- (3) 患者・家族・同僚とのコミュニケーション能力の向上を図る。さらに、患者の心理や行動、社会的背景をよく理解し、全人的医療やチームアプローチが実践できるようにする。

【授業の内容】

- (1) 生命倫理学・人間とは何か
- (2) インフォームド・コンセント
- (3) 移植医療と人工妊娠中絶
- (4) 安楽死と尊厳死
- (5) 生命倫理学分野のまとめ
- (6) 医療における学際的チーム・アプローチ
- (7) 生きること、死ぬこと、そして看取ること
- (8) 映画『マイ・ガール』にみる死別と対象喪失、喪の仕事 1
- (9) 映画『マイ・ガール』にみる死別と対象喪失、喪の仕事 2
- (10) 臨床心理学分野のまとめ
- (11) 健康とは、病いとは
- (12) 患者の不安・ストレスと心理的サポート 1
- (13) 患者の不安・ストレスと心理的サポート 2
- (14) 医療・ケアのためのコミュニケーション
- (15) 臨床社会心理学分野のまとめ

【時間外学習】

配布プリントを読んでおくこと。

【教科書】

【参考書】

西 英久著 『新版・生命倫理の基礎づけ』 杉山書店
 上野徳美・久田 満編 『医療現場のコミュニケーション』 あいり出版
 P.ブル著 (高橋 超編訳) 『しぐさの社会心理学』 北大路書房
 ノートハウス & ノートハウス 著 (信友・萩原 訳) 『ヘルス・コミュニケーション』 九州大学出版会

【成績評価の方法及び評価割合】

小テスト、レポート、発表、出席状況、受講態度などをもとに、総合的かつ厳格に評価する。なお、テスト時の参考書、ノート等の持ち込みは禁ずる。

【注意事項】

本科目は、倫理学、心理学の応用領域あるいは学際領域と位置づけられる。アドバンスド・コース的な科目の性質上、対象学年は2年次以上であり、概論としての倫理学（哲学でも可）、心理学を、ともに履修済み（単位修得済み）であることが受講条件である。

【備考】

講義室の割り当て等によって万が一、視聴覚機器が使用できなかった場合、たいへん遺憾ながら授業内容を一部、変更せざるをえない。その旨、了解したうえで受講してもらいたい。

授業科目名 (科目の英文名)
環境の化学 (Chemistry of environment)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水2	飯尾心／他 内線 7959 E-mail
<p>【授業のねらい】 二酸化炭素による地球温暖化，ダイオキシン，環境ホルモン等による環境汚染は，重要な社会問題となっており，人類の存在を脅かしている。このため，国の科学技術基本計画の中にも環境およびエネルギー問題は，解決すべき重要課題として取り上げられ，それらは，これまでの地域の問題から，国家あるいは地球規模と言ったように，国際的に取り組むことが必要となってきた。本講座では，循環型社会形成に貢献する科学技術の紹介と，物質循環のコンセプトとしてのゼロエミッションについて解説する。さらに，最も大切なエネルギー源である石油について，エネルギーおよび環境面から解説するとともに，汚染された水，大気環境浄化に用いられる材料についても解説する。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 循環型社会の構築，世界のエネルギー事情，環境問題の課題，環境浄化を可能にする材料について理解できること。</p>						
<p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な社会の構築 2. 水の環境 3. 大気環境 4. 電力エネルギー 5. 国際石油情勢と世界の石油開発 6. 環境に寄与する石油精製技術(クリーン石油製品の出来るまで)- 7. 21世紀のエネルギーを考える- エネルギー新世紀における石油の役割- 8. 最近の自動車用燃料油の改良と排出ガス対策技術 9. 環境と潤滑油- 自動車用潤滑油の改良- 10. 石油と地球環境問題- 二酸化炭素問題について- 11. 循環型社会と技術 12. 廃棄物のリサイクル 13. ゼロエミッション 						
<p>【時間外学習】 復習を必ず行うこと</p>						
<p>【教科書】 なし，適宜プリントを配布</p>						
<p>【参考書】 暮らしの環境化学：藤谷健著，大学教育出版</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 テスト，レポートおよび講義への取り組み態度</p>						
<p>【注意事項】 2/3未満の欠席者は不合格とする。</p>						
<p>【備考】 工学部応用化学科の学生は受講不可</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
大分の水 I (Water environment in Oita)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・医・ 工	前期	水2	川野 田實夫,市原 宏一、前田 寛、本谷 るり、芝原雅彦 内線 7657 E-mail:ich@cc.oita-u.ac.jp

前・水

【授業のねらい】
大分県内の水辺を題材として、その自然環境や実際にそこで生活する人々との交流、野外体験と、教室での講義を通じて、環境や地域づくりについて実態的に理解を深めます。さらに体験実習による集団学習の体験を通じて、学生相互さらには地域の人々と共に学びあいます。

【具体的な到達目標】
1. 地域を題材として、自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとします。
2. グループ・集団での学習・生活など大学における基盤的な勉強法の習得をめざします。
3. 地域の人々との交流により社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。

【授業の内容】
第1回 ガイダンス
第2回 水と環境 (1) (担当・川野)
第3回 ゼロエミッションコンセプトからとらえる水問題 (大分大学学長・羽野先生)
第4回 水辺のスポーツ (担当・前田)
第5回 地域体験活動：水辺スポーツ実習 (カヌー)：大分川河口
第6回 里山の環境とトキの里づくり
第7～9回 地域体験活動：九重、竹田、安心院での田植えなど
第10回 里海の環境
第11回 ビーチクリーン：田浦ビーチ
第12回 水と環境 (2) (担当・川野)
第13回 特別講義水フォーラム総会記念講演会：大分市内
第14回 まとめ
試験

【時間外学習】
実際に川辺・海浜で、スポーツや川遊び、水質調査、流域保全活動など様々な野外実習を行います。したがって、通常の授業日以外に、主に土日に野外実習が予定されています。

【教科書】
特にありませんが、授業で資料を配付します。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】
試験 (30%)、講義・体験活動参加に際しての小レポート (70%)

【注意事項】
水辺でのバードウォッチング、スポーツ、川遊び、野外実習など体験学習に大きな比重を持ちます。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
生命科学と社会 (Life Science and society)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水3	高濱 秀樹 内線 7574 E-mail: htaka
<p>【授業のねらい】 科学が進歩する中で、特に生命科学は著しく進展している。それに伴って一般社会も変化するが、人々の認識や対応は遅れがちで、認識も十分ではなく、軋轢が生じる場合も起きている。最新の生命科学の進展について理解を深め、その目的や社会への影響について認識することを目的としている。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 生物の知識がなくても理解できる題材を扱うが、少なくとも次の点ができるようにする。 1 生命科学の成果について十分理解し、明快に説明できるようになる。 2 生命科学の成果が社会に与える影響について十分理解し、明快に説明できるようになる。</p>						
<p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス (講義内容と到達目標の説明および評価基準の明示) 2 人種の生物学 3 アルコール耐性の個人差 4 血液型と個人の性格 5 食の安全と遺伝子組換え作物 6 絶滅した動物の復元 7 エネルギー問題と景観 8 細胞と「塩分」の問題 9 水産エコラベルの普及 10 自己認識とその逸脱 11 化学物質の栄枯盛衰 12 出産に関する倫理 13 スポーツに関する倫理 14 老化の生物学 15 まとめ 						
<p>【時間外学習】 生命科学に関する入門書 (新書等) を読む。 新聞、TVやWEBニュースで取り上げられる記事に注意を払う。分からない用語や事項を調べる習慣を身に付ける。</p>						
<p>【教科書】 特になし</p>						
<p>【参考書】 講義の中で紹介する。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 試験 (100%)</p>						
<p>【注意事項】 遅れない。私語をしない。</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
社会教育から見た「教育の協働」 ("Collaboration in Education" as seen from Social Education's View)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・医・ 工	前期	水3	中川 忠宣 内線 6027 E-mail:nakagawa@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

子どもを健全に育成するためには、家庭での基本的な教育の重要性と、学校・地域社会が相互に連携し、協働することが重要であると言われてきました。しかし、大人社会の変化や学校の閉鎖性、子育てに悩む親の増加及び連携の難しさ等から有効な施策が講じられていない状況です。こうした中、平成18年の改正教育基本法、新大分県総合教育計画などにも教育の協働の重要性が明記されており、これから教育職を目指す者にとって重要となる「教育の協働」について、基礎的な演習をとおした理論研究や事例研究により、その方策と課題を学びます。

【具体的な到達目標】

1. 「教育」に関わる各種法律や計画について、その制定の趣旨と内容を説明できる。
2. 教育の協働に係る社会教育と学校教育の関係について説明できる。
3. 社会教育からの学校教育へのアプローチによる「教育の協働」の取組みと方策を例示できる。
4. 地域社会と学校の「ネットワーク」の構築方策について提案できる。

【授業の内容】

1. 改正教育基本法から「教育」を考えてみよう▼
2. 子どもの教育課題から「教育」を考えてみよう▼
3. 社会教育と学校教育の接点を考えてみよう▼
4. 社会教育法にみる学校との「教育の協働」を考えてみよう▼
5. 社会教育法にみる家庭との「教育の協働」を考えてみよう▼
6. 大分県の社会教育施策としての「教育の協働」を見てみよう▼
7. 「教育の協働」に関する県民・教職員の意識を見てみよう▼
8. 社会教育からのアプローチ①「地域からの学校支援」の事例研究▼
9. 「地域からの学校支援」の効果と課題を考えよう▼
10. 社会教育からのアプローチ②学校からの地域支援の事例研究▼
11. 「学校からの地域支援」の効果と課題を考えよう▼
12. グループ研究①社会教育からのアプローチの内容▼
13. グループ研究②社会教育からのアプローチの方法▼
14. グループ発表《「教育の協働」方策の提案》▼
15. まとめ

【時間外学習】

- グループや各自で、「教育の協働」の取組をする自治体等での聞き取りや事業参加などから実際の成果や課題を調べる。
- 授業外に市町村での体験研修の場を設定するので、自由参加ではあるが、具体的な理解のために積極的に参加して欲しい。

【教科書】

- 特定の教科書は使用しない。適宜、資料を提示する。

【参考書】

- 参考書は適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

- ①「到達目標」に関する最終レポートによって、教育課題の把握とその取組みについての理解及び時間外学習による深化と現実性を加味して評価する。(70%)
- ②グループ発表の評価、時間毎のレポート、時間外学習によって評価する。(30%)

【注意事項】

- 到達目標ごとの整理が最後のレポート作成につながるため、十分に留意すること。
- 時間外の学習については、別途様式で提出するよう指示します。

【備考】

- 社会人への公開授業とします。

授業科目名 (科目の英文名)
ボランティア体験と自己発見 I (Voluntary Experience and Self-Other Awareness I)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	全学部	前期	水3	山岸 治男 内線 7543 E-mail: yamagisi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

20歳前後の学生時代に、实际的・具体的なボランティア活動を体験し、自分が他者・社会・自然などの諸環境と種々な関係で繋がっていることに気づき、そこに、探求し、解決のための行動をするに値する課題や価値を見いだすことが本授業のねらいです。Iでは、そのための基礎を学習します。

【具体的な到達目標】

- 1, ボランティアな活動とは何か、について思索する視点を持つ。
- 2, 自ら思索したボランティアな活動を行う。
- 3, ボランティアな活動を通して、探求すべき課題を持つ。

【授業の内容】

- 1, ガイダンス (授業のねらい、内容、方法、評価方法、他)
- 2, 人間と環境との相互作用 (生存、生活、人生…との関係から検討)
- 3, 相互作用における「共生」「共同」と活動の組織化
- 4, 活動の組織化過程と社会的役割の創造及びそのルーチン化
- 5, 社会的役割のルーチン化過程におけるボランティアな活動の意義
- 6, 活動の展開・成果の社会的承認過程と活動参加者の人格形成
- 7, 問題・課題別活動の展開 (1) ~教育的内容を中心に
- 8, 問題・課題別活動の展開 (2) ~福祉的内容を中心に
- 9, 問題・課題別活動の展開 (3) ~医療的内容を中心に
- 10, 問題・課題別活動の展開 (4) ~過疎・高齢・少子化の内容を中心に
- 11, 問題・課題別活動の展開 (5) ~地場産業再興の内容を中心に
- 12, 問題・課題別活動の展開 (6) ~地域生活再興の内容を中心に
- 13, 問題・課題別活動の展開 (7) ~人の交流とエンパワーメントの内容を中心に
- 14, 学生による活動の報告会 (プレゼンテーションと報告書の作成)

なお、7回目から13回目までについては、記した内容の概要と視点を提示しますので、実際は各学生によるボランティアな活動への取り組みとなります。取り組みは、講義時間以外の、休日を含むあらゆる時間に実施することを可とします。何時間取り組むかについては、ガイダンスで説明します。

【時間外学習】

講義6回と、報告会は、受講生全員が同じ講義室で学習します。それ以外は、実質上、時間外、学外に於いてボランティアな活動に取り組むことが基本となります。質問や相談は講義者に時間があればいつでも応じます。

【教科書】

特に指定しません

【参考書】

講義時間に、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

①ボランティアな活動に関する基本的理解が得られたか、②ボランティアな活動を実際に行ったか、③活動を通して自己の認識を深めたり広げたりしたか、の3点から実施します。評価割合は①3割、②4割、③3割とします。

【注意事項】

特別な理由がない限り、講義と報告会は全回出席して下さい。特別な理由が無く欠席した場合は単位認定の対象になりません。また、ボランティアな活動に当たっては、相手との関係作りなど、必要な注意を守って下さい。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)	区分・分野・コア
大分の人と学問 (introduction to various studies relating to Oita)	全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	前期	水3	大嶋誠 (教育担当理事)、岡田正彦 (高等教育開発センター) 他 内線 : 7647 (岡田) E-mail : hecenter@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

皆さんは自分の専攻分野のほかに、学問にいかなる分野があるかを知っていますか？本授業の目的は、本学の先生や県内在住の先生方から、いろいろな学問分野の紹介をいただき、各分野の理解を深めることにあります。幅広い学問分野の一端に触れることは、教養を深めるという意義のほかに、学習の進め方などを学ぶことにより、学問分野を超えて自分自身の学習や研究内容を考える良い機会になると思います。

なお、本授業は大分県内の8大学が参加して企画・実施するもので、本学の受講生は対面授業、他の7大学の受講生はビデオ視聴による授業となります。

【具体的な到達目標】

- ①講義を通して、いろいろな学問分野を学び、理解を深めること。
- ②レポート提出を通して、自分自身の考えを説得的論理的に展開できるようになること。

【授業の内容】

・オムニバス形式の授業であり、授業毎にミニレポート (300字以内) を求めます。
・以下の授業の順序・テーマについては、変更されることがあります。変更の場合、その都度、お知らせします。

- ①大嶋 誠 (教育担当理事) 「ガイダンス」
- ②望月 聡 (教育福祉科学部) 「「関あじ・さば」を科学する」
- ③井上正文 (工学部長) 「竹の研究①」
- ④林浩昭 (大分県農業大学校校長) 「三浦梅園について」
- ⑤隈本順子 (国際教育研究センター) 「国際交流について」
- ⑥下田憲雄 (経済学部長) 「現代の経済問題」
- ⑦井上正文 (工学部長) 「竹の研究②」
- ⑧守山正胤 (医学部) 「医学研究の現状」
- ⑨石川雄一 (工学部) 「おおいた過疎地域を元気にする産学連携—柚子の抗アレルギー能について」
- ⑩二宮孝富 (元経済学部) 「イコールパートナーシップについて考える」(全受講生対象の対面授業)
- ⑪千田 昇 (教育福祉科学部) 「巨大地震と大分・米水津」(全受講生対象の対面授業)
- ⑫山岸治男 (教育福祉科学部) 「地域の教育問題に挑む」
- ⑬豊田寛三 (別府大学長) 「農学の先達:大蔵永常」
- ⑭鳥井裕美子 (教育福祉科学部) 「天然の奇士・前野良沢と『解体新書』」
- ⑮岡田正彦 (高等教育開発センター) 「生涯学習について考える」

【時間外学習】

学期全体を通して1回の課題レポート (1200字程度) の提出を求めます。

【教科書】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法及び評価割合】

- ①授業毎のミニレポート70%、課題レポート30%の総合評価になります。
- ②ミニレポートは授業の終わりの時間 (15分から20分程度) を使って作成・提出となります。事後的な提出は認めません。また、課題レポートの提出は締切を厳守してください。評価できない場合があります。

【注意事項】

- ①大分大学の受講生は教室で受講 (対面授業) となります。ビデオ視聴による受講は認めません。
- ②ミニレポート未提出が5回以上となった時点で、単位認定が不可となります。また、課題レポートを提出しなかった場合も、単位認定ができません。
- ③6月20日 (日曜) に、県内8大学の受講生が合同で受講する授業を実施します。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
社会調査実践論 (Practicum in Social studies)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水3	永田忠道 内線 7546 E-mail

【授業のねらい】

現在、初等中等教育の学校現場では、机上だけの学習や勉強が問題視されている。この傾向は高等教育においても同様の課題である。例えば、初等中等教育学校では、生活科や社会科、総合的な学習の時間等々において、ますます実際の社会を調査したり、経験したり、体験したりする機会が設けられつつある。それにもかかわらず将来的に教員になる可能性のある高等教育機関所属の学生は概ね現実の社会を分析的に経験する機会は乏しい。本講義では、実際に様々な社会調査を実践して、その経験や体験を分析的に検討することを目的とする。

【具体的な到達目標】

1. 社会の様々な諸問題についての課題意識を持つことができる。
2. 社会の様々な諸問題についての課題追究に意欲的に取り組むことができる。
3. 課題追究のための複数回の社会調査に際して協同的な事前調査や事前準備に取り組むことができる。
4. 実際の社会調査に協同的に取り組むことができる。
5. 社会調査後の経験や体験を分析的に検討して複数回の発表を行い報告書が作成できる。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 生活科における社会調査
3. 社会科における社会調査
4. 総合的な学習の時間における社会調査
5. 社会調査テーマ選定会議
6. 社会調査1事前準備
7. 社会調査1実践
8. 社会調査1分析
9. 社会調査1発表会
10. 社会調査2事前準備
11. 社会調査2実践
12. 社会調査2分析
13. 社会調査2発表会
14. 社会調査報告書作成1
15. 社会調査報告書作成2

【時間外学習】

- ・ 文献や新聞等々により身近な社会問題の諸情報を把握しておくこと。
- ・ 講義の性格上、受講者と相談の上、通常の講義時間帯以外に調査の実施もありうる。

【教科書】

特に指定はしない。ただし講義の中で各種新書等の紹介を行う。

【参考書】

特に指定はしない。ただし講義の中で各種新書等の紹介を行う。

【成績評価の方法及び評価割合】

講義時課題40% 中間・最終課題報告書35% 発表25%

【注意事項】

- ・ 講義の性格上、受講者個人とグループでの協同的な調査や発表を実施する。

【備考】

特になし。

授業科目名 (科目の英文名)
機械技術概論 (Introduction of Machine Technology)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	前期	水3	佐久間俊雄 内線 8513 E-mail:sakuma@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

機械工学は幅広い学問であり、様々な基礎学問をベースに民生から宇宙まで機械技術・システムが実用化されている。これらの技術・システムが採用、推進されるに至った社会的、経済的背景を分析するとともに技術・システムの構築に必須となる基礎学問との関連、その重要性を認識し、21世紀の「機械技術と環境」、「機械技術と人間」とのあり方について討論する。

【具体的な到達目標】

- (1) 感想文ではなく、小論文が書けるようになる。
- (2) 自分の考えを持ち、その根拠を示すことができるようになる。
- (3) 相手を納得させる的確な情報収集・まとめおよび編集ができるようになる。
- (4) 自分の考えを相手に判り易く伝える創意・工夫をすることによりプレゼンテーションができるようになる。

【授業の内容】

以下のテーマについて講義する。また、与えられた課題に対し、調査結果を発表し、討論する。

1. 技術と社会の関わり
2. 機械技術の発達史
3. モノ作りの哲学（生産原論）
4. 機械技術を支える4大力学
5. エネルギー・資源問題と機械技術
6. 地球環境問題と機械技術
7. 人間生活の質的向上と機械技術
8. 循環型社会の構築と機械技術

【時間外学習】

機械学会誌、エネルギー学会誌などの学・協会誌の特集記事や解説記事およびインターネット検索等により、「エネルギー・資源問題」、「環境問題」、「QOL」、「リサイクル・リユース・リデュース」に関する最近の技術開発状況、開発課題などを調査しておくこと。

【教科書】

使用しない

【参考書】

必要に応じ、適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート提出（プレゼンテーションを含む）により評価する。

【注意事項】

出席回数が2/3未満の場合には、受験資格がなくなるので注意すること。

【備考】

課題調査結果について10分程度のプレゼンテーションを課する。

授業科目名 (科目の英文名)
化学物質と環境影響 (Ecotoxicology)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教、経、 工、医	前期	水3	吉岡 義正 内線 7631 E-mail: yoshioka@cc.oita-u.ac.jp
<p>【授業のねらい】 “地球にやさしい”といった標語に含まれる意味を冷静・厳格に理解し、やさしくあるために必要な環境破壊のメカニズムに対する科学的な知識を習得する。化学物質による環境影響を数値化・評価して、地球生態系を保全するための基礎知識や技術を学ぶ。</p>						
<p>【具体的な到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人類の課題の概要を説明できる。 2 化学物質による環境問題の現況を説明できる 3 化学物質による影響を少なくする方策について説明できる 						
<p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の問題：歴史的展開 2. 人類の問題：人・食糧 3. 人類の問題：資源・環境 4. 化学物質と環境影響：ダイオキシン 5. 化学物質と環境影響：内分泌攪乱化学物質 6. 化学物質と環境影響：地球温暖化，オゾン層破壊 7. 環境倫理：技術と倫理 8. 環境倫理：全体主義と世代間倫理 9. 環境倫理：自然の生存権 10. 環境問題の基礎：生態系のルール 11. リスク 12. リスクアセスメント・リスクマネジメント 13. 生態影響評価システム 14. 生態影響評価(PEC, PNEC) 15. まとめ 						
<p>【時間外学習】 配布されたプリントは事前に読んでおくこと。特に化学物質が関与する環境問題に係わる新聞報道等に留意すること。</p>						
<p>【教科書】 必要に応じてプリントを配布する。</p>						
<p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境庁(編) 環境白書(総説)大蔵省印刷局, 2. 保田仁資, やさしい環境科学 化学同人, 3. 加藤尚武, 環境倫理学のすすめ, 丸善ライブラリー, 4. 若林明子, 化学物質と生態毒性, 丸善 						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 試験100%, 試験は、主に記述形式で実施する。</p>						
<p>【注意事項】 6回以上休んだものは受験資格を失う。</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
人間・労働と技術の現代史 (A modern history of work and technology)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2. 3. 4	経・工	前期	木2	藤原直樹 内線 7675 E-mail

【授業のねらい】

技術と人間の問題を、機械と人間という切り口から論ずるというやり方はごくありふれたものです。私の講義もそのごくありふれた切り口から入ります。ただ、それを機械と人間の関係一般についての哲学的考察から入るのではなく、人間の生活に機械が入り込んできた歴史過程に沿って考えてみたいのです。

人々が工業化とか技術進歩という言葉を使うとき、そのモデルとしてあったのは常にアメリカであり、そこへ一歩でも近づくことを助けるものが、工業化であり、技術進歩であったといえましょう。つまり、20世紀はアメリカ的生活様式とでもいべき生活のひとつの型が確立し、これが、世界中の人間のあこがれの的となり、世界中に拡大していった時代であったというのが本講義の前提をなす考えです。その生活の型とは、まず家事労働が、次に日常のすみずみまで人間のすることが商品としての機械におきかえられていく、特殊な生活の型でした。

では、そのような生活の型を支えていたのは何であったのでしょうか。また、なぜアメリカで登場したのでしょうか。これには、需要と生産技術の両側面から考えてゆくことができますが、本講義では、主として後者に重点を置き、機械を対象とする大量生産技術の発展に着目し、その歴史を講じてゆきたいと思えます。

【具体的な到達目標】

本講は技術（大量生産技術）の歴史を社会科学の視点から分析するものです。日頃、技術を自然科学の視点より学んでいる皆さんも、この講義により技術の新たな側面を学べると思えます。受講を強く勧めます。

【授業の内容】

- I. 分析の対象と方法
- II. 19世紀的生産方式の特質～「3S化」の未熟
- III. アメリカン・システム-互換性部品製造の発達
- IV. 科学的管理（テイラー・システム）の登場
- V. 現代大量生産体制の成立-フォード・システム

【時間外学習】

適宜、課題を提示し、その解答を次回の講義中に発表してもらおう。

【教科書】

使用しない。随時プリントを配布します。

【参考書】

加藤仁・藤井洋・丸井悦男『機械工作法』、森北出版・1984年

【成績評価の方法及び評価割合】

学期末試験を行う。ノート・資料持ち込み可の予定。試験の採点に関しては、論述の論理性を最重要視する。また、出席等の平常点も加味する。

【注意事項】

受講者は、上記参考書を必ず購入すること。講義中に、頻繁に使用する。ただし、同書のみでは本講義はまったく理解できないでしょう。補講を2コマ予定しています。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
革新的企業経営 (management of inovative strategy)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	経・工	前期	木2	松岡 輝美 内線 7668 E-mail:matsuoka-t@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

新たな需要を掘り起こすには、供給から需要へ、競争からバリューイノベーションへと視点を切り替え、これによってさまざまな市場から要素を集めて組み立てなおし、新たな市場空間を切り開いていくことが必要となる。戦略の重点が供給サイドにおかれる構造主義（環境決定論）と、逆に戦略の重点が需要サイドにおかれる再構築主義理論の基礎を理解する。

【具体的な到達目標】

製品やサービスを購入するときに、それらを提供する企業がどのような戦略を用いているか想像したことはあるでしょうか？ 突出した利益を上げている企業は同業他社と比較してどこが違うのでしょうか？ ユニクロ、ブックオフ、ipod、QBハウス、シネマコンプレックス、その他日常的に皆さんがよく知る企業がどのようにバリューイノベーションを実現し、いかなるビジネスモデル、いかなる戦略の打ち手をもって、新たな市場空間を創造し、需要を創出しているのかを具体的に理解し、価値創出のポイントをつかみ取ることが目標です。

【授業の内容】

1. オリエンテーション 構造主義と再構築主義とは
2. バリューイノベーション
3. 中古品ビジネスにおけるサービスイノベーション
4. 演劇ビジネスのイノベーション
5. 感性志向から機能志向へ
6. 機能志向から感性志向へ
7. ローコストオペレーションの確立と新業態の開発
8. 世界最大の化粧品企業のブランドマネジメント
9. 中古車流通の革新とビジネスモデル
10. アナログかデジタルか
11. デバイスからコンテンツへ
12. 成熟市場のイノベーション
13. 予備日
14. まとめ

【時間外学習】

短いレポートを数回課します。

【教科書】

必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

「ブルーオーシャン戦略」

図書館の雑誌コーナーで日経ビジネスやハーバードビジネスレビューを読むことを推奨します。

【成績評価の方法及び評価割合】

レポート（30%） 期末試験（70%） 指定する資料のみ持ち込み可

【注意事項】

途中入室は他の受講者の迷惑になりますから、遅刻しないこと。
ノートPCを持参してノートをとることを許可しています。ただし充電は事前に済ませておくこと。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
会社組織のしくみ (Organization Theory)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	経・工	前期	木2	本谷 るり 内線 7707 E-mail : motoya@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この講義では現代社会における会社（企業）組織のメカニズムについて理解を深めてもらうことがねらいです。皆さんの多くは、卒業後に一般企業へ就職するでしょう。あるいは企業へ就職しなくても、私たちの生活は企業とは切っても切り離せないほど密接に影響しあっています。その企業の組織とはどのようなものなのか、いかにして企業活動が行われているのか、そこで働く人々と企業組織との関係はどのようなものなのか、といったことを考えていきます。

【具体的な到達目標】

会社組織の基本的なあり方、考え方、さらに後に経営学関連の科目を履修する際に活用できる知識や基本的な理論を習得します。また、新聞やニュースでの企業に関するトピックスを理解できるようになる、経済雑誌やビジネス書を読むための知識を得ることも目標としています。

【授業の内容】

- I. 会社って？
1. 企業経営について(1)
 2. 企業経営について(2)
 3. 株式会社とは(1)
 4. 株式会社とは(2)
- II. 会社の内側はどうなっている？
5. 組織のマネジメントにおける課題
 6. 課題1：組織の構造のあり方
 7. 課題2：従業員にやる気を持ってもらうには？
 8. 課題3：計画を立てること、調整すること
 9. 課題4：この会社の意義って？
 10. 課題5：人を育てること
 11. 課題6：会社をひっぱるリーダーのあり方
- III. 会社の外側との関係はどうなっている？
12. 経営戦略(1)
 13. 経営戦略(2)
 14. 企業の社会的責任
 15. 新たな組織の研究

【時間外学習】

新聞を読む、ニュースを見るといったことを意識的に行いましょう。またビジネス書などにも挑戦してください。講義中や予習復習の際に分からないことがあれば、図書館で調べる、質問するなどして解決しましょう。

【教科書】

教科書は指定しません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

講義中に提示します。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験60%
小テスト40%：10分程度の小テスト数回行います。

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
中世イタリアの生活史 I (History of urban daily life in Medieval Italy I)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	経・工	前期	木2	城戸 照子 内 線 7946 E-mail : tkido@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

11世紀から16世紀までのイタリア北部の都市社会を取り上げ、ヨーロッパ中世史の基本知識を得ることを授業のねらいとする。特に基本的な社会モデルを理解するのがねらいである。

【具体的な到達目標】

中世社会は、18世紀以降に形成される国民国家としての経済圏や政治組織、国民意識、文化を持たなかったが、その代わりにどのような社会構造を持っていたかを知る。Iでは、特に都市の環境、経済、政治構造、キリスト教文化について学ぶ。中世都市社会の基本的性格をイタリアモデルをもとに理解し、その基本的性格を明快に言葉で説明できるようにする。

【授業の内容】

- (1) ガイダンス (授業のねらいの説明、教科書の構成と学界動向の紹介)
- (2) 北部イタリア中世社会の基礎知識の説明 (地誌・歴史・経済構造)
- (3) 都市と農村の関係を理解する
- (4) イタリア都市の景観と都市プランについてモデル化する
- (5) 都市自治を支えるコムーネ組織と領域国家成立過程を理解する
- (6) イタリア都市の発展を支える遠隔地商業について知る
- (7) 商業網を支える商業技術・貨幣構造・人材の育成について学ぶ
- (8) イタリア都市の海外領土について新しい研究成果を知る
- (9) 中世の生活に密着したキリスト教信仰について知る
- (10) 日常生活における衣服と織物業について知る
- (11) 日常生活における食文化と住居構造について学ぶ
- (12) 人々の絆を学び「ソシアビリテ」というキーワードを理解する
- (13) イタリア都市の文化と芸術について、基本的知識を学ぶ
- (14) 中世都市社会の基本モデルを考察する

【時間外学習】

講義の進度にあわせ、教科書を読んで予習するのに30分程度必要である。また講義後には、板書ノートの内容整理とプリントの復習などで、同様に30分程度学習が必要である。

【教科書】

齋藤寛海・山辺規子・藤内哲也編著『イタリア都市社会史入門』、昭和堂、2008年

【参考書】

朝治啓三編『西洋の歴史基本用語集 古代・中世編』ミネルヴァ書房 2008年

【成績評価の方法及び評価割合】

講義中の小テスト (3回程度 30%) と学期末試験 (70%) の成績をあわせて評価する。

【注意事項】

甚だしい遅刻をしないこと。私語はその都度注意し、周囲への迷惑度合いによっては退室を促す。携帯電話は、メールも含め、講義中には使用禁止とする。

【備考】

高校での世界史の履修歴にかかわらず受講することができる。ただし、世界史的な知識を補うためには、各自で自習する必要がある。そのための文献は講義中に紹介する。後期に「中世イタリアの生活史II」をとらず、Iだけ受講することができる。

授業科目名 (科目の英文名)
心理学概論 (Psychology)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	金2	藤田 敦・古城 和敬 内線 7614 / 7610 E-mail: a-fujita@oita-u.ac.jp / kkojo@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

心理学は、「こころの科学」と言われる学問である。人間の行動の背後に「こころ」の存在を仮定し、客観的な手法を用いて、行動と心理の関係を説明しようと試みるものである。この講義では、この心理学の基本的な考え方と伝統的な研究知見について学ぶことをねらいとする。

【具体的な到達目標】

日常的な人間の行動を、経験的・直観的に解釈するのではなく、心理学的（科学的）な観点から、分析・考察できるようにするための基本的な知識を獲得する。

【授業の内容】

1. 心理学とは何か
2. 知覚する心の働き
3. 認知する心の働き
4. 欲求と行動の関係
5. 感情の理論と心の病
6. 学習と記憶の仕組み
7. 記憶と思考の関係
8. 子どもの心の発達
9. 青年の心の特徴
10. 性格と心理テスト
11. 知能と創造性
12. 精神病理とカウンセリング
13. 対人行動の心理
14. 集団行動の心理
15. まとめ

【時間外学習】

講義時に課題を提示する。

【教科書】

あなたのこころを科学するVer.3 (北大路書房)

【参考書】

講義時に紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末テスト(筆記試験) 70%, 平常課題(小レポート等) 30%

【注意事項】

なし

【備考】

すでに全学共通科目「くらしの心理学」、あるいは教育福祉科学部専門科目「心理学概論」の単位を取得している学生は、本科目を受講することはできない。

授業科目名 (科目の英文名)
プロジェクト型学習入門 (Introduction to Project-based Learning)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

修 選 択	単 位	対 象 年 次	学 部	学 期	曜・限	担 当 教 員
選 択	2	1, 2, 3, 4	教、経	前 期	金2	市原 宏一、岡田正彦 内 線 7657 E-mail: ich@cc.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 本授業は、自ら企画したプロジェクトへの参加を通して学習を進め、自分自身の経験を今後の学習のリソース（資源）として活用できるようにする力をつけることが目的です。						
【具体的な到達目標】 (1) プロジェクトへの参加を通して、問題発見、目標設定、目標達成などのスキルを身につけることができる。 (2) 自分自身の参加体験内容を、参加していない第三者に対して説得的に説明することができる。						
【授業の内容】 (01) オリエンテーション (授業目的、授業趣旨の説明) (02) 学習を科学する1 (学ぶとはどういう営みなのか。学習を支援することは可能か。学びの理論) (03)～(04) 大学での学び方～過去・現在・未来～ (05) プロジェクトマネジメントの基礎 (今後の方針の作成) (06)～(08) プロジェクト1 (自宅学習) (09) 中期達成報告会 (10)～(13) プロジェクト2 (自宅学習) (14) プロジェクト発表会 (15) 学習を科学する2 (経験をいかに学びに変換するか。経験からの学習。理論からの学習) 授業内容や順序等は、履修者数によって異なる場合があります。						
【時間外学習】 プロジェクト遂行にあたっては、授業外での活動が必須となります。グループもしくは個人で活動を行います。						
【教科書】 ありません。講義中に資料として配付します。						
【参考書】 講義において提示します。						
【成績評価の方法及び評価割合】 授業実施時のミニツッペーパー (ミニレポート) 20%、プロジェクトの遂行と報告60%、学期末レポート20%						
【注意事項】 (1) ニンテンドーDS、住居でインターネットに接続可能なPCを保有していることが望ましい。DSの場合、さらにソフトウェアの購入が必要となることを考慮してください。(『TEST DS トレーニング』『もっとTEST DS トレーニング』等)。 (2) 本授業は、「きつちよむフォーラム」(学生教職員合同の授業改善に関する催し)で、学生が提案した内容の一部を具体化したものです。実験的な授業です。受け身の学生には向いていません。						
【備考】						

授業科目名 (科目の英文名)
国文学作品研究 (The study of the Japanese literary works)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	金2	藤原 耕作 内線 7533 E-mail: fujiwarakosaku@cc.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 太宰治「津軽」「惜別」を読み進めていくことを通して、国文学の基礎的な研究能力を身につけることをねらいとします。						
【具体的な到達目標】 1 戦時下の太宰治文学の特質を知る。 2 国文学の基礎的な研究方法を学ぶ。						
【授業の内容】 1. はじめに 2. 津軽 (1) 3. 津軽 (2) 4. 津軽 (3) 5. 津軽 (4) 6. 津軽 (5) 7. 津軽 (6) 8. レポート 9. 惜別 (1) 10. 惜別 (2) 11. 惜別 (3) 12. 惜別 (4) 13. 惜別 (5) 14. 惜別 (6) 15. レポート						
【時間外学習】 取り上げる作品については、前もってよく読んでおくようにして下さい。						
【教科書】 ちくま文庫『太宰治全集7』						
【参考書】 講義時に適宜指示します。						
【成績評価の方法及び評価割合】 レポート (50%) およびテスト (50%)						
【注意事項】 2009年度後期の近代文学概論を受講した人は、取り上げる作品および講義内容が重なっているので、受講できません。						
【備考】						

授業科目名 (科目の英文名)
原子と分子 (Atoms and Molecules)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1年以上	教・経	前期	金2	大賀 恭 内線 :7958 E-mail:yohga@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

物質科学の基礎としての化学を、原子・分子という微視的観点から学ぶことによって、物質の成り立ちについての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】

原子構造の基本すなわち原子内に存在する電子の状態を知り、それらがどのようにしてイオン結合、金属結合、共有結合などをつくるかを知る。またその知識に基づいてイオン性物質、金属、共有結合性物質などの構造と性質を理解する。

【授業の内容】

講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。

第1～3週 ガイダンス、第1章 化学の基本 (物質の分類, 元素, 元素記号, 原子量)

第4週 第2章 単位と測定値の扱い (単位, 物理定数, 有効数字)

第5～8週 第3章 原子の構造と性質 (原子の構造, 原子スペクトル, ボーアのモデル, 電子の波動性, 軌道関数, 電子配置, 周期表)

第9～11週 第4章 原子から分子へ (共有結合, 混成軌道, π 結合, 配位結合, 電気陰性度, 分散力, 水素結合)

第12～13週 第5章 いろいろな結晶 (イオン結晶, 金属結晶, 共有結合結晶, 半導体)

中間試験 (試験時間30分程度。試験範囲: 第1～3章) を第3章が終わった翌々週に行う。

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「FRESHMAN化学」(学術図書出版社)

【参考書】

浅野 努, 荒川 剛, 菊川 清 共著「第4版 化学-物質・エネルギー・環境-」(学術図書出版社)

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「原子・分子から学ぶ化学の世界-基礎化学・エネルギー・環境-」

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート(30%), 中間試験(20%), 期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】

高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ、その講義内容および方針は高校までの化学と異なり、基本原理の理解に重点を置く。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で、期末試験も同一時間帯・同一問題で行う。人数のアンバランスを防ぐために、工学部1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが、工学部2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】

後期開講の「物質の状態と変化」を合わせて受講することを強く勧める。

授業科目名 (科目の英文名)
地球と生命の歴史 (Earth Science and Paleontology)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	金2	三次 徳二 内線 7723 E-mail: tokuji@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

地球は約46億年もの長い歴史を持っており、長い間にその環境は大きく変化してきた。その原因の1つとして生命の活動があるが、生命も地球環境の変化によって大きな影響を受けてきた。この授業においては、長い地球の歴史の中で起きた、地球と生命の相互作用について学んで欲しい。また、その関係を知ることは、今日の地球環境問題を理解する一助となると考えられる。

【具体的な到達目標】

1. 地球と生命の歴史について、その概要を説明することができる。
2. 地球環境の変化と生物との関係について、その具体例を説明することができる。
3. 岩石・地層から地球の歴史を読み取る方法について、その具体例を説明することができる。

【授業の内容】

1. 太陽系と地球の誕生
2. 地球内部の構造と運動
3. 地層や化石から読み取る過去の環境
4. 生命の出現と地球環境の変化
5. 海洋における無脊椎動物の発展
6. 生物の上陸と広がり
7. 古生代末の大量絶滅
8. 爬虫類の繁栄
9. 裸子植物と被子植物
10. 中生代末の大量絶滅
11. 哺乳類の繁栄
12. 氷河時代と人類
13. 人類と自然の関わり
14. 大分で見える地球と生命の歴史
15. 授業のまとめ

【時間外学習】

毎回配布する授業プリントに簡単な「問題」をのせています。授業後に、復習して下さい。

【教科書】

教科書は使用しません。

【参考書】

特に指定しませんが、地球科学や化石に関する書籍が授業理解の助けとなります。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末テスト80%、授業における小テスト(期間中に5回実施します)20%

【注意事項】

地球の歴史や、地球と生命の相互作用、化石などについて興味を持っている学生に受講して頂きたい。授業内容に関する質問や会話は歓迎するが、内容に関係のない私語は歓迎しない。

【備考】

高校生の時に、地学や理科総合Bの地学分野を履修しなかった人でも、授業内容が理解できるように配慮いたします。

授業科目名 (科目の英文名)
生活の化学 (Chemistry of the life)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	金2	中島 俊男 内線 7554 E-mail:nakashi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

教養課程においては、現代の多彩な専門的で最先端の化学の分野を体系的で詳細に講義を進めていくことは、一般に困難である。そこで、新教育課程における高等学校の化学履修者のみならず、はじめて化学を学ぶ学生や、化学の基礎知識の少ない学生にも十分理解のできる内容を精選することが必要となる。本講義では物質の本質を化学的立場から無理なく理解することを目的とし計算や数式を極力省き、生活に関係した化学の基礎を履修する。

【具体的な到達目標】

生活の科学と関連のある科学の基礎の基礎理論を学んだ後、水、環境、コロイド、料理、薬など、生活に密着した科学の現象を知り、科学的な立場から理解を深める。

【授業の内容】

1. 化学反応とは 2. 酸性と塩基性 3. 衣服の化学 4. 環境の化学 5. 水の化学 6. 油脂・石鹸 7. プラスチックの化学 8. 料理の化学 9. コロイドの化学 10. 薬の化学 11. 資源の化学 12. 身近な化学 13. 電気と化学 14. 固体・液体・気体の化学 15. 未来の化学

【時間外学習】

特になし。

【教科書】

身の回りから見た化学の基礎
芝原 寛泰 他 著 化学同人 1800円

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験を重視する。

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
エネルギー科学 (Energy Technology)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	前期	金2	濱本誠 内線 7809 E-mail: hamamo@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

私たちの日常生活において、エネルギーは電気という形で家庭の奥深くまで入り込み、容易にその恩恵にあずかることができるが、限りあるエネルギー資源の有効利用が叫ばれる今日、電気エネルギーに関する最新の科学技術開発の現状とその経緯を認識することは、エネルギーを利用することの意義を考える上で重要なことである。ここでは電気エネルギーについての問題を受講者自身が考えることのできる足場を築くことを目標とする。

【具体的な到達目標】

電気エネルギーに関して近い将来実用化が期待されている新技術について4つのテーマを取り上げ、それらを専門とする担当者の説明により、それがどのような技術なのか、それを開発する為の課題は何か等について理解を深める。さらに将来の電力発生の事情はどうなるのか、効率100%の省エネルギー機器はあり得るのか、電気の流れはどのような形で貯えることが可能か、見えないエネルギーの流れをどのようにして知ることができるのか、そしてエネルギー利用に関する技術はどこへ向かおうとしているのか等の諸問題について考える。

【授業の内容】

- 1 授業内容の説明
- 2 超伝導とその応用 (1): 超伝導現象
- 3 " (2): 超伝導を利用するには
- 4 " (3): 超伝導のエネルギー技術への応用, (4): 超伝導エネルギー貯蔵
- 5 太陽光・風力ハイブリッド発電システム「風光パワースクエア」見学
- 6 プラズマとその応用 (1): プラズマとは?
- 7 " (2): プラズマの特徴・性質
- 8 " (3): プラズマの応用と計測
- 9 原子力発電について (1): 核エネルギー
- 10 " (2): 原子力発電所とその構造
- 11 " (3): 安全管理
- 12 グリーン電力について (1): グリーン電力とは
- 13 " (2): 様々なグリーン電力
- 14 " (3): グリーン電力市場の展望

【時間外学習】

自分の身の回りでの電気エネルギーの使用の状況、その問題点等を調べ考察することを求めるが、具体的内容は授業の時指示する。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

増田正美『超電導エネルギー入門』(オーム社)

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点(各回毎に簡単なレポート・他)20%, 課題レポート80%, [出席2/3未満は自動的に不合格]

【注意事項】

課題レポートは講義内容の一部、または全般的事項について講義内容をまとめたもの及び感想、意見、提言を書く。ただし講義内容をまとめたものがない場合は受理しない。また感想、意見、提言は自分自身で考えて書くこと。参考書等を写したものは認めない。工学部機械・エネルギーシステム工学科(エネルギー)は受講不可

【備考】

江崎忠男(工), 後藤雄治(工), 高坂拓司(工)もあわせて担当します。

授業科目名 (科目の英文名)
ボランティア体験と自己発見Ⅱ (Voluntary Experience and Self-Other Awareness Ⅱ)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	全学部	前期	集中	山岸 治男 内線 7543 E-mail:yamagisi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
 実際の・具体的なボランティア活動を体験し、自分が他者・社会・自然等の諸環境と深い関係で繋がっていることに気づき、そこに、探求し、解決のための行動をするに値する課題や価値を見いだすことが授業のねらいです。Ⅱでは、諸課題に気づき、解決に向けた行動の価値について学習します。

【具体的な到達目標】
 1, 自分の生活する「世界」に生まれる課題に気づくことが出来る。
 2, 課題解決に向けて思索したボランティアな活動を行う。
 3, ボランティアな活動を通して、そこに横たわる価値を思索する。

【授業の内容】
 1, ガイダンス (授業のねらい、内容、方法、評価方法、他)
 2, 「生活世界」に発生する諸課題の探求
 3, 課題の本質を見つめて (具体的な課題、課題の内容と意味、他)
 4, 課題解決方法としての現存社会制度・社会システムの探求
 5, 現存制度等では解決できない場合の対応とボランティアな活動
 6, ボランティアな活動の価値について
 7, ボランティアな活動の実際 (1) ～過疎地域の生活課題など
 8, ボランティアな活動の実際 (2) ～独居高齢世帯の福祉課題など
 9, ボランティアな活動の実際 (3) ～低所得世帯の医療課題など
 10, ボランティアな活動の実際 (4) ～教育格差に関する課題など
 11, ボランティアな活動の実際 (5) ～保育に関する課題など
 12, ボランティアな活動の実際 (6) ～障害者の雇用課題など
 13, ボランティアな活動の実際 (7) ～地域振興課題など
 14, 活動の報告と検討
 このうち、7～13回までの分については、受講生が実際のボランティア活動に当たります。

【時間外学習】
 ボランティアな活動は、夏期休業中に終了して下さい。活動時間についてはガイダンス時に説明します。

【教科書】
 特には指定しません。

【参考書】
 講義時間に、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】
 ①課題に気づいたか、②ボランティアな活動を行ったか、③活動の意義や価値に気づいたか、の視点から評価します。①3割、②4割、③3割とします。

【注意事項】
 1～6回の講義、14回目の講義は、必ず出席して下さい。特別な理由が無く欠席した場合は、単位認定の対象になりません。また、ボランティアな活動に当たっては、相手との関係作りなど、必要な注意を守って下さい。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
里海と里山 I (The Relationship between the Coastal Sea and the Country-side)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経 工・医	前期	集中	市原 宏一 内線 7657 E-mail: ich@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

九重飯田高原で合宿授業により、大分県中山間地での生物の現状と環境の関連を理解するとともに、そこで生活する人々との交流を通じて、地域づくりや地球規模での共生社会について実態的に理解を深めます。さらに体験活動、地域における交流や活動支援、集団学習の体験を通じて、学生相互に、また地域の人々と共に学びあいます。

【具体的な到達目標】

1. 自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとします。
2. グループ・集団での学習・生活、地域の人々との交流により、学園・社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。
3. 自然保護活動や調査活動の体験を通じて、身近な自然に対する「認識」や「発見」を促し、「自ら考える」「自ら知る」事の経験をします。

【授業の内容】

1-4: 8月9日月曜日 ガイダンス事前指導 (大分大学)
 5-9: 8月10日火曜日 合宿授業第一日目
 午前: 9時半大分大学→九重青少年自然の家・オリエンテーション
 午後: 講義、体験ゲーム・自然保護ゲーム
 夜: 地元有機農業についての講義
 10-12: 8月11日水曜日 合宿授業第二日目
 午前・午後: 自然保護・野外調査体験ウォークラリー (水質・植物小動物捕獲等)
 夜: グループ・個人ふり返りと共有
 13-15: 8月12日木曜日 合宿授業第三日目
 午前: 小動物捕獲体験・観察・外来種駆除体験活動
 午後: ふり返りグループワーク・グループ発表
 九重青少年自然の家→18時大分大学

【時間外学習】

【教科書】

特にありませんが、授業で資料を配付します。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

授業・体験活動における取り組み状況 (各授業や体験活動での発言など参加態度とレポート)

【注意事項】

合宿実習を中心に、里山での自然観察、環境調査、野外実習など体験活動に大きな比重があります。このため、二泊三日の合宿のための個人負担 (保険料等を含む) 五千円程度を必要とします。

【備考】

県内他大学の学生・教員との交流や、体験活動を中心とした自然保護NPO等地域社会の支援と交流にもこの授業の特徴があります。

授業科目名 (科目の英文名)
ボランティア体験と自他発見Ⅲ (Voluntary Experience and Self-Other Awareness Ⅲ)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	月2	山岸 治男 内線 7543 E-mail: yamagisi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
 実際の・具体的なボランティア活動を体験し、自分が他者・社会・自然等の諸環境と種々な関係で繋がっていることに気づき、そこに探求し、解決に向けて行動するに値する課題や価値を見いだすことが授業のねらいです。Ⅲでは、体験を通して新たな政策・対策・技法・助言等について学習します。

【具体的な到達目標】
 1、ボランティアな活動の新たな社会的定着の可能性に気づく。
 2、その可能性を実現する具体的手だてを探るための活動を行う。
 3、具体的手だての実現に向けた方法を検討する習慣を身につける。

【授業の内容】
 1、ボランティアな活動が社会的承認を得た「職業」に移行する過程
 2、ボランティアな活動が「職業」に移行するための要件
 3、ボランティアな活動と「起業」・「職業」の相互連関
 4、近時の「起業」の検討～どんな要件をみたして実現したか
 5、ボランティアな活動や「起業」の社会的必要性和社会貢献
 6、ボランティアな活動や「起業」と個人の自己実現
 7、ボランティアな活動の定着を探る (1)～無視していた素材への着目
 8、ボランティアな活動の定着を探る (2)～ニーズの開発
 9、ボランティアな活動の定着を探る (3)～新システムの工夫・開発
 10、ボランティアな活動の定着を探る (4)～素材の加工・価値付加
 11、ボランティアな活動の定着を探る (5)～癒し・喜び等のソフト面
 12、ボランティアな活動の定着を探る (6)～参画・参加意欲の拡大
 13、ボランティアな活動の定着を探る (7)～成果・評価・反省
 14、考え出した具体的手だてを公表し合う

【時間外学習】
 7～13回までの内容は、実際のボランティア活動において実施します。

【教科書】
 特には指定しません。

【参考書】
 講義時間に、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】
 ①到達目標の1に関して3割、②同じく2に関して4割、③同じく3に関して3割。①は毎回のライティング、②はボランティア活動報告内容、③は考え出した内容の発表、をもって評価材料とします。

【注意事項】
 1～6回目及び14回目は、特別事情がない限り全て出席することとします。その他の注意事項は、「ボランティア体験と自他発見Ⅰ」及び「同Ⅱ」と同じです。

【備考】

授業科目名(科目の英文名)
キャリアデザイン入門 (Career Design Workshop)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	月2	岡田正彦、中川忠宣 内線 7647, 6027 E-mail: msokada@cc.oita-u.ac.jp, nakagawa@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

本授業では、自分自身のキャリア（進路、職業）をデザイン（設計、構想）する際に必要な考え方について学びます。大学卒業後の進路（就職）について理解を深めたいと思っている人はもちろんのこと、授業を通して社会で通用する力を身につけたいと思っている人向けの科目です。授業では、「キャリア論」や「学習論」の観点から、自己・他者理解を深め、自分自身の言葉でキャリアについて他者に語れるようになることを目指します。

【具体的な到達目標】

- (1) キャリア論や学習論の観点から、自分自身を振り返り、自分のあり方について他者に語るができる。
- (2) 「能力」「性格」「モチベーション」「学習観」などの基本概念を理解し、他者に説明することができる。
- (3) 授業内外でのグループ演習等を通して、自ら問題を発見し、共同的に問題を解決していく姿勢を習得できる。

【授業の内容】

- (01) はじめに（授業の目的、履修上の注意点、授業の進め方等について）
 - (02) キャリアとは何か（キャリア論の基本的な知識と、キャリアを捉えるための基本的な視点を学ぶ）
 - (03) 自分を知る（自分は何のために学び、働こうとしているのか＝学習観、欲求分析）
 - (04) グループワーク（名刺交換会：自分を語る・他者と出会う）（履修者数によって変更する場合があります）
 - (05) 能力とは何か（社会で求められる能力と、大学で身につけられる能力のギャップ）
 - (06) 職場という現場を考える（1）求める学生像
 - (07) 職場という現場を考える（2）「よい」仕事を成し遂げるためには
 - (08) 学習とは何か（学校で学ぶということ、社会で学ぶということ、生涯学び続けるということ）
 - (09) モチベーションとは何か（「やる気」はどこからやってくるのか。どうして失われるのか）
 - (10) 職場の最前線（1）学校教員という仕事
 - (11) 職場の最前線（2）社会教育主事という仕事
 - (12) 職場の最前線（3）NPOでの仕事
 - (13) 職場の最前線（4）企業で働くこと
 - (14) グループワーク（改めてキャリアとは何か考える）
 - (15) 全体のまとめ
- 授業内容や順序等は、変更になる場合があります。

【時間外学習】

事前課題・準備を求める場合があります。

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

授業内のライティング30%、グループワーク30%、レポート30%、授業への貢献10%

【注意事項】

- (1) 授業では学生間、学生・教員間のコミュニケーションを重視します。授業中、学生の発言を求めます。
- (2) 履修時点でコミュニケーションや、グループ学習に苦手意識を感じていても構いませんが、コミュニケーション力を高めたいと思っていない人は、本授業は向きません。履修者全員の協力で、良い雰囲気を作っていきましょう。
- (3) 社会人としての基礎力を育成するため、私語、遅刻、演習時の無断欠席には厳しく対応します。
- (4) 履修者数によって、授業内容を変更します。名刺交換会を実施する場合は、実施負担のこと。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
電気の世界I (World of Electro-technology I)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	月2	榎園正人 内線 E-mail :

【授業のねらい】

電磁現象を利用した電気工学の世界は、一見すると昨今の超能力じみた世界に見える。しかしそこには確固たる自然科学の法則が貫かれ、それに基づいたものである。21世紀は新たな電気工学の技術が台頭しようとしているが、それは電場・磁場といった空間をコントロールする技術である。そのような中で近年、電場・磁場を利用したごまかしの器具や意味不明の装置が巷にあふれ、電気・磁気というとなにか摩訶不思議な力が備わっているように捕らえがちである。そこで本講義では、学生諸君に対し、この電磁現象の正しい理解を与え、物事の正しい判断ができるような視点を育てることを目的とする。

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

最初に電気・磁気から電磁気に至る歴史を通じて、我々が自然界をどのように考え、それを我々の社会に役立たせるべく発展してきたかを学ぶ中で、講義の基本的目的である科学的なものの見方を学ぶ。次いで、近代技術として確立した電磁気学の世界に足を踏み入れて、その電磁現象を利用した技術を紹介し、今後未来に対してどのような技術革新が起こるのであろうかを一緒に考えていく。具体的な講義テーマは

1. 電気の歴史 ～電気・磁気から電磁気学へ～
 - ・電気・磁石の発見からファラデーの世界
 - ・マクスウェルの電磁方程式が切り開く新しい世界
 - ・エジソン、ベルからコンピュータへ
2. 電磁場の世界の技術 ～工学と物理学～
 - ・電気工学とは？
 - ・電磁気学の世界
 - ・電磁場の世界を描くコンピュータシミュレーション技術
3. 電磁材料の世界 ～高性能材料からインテリジェント材料へ～
 - ・アモルファス磁性材料の世界
 - ・超高性能永久磁石
 - ・形状記憶材料
4. 大分大学磁気工学研究室における新技術の紹介

【時間外学習】

【教科書】

なし

【参考書】

講義の中でこのテーマに応じた参考書を紹介する

【成績評価の方法及び評価割合】

筆記試験 (レポート評価は行わない)

【注意事項】

講義はOHP機器を使用して行うので、講義内容の修得に努めてほしい。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
カラダの見方・考え方 (Ways of looking at Human Body)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	月2	牧野治敏 内線 7607 E-mail: hmakino@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
現代の科学、あるいは科学的な常識への検討を加えるために、生物学を例として科学の成立過程をたどる授業です。具体的には、前学期での「生命観の変遷」で取り上げた内容について、ヒトの身体を介することで具体的に考察します。

【具体的な到達目標】
1) 進化論の概略と、それを受け入れる社会について例を挙げて説明できる。
2) 唯物論的自然観に基づく生命観、身体観を説明できる。
3) ヒトの生物学的な位置づけを説明できる。
4) 病気の治療方法の変遷を身体観の違いとして説明できる。

【授業の内容】
1) 人体の扱い方に命の考え方が反映していること(授業の概略)。
2) エジプトでの死体処理：なぜミイラをつくったのか。
3) ギリシャでの医師の仕事：ヒポクラテスやガレノスが考えた命の仕組み(生理学)。
4) ギリシャの科学は、どのように伝わっていったのか(中東諸国の役割)。
5) ルネサンスの影響：画家たちは人体の見方を、どう変えたか。
6) 解剖学の復興：ヴェサリウスによる改革。
7) ダーウィンの進化論について。
8) 現代の進化論からみたヒトの位置付け。
9) インバーミングに関する中世以降の歴史。
10) カラダの記録の仕方(絵、模型、人体標本、ビデオ等による記録)。
11) 日本における人体の記録(仏教思想を反映した絵巻など)。
12) 江戸時代における人体のとらえ方(漢方、古方、蘭方)。
13) 人体を利用するビジネス(江戸時代から現代まで)。
14) 現代の話題から。

【時間外学習】
1) ギリシャ哲学についての基本的な事項を学習しておくこと
2) WebClass上に授業資料を掲載します。また、課題を出題します。
3) 授業の内容は「グローバルキャンパス」でオンデマンド配信します(板書と音声のみ)。

【教科書】
使用しない

【参考書】
図解科学の歴史(八杉龍一)東京教学社、生命観の歴史(G. スミス、八杉龍一訳)岩波書店、解体新書(杉田玄白、酒井シヅ)講談社学術文庫、人体解剖図(ベンジャミン・リフキン他)二見書房

【成績評価の方法及び評価割合】
期末試験50%、授業後のレポート30%、WebClassからの課題20%

【注意事項】
生物学の内容が基本ですので、解剖図、写真等を説明に使います。常識の範囲内のものですが、苦手な人は受講選択の際に注意してください。

【備考】

後・月

授業科目名 (科目の英文名)
精神科ソーシャルワーク論 (Psychiatric Social Work)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	月2	橋本美枝子 内線 7604 E-mail : 7604
<p>【授業のねらい】 精神的な病をもつことが、本人や周囲の生活にどのような影響を及ぼし、どのような困難を抱えるのか、ソーシャルワークの視点から考察する。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 1. 病に巻き込まれることが生活に及ぼす影響について考える 2. 病や生活を社会構造のあり方との関連でとらえ、批判的に検討する力をつける</p>						
<p>【授業の内容】 1. 精神保健とソーシャルワーク 2. 精神保健福祉の動向 3. 精神障害についての基本的理解 4. 統合失調症の基本的理解 (1) 5. 統合失調症の基本的理解 (2) 6. 映画で学ぶ統合失調症 (1) : ビューティフル・マインド 7. 映画で学ぶ統合失調症 (2) : ビューティフル・マインド 8. 統合失調症と共存しながら暮らすとは (1) 9. 統合失調症と共存しながら暮らすとは (2) 10. 嗜癖問題の基本的理解 (1) 11. 嗜癖問題の基本的理解 (2) 12. 映画で学ぶアルコール依存症 (1) : 男が女を愛するとき 13. 映画で学ぶアルコール依存症 (2) : 男が女を愛するとき 14. 嗜癖問題からの回復とは 15. 総括</p>						
<p>【時間外学習】 適宜、地域で開催されるメンタルヘルスに関する講演会やイベントなどを紹介するので、積極的に足を運んで学習を深めて欲しい。</p>						
<p>【教科書】 なし</p>						
<p>【参考書】 適宜指示する</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 期末試験100%</p>						
<p>【注意事項】 試験は論述形式で行う</p>						
<p>【備考】 なし</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
市民参加と現代社会 (Active citizen and Society)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	教・経	教・経	後期	月2	豊島 慎一郎 内線 7708 E-mail : stoy@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
市民参加の社会的意義および基本理念を理解し、社会学の観点から現代社会が直面している諸問題（福祉、人権、災害支援等）を解決するにはどのような方策やシステムが必要なのかを考えることが本講義のねらいである。

【具体的な到達目標】
1. 市民参加の社会的意義、基本理念、歴史的背景の理解。
2. 各種統計資料および事例研究に基づく市民参加の現状の把握。
3. 市民主体による社会問題の解決の重要性に関する理解。

【授業の内容】
1. 講義説明（この回のみ出欠はとらない）
2. 市民とは何か-1
3. 市民とは何か-2
4. 市民参加と社会的活動-1
5. 市民参加と社会的活動-2
6. 市民参加と社会的活動-3
7. 市民参加と社会的活動-4
8. 中間テスト
9. 市民参加と社会的支援-1
10. 市民参加と社会的支援-2
11. 市民参加と社会的支援-3
12. 社会的活動と社会的支援-4
13. 社会的活動と社会的支援-5
14. 総論
15. テスト

【時間外学習】
試験日までに、講義中に紹介した参考文献を読んでおくことが望ましい。

【教科書】
なし。

【参考書】
講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】
成績評価の割合100%。
平常点（出席状況、受講態度、コミュニケーション・カードへのコメント記入）50%、中間・期末試験（持込不可）50%。

【注意事項】
1. 受講希望者が多数のばあい、受講人数制限を設ける。
2. 受講態度が悪い者は、減点対象として厳しく指導する。
3. 毎回出欠チェックをおこなう。無断欠席4日以上の方は不可（F）とする。
4. 中間試験未受験者は、不可（F）とする。
5. コミュニケーション・カードおよびレポートの内容が不十分な場合は、期末試験の受験を認めない。

【備考】
受講上のルールやマナーを正しく守り、学ぶ意欲がある学生の受講を希望する。なお、受講態度が悪い者に対しては、厳しく指導した上で退室を命じることもある。

後・月

授業科目名 (科目の英文名)
地球環境とエネルギー (Global Environment and Energy)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	月2	山田 英巳, 岩本 光生, 堤 紀子 内線 7802 E-mail : yamada@cc.oita-u.ac.jp, iwa@cc.oita-u.ac.jp,

【授業のねらい】

化石燃料の大量消費に伴い、大気中の炭酸ガス濃度の上昇による地球温暖化とそれに伴う砂漠化の進行、オゾン層破壊、海洋汚染等、人類の生活環境が近年急激に変化を遂げている。このため地球環境問題の現状や、その対策としての非化石エネルギー利用や省エネルギーシステム等を説明する。これにより現在のエネルギーと環境問題について理解をめざす。

【具体的な到達目標】

地球環境問題の全体像を理解し、地球温暖化の現状とその対策としての非化石エネルギーの現状について科学的に理解し、エネルギーと環境問題について自ら考え、くらしの中で対応・行動するための基礎的知識を有することを目標とする。

【授業の内容】

- [1回] 導入部：授業の概略の説明
- [2～5回] 地球環境の現状
 - ・地球という惑星、水と大気の循環（大気循環、海洋循環、水の循環等）
 - ・気候の形成（オゾンホール、環境汚染、砂漠化等）
- [6～7回] 人類とエネルギー：世界のエネルギー消費の変化、産業とエネルギー、身近なエネルギー消費
- [8回] 化石燃料の功罪：化石燃料を用いた現状のエネルギーシステム
 - ・CO₂による地球温暖化のメカニズム、CO₂増加による環境への影響予測
 - ・CO₂の回収・貯留技術
- [9～10回] 省エネルギーによるCO₂削減
 - ・運輸部門の省エネルギー：熱機関（カルノーサイクル等）の理論効率、ハイブリッド自動車等の省エネルギー技術、航空機の省エネルギー
 - ・家庭部門での省エネルギー：家庭からのCO₂排出原因、国の対応
 - ・発電部門の省エネルギー：発電効率の向上の取り組み（新大分火力発電所を例にして）
- [11～12回] 非化石エネルギーの現状と将来（1）（エネルギー量、原理、採算性）
 - ・原子力発電（原子力発電の現状、放射線の影響、原子力発電の基本原則、原子力発電の種類、安全対策）
 - ・核融合技術の現状と将来
 - ・太陽エネルギー利用（太陽熱利用、太陽光利用）
 - ・水力発電
 - ・風力発電
 - ・海洋エネルギー（波浪、朝夕、海流、海洋温度差、濃度差）
 - ・地熱
 - ・バイオマス
- [13～14回] 非化石エネルギーの現状と将来（2）：水素エネルギーの現状と将来およびその問題点

【時間外学習】

時間外学習として講義に関連した文献を示し、それを読んで理解してくること。

【教科書】

必要に応じてプリントを配布する

【参考書】

「地球温暖化がわかる本」（1990年）北野・田中編、マクミラン・リサーチ研究所（1,700円）

【成績評価の方法及び評価割合】

- ・原則として毎回授業の最後に演習的小試験を行う。その小試験、随時実施する課題レポート、および期末試験（実施予定）の合計点で評価する。
- ・毎回の授業の最後に行う演習的小試験の未提出者は欠席扱いとする。ただし、欠席の場合でも後日演習的小試験課題を提出した場合は減点して総合評価に加える。

【注意事項】

全授業回数数の2/3以上出席しない場合は再履修とする。毎週、授業の最後に演習的小試験を行う。

【備考】

- ・工学部は機械エネルギーシステム工学科エネルギーコース（1～4年）の学生のみ受講可。
- ・本講義はJABEEエネルギーシステム基礎コースの学習・教育目標（A）関連科目である。

授業科目名 (科目の英文名)
物質の状態と変化 (States and Changes of Matter)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1~3	教・経	後期	月4	大賀 恭 内線 ; 7958 E-mail: yohga@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
原子・分子の集合体という巨視的観点から物質をとらえ、物質の状態と変化の背後にある原理について学ぶことによって、よりいっそう物質についての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】
以下の概念を理解できるようになる。

1. 状態図
2. 熱力学の第一法則
3. 内部エネルギー
4. エンタルピー
5. 熱力学の第二法則
6. エントロピー
7. 自由エネルギー
8. 反応速度と速度式
9. 化学平衡

【授業の内容】
講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。

第1~2週 第6章 分子の世界1 (相図, 気体, 状態方程式)
 第3~4週 第7章 分子の世界2 (固体, 液体, ラウールの法則, 沸点上昇, 凝固点降下)
 第5~6週 第8章 エネルギーとエントロピー (第一法則, エンタルピー, エントロピー, ギブズエネルギー)
 第7~8週 第9章 化学平衡の原理 (平衡定数, ルシャトリエの原理)
 第9~11週 第10章 酸と塩基 (pH, pKa, 中和滴定, 加水分解, 緩衝溶液)
 第12週 第11章 酸化と還元 (酸化数, 電池)
 第13~14週 第12章 反応の速度 (反応速度, アレニウスの式, 触媒)
 中間試験 (試験時間30分程度。試験範囲: 第6~8章) を第8章が終わった翌々週に行う。

【時間外学習】
毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】
浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「FRESHMAN化学」(学術図書出版社)

【参考書】
浅野 努, 荒川 剛, 菊川 清, 共著「第4版 化学-物質・エネルギー・環境-」(学術図書出版社)

【成績評価の方法及び評価割合】
課題レポート(30%), 中間試験(20%), 期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】
高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ、その講義内容および方針は高校までの化学と異なり、基本原理の理解に重点を置く。できるだけ毎回課題レポートを課す。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で、試験問題も同一で行う。人数のバランスをとるために、1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが、2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】
前期開講の「原子と分子」を受講済みであること。

後・月

授業科目名 (科目の英文名)
日本語はおもしろい (How interesting the Japanese language is !)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	後期	火1	日高貢一郎 内線 7534 E-mail: hidaka@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

私たちは毎日「ことば」を使って暮らしている。しかし、その「ことば」についてじっくり考える機会は案外少ないのではないだろうか。

この時間は、現代の日本語の中から興味深い事例を取り上げ、その多彩で多様な実態に注目し、いま私たちの目の前で生きて動いている現状について理解を深める。

その作業を通して、ことばについての関心をさらに高めることをねらいとする。

【具体的な到達目標】

自分がふだん使っていることばを正確に「内省（ないせい）」できるようになりたい。「内省」とは、そのことばを自分が、どういうときに、どういう意味で、どういうふうに使っているかをふり返って、正確に把握することを言う。

また、多様な姿を見せている現代の日本語だが、自分はそれについてどう考え、どう対応しようとするのか、各自の「言語観」を育てるきっかけとしたい。

【授業の内容】

現代の日本語の中でも、世代や地域により、また人によって異なった使い方をされている興味深い事例を取り上げて、毎回、最初に数問ずつ受講者にアンケート調査を行う。その結果を元に、『国語辞典』ではどうなっているか、また影響の大きいマスコミ（その代表としてNHKの場合）ではどうしているかを参考にしながら、全員で考えていく。

「ことわざ、慣用語、漢字の表記、若者ことば、歌の歌詞、外来語、敬語、…」などを取り上げて考察する予定である。

【時間外学習】

ラジオやテレビ、新聞や雑誌などをはじめ、私たちの身のまわりで使われていることばに注目し、どういう言い方・書き方・使い方がされているか、日頃から関心を持つよう心がけてほしい。

【教科書】

『NHKことばのハンドブック』（NHK放送文化研究所編、NHK出版）

【参考書】

必要に応じて、適宜、プリントや参考資料などを配布する。

【成績評価の方法及び評価割合】

出席状況を重視する。（欠席は最大3回までとするので、十分注意すること）

学期末試験の結果をベースに、日頃の出席状況、受講状況などを加味しながら、総合的に評価する。

【注意事項】

『国語辞典』ではどういう扱いをしているかを参照しながら授業を進めるので、毎回必ず『国語辞典』（各自がすでに持っているものでよい。電子辞書も可）を持参すること。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
機械の世界 (The World of Mechanics)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教	後期	火1	劉孝宏, 木下和久, 濱川洋充, 田上公俊 内線 7780 E-mail: ryu@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

自動車, 鉄道, 航空機などに代表されるように, 機械は我々の日常生活にとって, 非常に身近な存在となっている。そのような機械を作り出し, 信頼できるものにするためには, 流体, 熱, 振動, 設計と言った様々な知識や技術が必要となる。本講義では, それらの技術が社会や産業界で使用されている機械とどのように関連し, どのように応用されているのかを, 実例をもとに学習する。

【具体的な到達目標】

機械工学は, 材料力学, 機械力学, 熱力学, 流体力学と言った力学を基礎として構成される。これらの力学は, 当然幾多の数式のもとに構成されるが, それらはすべて身の回りに存在している物理的な量を扱っているものである。本講義では, 理論を追うのではなく, 各分野のさまざまな現象例に関して, どのように理解すればよいのかという, いわゆる物を見る目を身につけることが到達目標である。

【授業の内容】

本講義では, 以下の4分野について各専門分野の担当教官が講義を行う。

1. (流体) 魚や鳥など地球上の生物にとって水や空気は不可欠であり, 人は古くからその利用を考えてきた。流体の作用を理解し, 機械の構造と原理を知ることが日常生活の知恵を高めるものとして大切である。本講義では, 流体の基本的な性質, 流体に働く力, 流体を利用した機械の作動原理について学ぶ。
2. (熱) 現在, 人類の利用しているエネルギーの85パーセント近くが燃焼によって取り出されており, 燃焼の効率的制御は環境問題の観点からとても重要な研究課題となっている。本講座では「燃える」ことに焦点をあてて現象の科学的な考察と応用例を紹介する。
3. (振動) 人の声, 地震, 車の振動など, 振動には音となって聞こえるものや, 人間の体で感じるものなどさまざまなものがある。本講義では, 身近なものから機械に関連した振動現象までを例に取り, それらがどのようにして発生しているのかを解説する。
4. (設計・工程管理) 機械設計, 機械工作, 工程管理に関する事項をわかりやすく解説する。

【時間外学習】

講義の際に指示する。

【教科書】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

講義の際に指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

レポート: 100% (各教官から出題された全てのレポートの提出が評価対象要件)
出席: 全講義の2/3以上の出席が評価対象要件 (欠席5回以上は再履修とする。)
原則として再試は行いません。不合格者はすべて再履修とする。

【注意事項】

レポートは各教官から指示された日時以外は受け付けません。遅刻は3回で1回の欠席とする。学問の分野は違いますが, 興味をもって取り組んで下さい。私語は慎んで下さい。携帯電話の電源は切るかマナーモードにして下さい。音楽用イヤホンをつけたままの受講は慎んで下さい。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
建築入門 (Introduction to Architectural Engineering)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	後期	火1	佐藤[誠](工)/井上(工)/菊池(工)/大鶴(工)/真鍋(工)/鈴木(工) 小林(工)/大谷(工)/富来(工) 内線 7936(事務室) E-mail: kenchiku@arch.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

建築は、人間の生活に必要な不可欠な存在であり、そこに住む人の安全を守るだけでなく、快適性、意匠性までも要求されるものである。さらに、近年は環境問題の悪化に伴い、建築においても環境負荷低減が厳しく要求されている。本講義は、建築学を専門に勉強しない学生を対象に、そのような現代社会で求められている建築について、意匠・設計、環境・設備、構造、材料・生産の各視点から分かりやすく解説する。

【具体的な到達目標】

次の事項について理解し、安全な町づくりや持続可能な建築の重要性をしっかりと認識する。都市と地球環境／生活・居住環境／室内音響と騒音振動問題／建築形態と構造の概要／地震による建築物の被害とその教訓／安全な住まいづくり／構造設計の概要／身近な建築物の構造と防災対策／耐震診断と耐震補強の概要／主要な建築材料の力学的特性と耐久性／建設廃材のリサイクル

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 建築・都市における騒音問題
3. 室内音響
4. 建築の熱環境・光環境
5. 都市計画と都市デザイン
6. 都市システム
7. 都市景観
8. 福祉住環境の計画
9. 木造建築①
10. 木造建築②
11. 建築物の地震被害
12. 建築構造
13. 建築材料
14. 補修・補強、リサイクル

【時間外学習】

【教科書】

使用せず、必要に応じ講義資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験 (100%)

【注意事項】

本講義は建築学を専攻としない学科／学部の学生を対象としており、工学部福祉環境工学科建築コースの学生は受講できない。また、「建築構造工学」または「建築環境計画」を履修した者は受講できない。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
ケアから導く創造力＝三好春樹の思想と方法 (Creative led from Long-term Care)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教, 工	後期	火1	工藤 修一 内線 7947 E-mail: takamine@cc.oita.u.ac.jp

【授業のねらい】

三好春樹は、現場で絶大な支持を受けている介護界のカリスマです。これは、彼の思想・方法論が高齢者の生活に根ざしたものであり、具体的な手段をもつとともに、創造的なアプローチをしていることにあります。本講義では、介護において出会う典型的な場面・状況について、「なぜ、そのようなことが生じるのか」、「どのようにすれば解決できるのか」などについて、グループディスカッションを通じて学びます。

【具体的な到達目標】

- 1 複眼的思考をみにつける
- 2 ケアの学びから、創造力を涵養する。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 関係障害 1
3. 関係障害 2
4. 関係障害 3
5. 生活障害 1
6. 生活障害 2
7. 生活障害 3
8. 認知症 1
9. 認知症 2
10. 認知症 3
11. 事例分析 1
12. 事例分析 2
13. 事例分析 3
14. 事例分析 4
15. まとめ

【時間外学習】

三好春樹の著作は一切読まないで講義に臨んでください。理由は初回の講義で説明します。

【教科書】

使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

試験レポート100点。

【注意事項】

- 取り扱うのは高齢者、あるいは介護に関わる際の「視点」であり、排泄ケアなどの介護「技術」ではありません。
- 「入門的」な内容ですので、医療・福祉現場に従事したことがある社会人学生等にはあまりお勧めできません。
- グループワークが中心です。
- 私語などは厳禁です。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
地域と情報 (Community-based Information System)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	後期	火1	藤井弘也 内線 7562 E-mail:

【授業のねらい】

この講義では、市町村合併が進む現在の地域で力点が置かれている情報化について、現状と問題点について考察し、デジタルデバイドや情報のセキュリティなどの問題点への多くの取り組みを紹介すると共に、国策として進められようとしている情報化の方針を紹介しながら、望ましい地域の情報化について考えていくことを目的とする。

【具体的な到達目標】

地域の情報化の現状を知り、具体的問題点について考える。国の進めようとしている情報化の方針と地域の情報化との関連を知り、学生それぞれが地域の情報化について考えることができるようになる。

【授業の内容】

1. 地域の情報化例 1
2. 地域の情報化例 2
3. 地域の情報化例 3
4. 国策と地域の情報化
5. デジタルデバイド 1
6. デジタルデバイド 2
7. ネットワークとセキュリティ
8. ネットワークと映像、音声 1
9. ネットワークと映像、音声 2
10. 個人情報とセキュリティ
11. 豊後高田市での情報提供サービスシステム 1
12. 豊後高田市での情報提供サービスシステム 2
13. 豊後高田市での情報提供サービスシステム 2
14. 地域の情報化と課題
15. まとめ

【時間外学習】

できるだけ関連するテレビ番組や情報などを見て、地域の情報化について興味を持ち、疑問を感じる目を養う。

【教科書】

なし

【参考書】

デジタル・ネット産業革命 小尾敏夫 PHP研究所
IT革命が見る見るわかる 松原聡 サンマーク出版

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験50%、ライティング50%。4回以上欠席は受験資格なし。毎回出席をとる。

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
化学物質と環境影響 (Ecotoxicology)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・工	後期	火1	吉岡義正 内線 7631 E-mail:yoshioka@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
 “地球にやさしい”といった標語に含まれる意味を冷静・厳格に理解し、やさしくあるために必要な環境破壊のメカニズムに対する科学的な知識を習得する。更に、化学物質による環境影響を数値化・評価して、地球生態系を保全するための基礎知識や技術を学ぶ。

【具体的な到達目標】
 1 人類の課題の概要を説明できる。
 2 化学物質による環境問題の現況を説明できる
 3 化学物質による影響を少なくする方策について説明できる

【授業の内容】
 1. 人類の問題：歴史的展開
 2. 人類の問題：人・食糧
 3. 人類の問題：資源・環境
 4. 化学物質と環境影響：ダイオキシン
 5. 化学物質と環境影響：内分泌攪乱化学物質
 6. 化学物質と環境影響：地球温暖化，オゾン層破壊
 7. 環境倫理：技術と倫理
 8. 環境倫理：全体主義と世代間倫理
 9. 環境倫理：自然の生存権
 10. 環境問題の基礎：生態系のルール
 11. リスクの考え方
 12. リスクアセスメント・リスクマネジメント
 13. 生態影響評価システム
 14. 生態影響評価 (PEC, PNEC)
 15. まとめ

【時間外学習】
 配布されたプリントは事前に読んでおくこと。特に化学物質が関与する環境問題に係わる新聞報道等に留意すること。

【教科書】
 必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】
 1. 環境庁(編) 環境白書(総説) 大蔵省印刷局, 2. 保田仁資, やさしい環境科学 化学同人, 3. 加藤尚武, 環境倫理学のすすめ, 丸善ライブラリー, 4. 若林明子, 化学物質と生態毒性, 丸善

【成績評価の方法及び評価割合】
 試験100%, 試験は、主に記述形式で実施する。

【注意事項】
 6回以上休んだものは受験資格を失う。

【備考】
 なし

授業科目名 (科目の英文名)
生涯学習論入門 (Introduction to the theory of Lifelong Learning)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	教・経・ 医・工	後期	水1	岡田正彦 内線 7647 E-mail:msokada@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

大学生という時期は、学校教育を中心とした受動的学習スタイルの最後の時期であり、「自己主導的学習」や「成人教育」に向け学習スタイルを自発的・積極的なものに転換すべき時期でもあります。しかし、一般的には、高校までと同じスタイルで学ぼうとし、卒業後は自主的に学べない人が多いのが実情です。この授業では、生涯学習の理論の基礎を知るとともに、自分の身近な生活（家庭生活や社会生活、学校での生活など）に生涯学習がどのように関わるのかを知り、自分がどのような学習を行っていくかについて展望を持ってもらいたいと思っています。

【具体的な到達目標】

- ・生涯学習に関する基本的事項を理解すること
- ・自らの生涯学習の展望を考えること
- ・生涯学習を行っていくために必要な態度や知識、技術などについて理解しその向上に取り組むこと

【授業の内容】

- ・これまでの自分の学習経験の評価と経験交流GW
- ・生涯学習のコンセプト
- ・生涯学習関連施策の動向
- ・生涯学習の推進と計画
- ・生涯学習と学習者（学習者としての自己評価GW）
- ・生涯学習と支援者・指導者（学習支援計画策定GW）
- ・生涯学習の機会
- ・生涯学習と学校
- ・生涯学習の内容
- ・生涯学習の方法・形態
- ・生涯学習情報の提供と学習相談

【時間外学習】

- ・診断的ポートフォリオの作成
- ・取り上げたトピックについてのレポートの作成

【教科書】

佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007年。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

授業中のライティング（30%）、グループワーク（30%）、レポート（40%）、により評価します。

【注意事項】

授業では、グループワーク（GW）や担当教員からの質問に対し、積極的に関与することが求められます。遅刻や私語に対しては、厳しく対処します。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
地域ブランド入門 (Introduction to Japanese local brand management)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水1	薄上 二郎 内線 E-mail

【授業のねらい】

地域ブランド戦略の基本的な考え方，理論，事例を学びます。
また，グローバル市場の中でどのように競争力を高めるかを議論していきます。

【具体的な到達目標】

地域ブランドに関する基本的知識を身につけ，経営学の視点から問題解決能力・意志決定能力の向上を目指す。

【授業の内容】

1. 講義の概要説明
2. 地域ブランドとは何か(1)
3. 地域ブランドとは何か(2)
4. 経営学の視点からみた地域ブランド(1)
5. 経営学の視点からみた地域ブランド(2)
6. 経営学の視点からみた地域ブランド(3)
7. 地域ブランドの事例研究(1)
8. 地域ブランドの事例研究(2)
9. 地域ブランドの事例研究(3)
10. 地域ブランドの事例研究(4)
11. 地域ブランドの事例研究(5)
12. グローバル化と地域ブランド(1)
13. グローバル化と地域ブランド(2)
14. グローバル化と地域ブランド(3)
15. トピックス

【時間外学習】

予定なし

【教科書】

授業中に指定する

【参考書】

授業中に紹介する

【成績評価の方法及び評価割合】

小テスト20点，中間テスト40点，最終テスト40点で総合評価

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
経済学で物事をみる (Using economics to explain things)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水1	相浦 洋志 内線 E-mail:h-aiura@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

学割はどうしてあるのでしょうか？苦学生のことを考えて・・・というのもありそうですが、企業は慈善団体ではありませんので、すべてがすべてそうではないでしょう。経済学の視点でみると、企業は自身の利益を増加させるために学割を取ってすることもあることがわかります。本講義では、「オークションで得をするためには？」、「意見を求められたとき、つい前の前の人と同じ(そして無難な)意見を言ってしまうのか？」といった幾つかのトピックスについて経済学の視点から説明を試みます。

【具体的な到達目標】

1. 物事を表面的に捉えるのではなく、抽象化し論理的に考える力をつける。

【授業の内容】

以下の項目についてそれぞれ1～2回ほどで講義します。わかりやすく解説できる時事ネタがあった場合には、一部内容を変更してその時事ネタを取り上げる場合があります。

1. 分業のススメ
2. 学割は学生のため？
3. ネットオークションで得するためには…
4. 勢力争いと投票方式
5. 男と女の恋愛マッチング
6. 模倣と差別化
7. 投資とリスク管理

時間の制約上、一部行えないトピックスが生じる可能性があります。

【時間外学習】

欠席が多い方はそれなりの時間外学習が必要となります。

【教科書】

資料をその都度配布します。

【参考書】

必要があれば、講義中に紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験(100%)、もしくはレポート(100%)

【注意事項】

中学校レベルの数学を使用することがあります。

前回、“5. 男と女の恋愛マッチング”に惹かれて当講義を選ぶ方がいましたが、このトピックスは1回分の講義で終わりますので、このトピックだけで当講義を選択するのは危険です。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
海流とその研究 (Ocean Currents and Their Research)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水1	西垣 肇 内 線 7571 E-mail: gaki@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

海洋物理学という研究分野がある。この分野は海水の物理学的性質と現象を扱う。具体的には、水温・塩分などの分布と変動、海流・海水循環、風波やうねり、潮汐と潮流、海氷などの課題を、物理学に基づいて理解する。近年は、物質循環、大気海洋相互作用、気候変動など、海洋化学、海洋生物学、気象学との連携で行われている課題も多い。この講義では、海流の話題を中心に、研究者の仕事ぶりや背景にある考えかたを含めて、海洋物理学を紹介する。

【具体的な到達目標】

- ・海洋と研究に興味を持つ。
- ・大洋の海流を知り、理解する。
- ・海洋物理学の研究活動と考えかたを知る。

【授業の内容】

1. 導入
2. 地球と海洋
3. 海洋の大循環
4. 海洋力学の基礎
5. 風成循環と西岸境界流
6. 海洋観測 (1)
7. 海洋観測 (2)
8. 資料解析と作図
9. 観測的研究の例
10. 数値実験の手法
11. 数値実験の適用例
12. 研究者の仕事：研究，学会，論文
13. 海洋物理学の特徴
14. まとめ

【時間外学習】

練習問題，課題問題を出す。その他，納得がいくまで考え，調べることが重要である。

【教科書】

指定しない。

【参考書】

宇野木早苗・久保田雅久「海洋の波と流れの科学」東海大出版
関根義彦「海洋物理学概論」成山堂出版

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験 60 % 課題レポート 40 %

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
機械と文明 (The Impact of machines on civilization II)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・医	後期	水1	後藤真宏/濱武俊朗/鹿毛一之 (工学部) 内線 7772 E-mail: masagoto@cc.oita-u.ac.jp (後藤)

【授業のねらい】
工学の一つの専門分野である、機械工学が現代社会および社会生活とどのように関わっているかを、歴史的な側面と共に、基礎的な知識として習得することを目的とする。機械工学を構成するものとして、伝統的に四力(りき)、すなわち、材料力学、熱力学、流体力学、および機械力学が挙げられるが、これらの分野を通して、基礎的な内容から、先端的なものまで、極力数式は避け、平易に講述することに努め、機械工学への理解を深めるとともに、機械工学の現代社会・社会生活へ占める役割・今後の発展へのより深い理解を提供する。授業の展開は、関連する専門分野の教官3人で行う。特に、他の工学関係の授業科目との関連性にはこだわらない。

【具体的な到達目標】
機械工学の基礎的専門分野である、材料力学・熱力学及び流体力学的視点から、それぞれの専門基礎的な内容、およびそれらの応用・社会への活用状況などを歴史的発展などを加味しながら、機械工学的素養を修得できる。ただ、極力数式的展開は避けるとはいうものの、多少の基礎的知識(高校における数学・物理関係の基礎知識)が持っている方が望ましいと考える。

【授業の内容】
下記の三つの分野内容を行う。順序は、その年度の各教員の職務内容により異なるので、事前に講義内容として明示することは困難である。
(1) 私たちは地球上で空気と水に囲まれた環境の中で生活し、空気や水に代表される流体は文明生活を営む上で不可欠な役割を果たしている。自動車、飛行機などに関連した流れ、流体輸送、流れのエネルギーなど、流れに関する基本的事象を概説する。
(2) 燃焼は、産業から家庭生活まで幅広く利用され、機械工学の分野でも、熱工学、動力エネルギーシステム、環境、航空宇宙などの分野に密接に関係している。燃焼の役割と重要性、などについて概説する。
(3) 大きな力が加わる機械は、その強さを保証し破壊を防ぐため金属材料から造られることが多い。これら金属はどの位の強さを有し、どの様に破壊が起こるのか、また材料の破壊を防ぐための工夫などについて、幾つかの事例を挙げて概説する。

【時間外学習】
配布資料等を予習して授業に臨んでほしい。

【教科書】
必要に応じて資料を配付する。

【参考書】
講義の際に指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】
出席：50% (2/3以上の出席が評価対象要件)、レポート：50% (全レポート提出が評価対象要件)

【注意事項】
「成績評価の方法」に示したように、各教員から課せられたレポートはその全てを提出することが成績評価の条件である。

【備考】
工学部学生の受講は認めない。原則として授業開始時に出席をとり、その後入室した者は欠席とする(遅刻は欠席とする)

後・水

授業科目名 (科目の英文名)
税金入門 (Guide to Japanese Tax)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水2	吉田 初志 内 線 6752 E-mail : yoshida-hatsushi@cc.oita-u.ac.jp
<p>【授業のねらい】 税金は私たちの生活の様々な面に密接に関わっています。この講義では、毎回身近な税金のテーマを取り上げ、素養として基礎的な知識を学んで、今後税の問題を考える力を養います。難解な税法には触れずに、税金に関心のある方なら理解できるようにします。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 1. 税金に関する基礎知識を修得する。 2. 税金に関する新聞記事やパンフレット等の内容が理解できる。</p>						
<p>【授業の内容】 次のようなテーマを取り上げる予定です。進捗状況などにより、テーマの順番を変えたり、臨時に違うテーマを扱うことがあります。テーマによっては、複数回にわたることもあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の財政の仕組みと現状 2. 税の基礎知識 3. 国税庁のホームページを活用しよう 4. 給与所得者の税 5. 高齢者や障害者と税 6. 暮らしの中の税 7. 不動産と税 8. 相続・贈与と税 9. 酒、タバコ、車にかかる税 10. 申告と納税 11. 確定申告書等作成コーナー/電子申告・納税(e-Tax) 12. 税金を滞納したら 13. 税務署の処分に不服があるとき 14. 税務行政組織 						
<p>【時間外学習】 日頃から税に関する新聞記事や本を読んで、関心を持ちましょう。</p>						
<p>【教科書】 特に指定しません。下の国税庁ホームページ内の資料を基にします。</p>						
<p>【参考書】 税金の解説書が多数出ていますので、自分に合ったものを読んでください。また、国税庁ホームページの中でも特に「パンフレット・手引き」のコーナーの「広報関係」の資料を参考にしてください。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 課題レポート（50％）と期末試験（50％）を総合的に評価します。</p>						
<p>【注意事項】 他人の迷惑となる行為を禁止します。</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
グローバル経済入門 (Introduction to Global Economy)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水2	柴田 茂紀 内線 7715 E-mail:sshita@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
 1) 新聞記事を利用して「グローバル経済を見る眼」を養う。
 2) 受講生が経済学の用語に慣れていない場合でも、グローバル経済に関するニュースが理解できるように、基礎的な知識や理論を紹介していく。

【具体的な到達目標】
 1) グローバル経済の基礎知識を習得する。
 2) 世界経済の「つながり」を理解する。
 3) 現実の世界経済を動かしている基本的な要因を理解する

【授業の内容】
 1) グローバル化って何だろう？
 2) 「情報」から考えるグローバル化
 3) グローバル化の問題点1
 4) グローバル化の問題点2
 5) グローバル化は問題か？
 6) チョコレートパフェから考えるグローバル化
 7) ペンギンの生活から考えるグローバル化
 (地球環境を考える)
 8) 「環境問題」の問題点
 9) 携帯電話から考えるグローバル化
 10) 自動車から考えるグローバル化
 11) 円高・円安、どっちがお得？
 12) 世界の新聞から見えるもの
 13) 日本の常識は世界の非常識？
 14) まとめ

【時間外学習】
 新聞を読み、世界の動きを考える習慣をつけること。なお理解を深めるために、数回の課題がある。

【教科書】
 指定しない。
 毎回の授業ごとにプリントを配布するので、まとめるためのファイル (A4サイズ) を用意すること。

【参考書】
 講義中に指示する

【成績評価の方法及び評価割合】
 授業点 (小テスト、中間テスト、中間レポート) 70%、期末試験30%
 ※小テストや中間テストは、授業を聞いていなければ対応できないような問題です。

【注意事項】
 1) 欠席回数に応じて課題がある。
 2) ほぼ毎回、小テストを実施する。
 3) 出席点は、小テスト・中間テスト・中間レポートの点数で計算する。

【備考】
 本講義は、世界経済論 (後期) の入門編として位置づけています。

後・水

授業科目名 (科目の英文名)
経営学の基礎 (Introduction to Management Studies)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水2	仲本 大輔 内線 7714 E-mail: daichan@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
 人々の多くは何らかの組織に関わっています。企業を中心とする組織で働き、サークル活動やボランティア活動に参加して充実した余暇を過ごしています。
 本講義は、企業を中心とする組織を研究対象とする経営学の基礎知識を習得し、さまざまな組織を見る眼を養うことをねらいとします。

【具体的な到達目標】
 企業経営に関するニュース、記事を見聞きして自分の視点から考察できるようになること、さらには企業を中心とする組織を見ることで世の中の動きをつかめるようになることを目標とします。

【授業の内容】
 主な講義項目は以下の通りです。複数回にわたるものもあります。

1. オリエンテーション、経営学学習の意義
2. 自由主義経済体制
3. 企業概念
4. 企業の組織構造
5. 企業の組織形態
6. 利害者集団
7. 非公式組織
8. 企業の経営戦略
9. 企業の国際展開

【時間外学習】
 興味を持っている業界やその業界に属する企業に関わるニュース、新聞記事等に目を通してください。

【教科書】
 周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔 (2009) 『経営学1 企業の本質』実教出版、を予定しています。
 また、毎回レジュメを配布します。

【参考書】
 周佐喜和・竹川宏子・辻井洋行・仲本大輔 (2009) 『経営学2 グローバル・環境・情報化社会とマネジメント』実教出版。
 他にも適宜紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】
 期末試験により評価します。

【注意事項】
 レジュメを綴じるためにA4サイズのファイルを用意してください。ノートも用意するのがのぞましいです。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
エレクトロニクスの世界II (Introduction to Electronics II)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	教・経・医	後期	水2	鍋島隆 他2名 (佐藤輝被、厨川明) 内線 7849 E-mail:nabesima@eee.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

エレクトロニクスの基礎から応用まで、最近のトピックスを交えた講義を行う。

- (1) 「情報」、「シミュレーション」という言葉を工学的な立場から考え、一般的な事例をあげて定量的に評価する方法を、難しい数式などをできるだけ使わずに概説する。(鍋島)
- (2) 近年の情報化社会に不可欠な電子計算機に関する基礎知識とその基本となるデジタル回路について理解を深める。(佐藤)
- (3) エレクトロニクスの基礎である電気磁気に関する法則の体系(電磁気学)を、簡単なデモを交えて概説する。(厨川)

【具体的な到達目標】

- (1) 「情報」や「シミュレーション」という用語を、ある程度理論的に明確な意味付けされたものとして理解する。又、パルス技術についてその考え方、技法を実例をもとに習得する。
- (2) 電子計算機の基礎用語を理解し、論理代数公式の証明および基本的な論理回路の設計ができる。
- (3) 個々の知識というよりも、その根底にある理工学的な考え方を電磁気学における論争を通して理解する。

【授業の内容】

以下の3テーマ(各4~5週)によって構成される。

- (1) 情報とシミュレーションおよびパルス技術
 - 1) 情報量とエントロピー 2) シミュレーション 3) パルス技術
- (2) デジタル回路と電子計算機
 - 1) 電子計算機の基礎知識 2) 論理代数と基本定理 3) 論理回路とその設計
- (3) 電磁気学における論争
 - 1) 電気磁気の基本法則 2) 電気磁気エネルギー 3) 物体に働く電気磁気力

【時間外学習】

事前、事後学習の指導については、特に行わない。

【教科書】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法及び評価割合】

(1), (2), (3)の各講義が終了後、そのつど試験を行う。試験の成績は、3回分の平均点によって評価する。従って、学期末試験は実施しない。授業回数の2/3以上出席していなければ、再履修とする。

【注意事項】

板書やOHP等(PowerPointによるスライドを含む)により講義を行う。工学部の学生は受講不可。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
くらしの化学 (Chemistry in Daily Life)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水2	氏家 誠司/飯尾 心/豊田 昌宏 内 線 氏家(7903), 飯尾(7959), 豊田(7904) E-mail:kokoro-i@cc.oita-u.ac.jp (飯尾)

【授業のねらい】
身の回りで利用されている化学材料および化学製品について理解するとともに、その機能および性能について学ぶ。具体的には、界面活性剤、プラスチック、ゴム、繊維、染料、化粧品、セラミックス、生体材料および光学材料などについて理解を深める。これによって、日々の暮らしの中に如何に化学が関わっているかを理解する。

【具体的な到達目標】
身近な材料や製品の特徴、役割および問題点、さらには日常生活の中での化学物質と感覚との関わり合いを理解する。

【授業の内容】
以下の内容について演示実験などを交えながら講述する。

1. 身の回りにおける化学製品の概要
2. 石油化学工業と製品
3. 化学材料と製品の概要
4. 染料の特性と応用範囲
5. 高分子の特徴と高分子製品の概要
6. プラスチック製品の特徴と応用範囲
7. ゴム、接着剤、医療用プラスチック
8. 繊維製品の種類と特徴、繊維加工技術
9. 化学材料と環境問題 (化学材料の環境への影響、再生利用)
10. 界面活性剤の特性、利用範囲と問題点
11. 界面活性剤が関係する製品 (洗剤、化粧品、食品)
12. セラミックス
13. 生体材料

【時間外学習】
与えられた課題について、レポートを手書きでまとめる。

【教科書】
必要に応じて資料を配布する。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
テスト、レポートおよび講義への取り組み態度

【注意事項】
2/3未満の欠席者は不合格とする。

【備考】
工学部応用化学科の学生は受講不可
実験等を行うため受講可能な人数は100名程度

授業科目名 (科目の英文名)
健康と看護 (Health and Nursing)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・工	後期	水2	代表 井上 亮 (医学部看護学科) 内線 5051 E-mail: ryo@med.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
「健康で自分らしくありたい」という願いは、全ての人々に共通するものである。健康を守る責任の基本は個人にあるとはいえ、私たちは日常生活の中で自身や家族の健康を守ることをどのくらい意識して実践しているだろうか？
本科目では、学生が自分や家族の健康に関心を持ち、生涯にわたり健康を自ら守るための実践的知識を得ることを目的に、発達段階（誕生～子ども～青年～成人～高齢者）や健康段階（病気の予防、回復、安らかな死）に応じた健康支援・看護の知識を教授する。

【具体的な到達目標】
1. 看護の概念を理解し、自分が生活の中で実践している健康を守るための知識に関心をもつ。
2. 健康の概念および健康のための自己決定について理解する。
3. 人々の健康課題（生命の誕生、子どもの成長・発達、生活習慣病予防、安らかな死、健やかな老い、地域生活の継続、病気からの回復等）とそれらを解決する看護の方法を理解する。

【授業の内容】
毎回、看護学科の教員が、それぞれの専門性にそって、オムニバス形式で授業をすすめる。
1. 暮らしの中の看護 2. 生命の誕生と看護 3. 子どもの健康と看護 4. 成人の健康と看護 5. DVから私を守る・人々を守る
6. がんと共に生きる人々への看護 7. 人生を生きることを支える看護 8. 認知症を正しく知ろう 9. 家族・集団・地域の健康と看護 10. 私の健康・人々の健康 11. 生活と健康 12. 感染予防と看護 13. 生活習慣病と脳卒中 14. 糖尿病の起こり方と予防法

【時間外学習】
なし

【教科書】
なし

【参考書】
授業中に担当教員が適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】
・ 期末試験 (100%)
・ 2/3以上の出席がなければ期末試験の受験資格を失う。

【注意事項】
・ 毎回の授業終了時に評価シートを用い各自で学習評価を行う。この評価シートの提出をもって出席状況を確認する。
・ 医学部の学生は受講対象にならない。

【備考】

後・水

授業科目名 (科目の英文名)
社会的排除と福祉 (social exclusion and welfare)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水2	平塚 良子 内線 7540 E-mail: ryhira@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
「社会的排除」という用語は、1970年代初頭にフランスで用いられたのが最初といわれるが、国によっても異なる意味をもっており、定義も多様である。我が国でこの用語が社会福祉の分野で注目され始めたのは、ホームレスの増大を契機に貧困問題が深刻化してきたことによる。社会福祉分野では、この用語が確定した概念になっているとは言い難い。本授業では、これまでの「社会的排除」の概念をレビューしつつ、規定し、福祉事象の新たな可視化を試みる。本授業では、具体的な事例を活用しながら、「社会的排除」の理解を深めるとともに、福祉事象に対する観点（福祉事象の認識の仕方、福祉観や援助観）を豊かにすることをめざす。

【具体的な到達目標】
1. 社会的排除の多様な概念を理解する。
2. 社会的排除概念からの福祉事象の分析的アプローチを理解する。
3. 福祉事象の新たな認識による福祉観や援助観、共生や協同の観点を養う。

【授業の内容】
1. ある福祉事象から（社会的排除の存在）
2. ～3 「社会的排除」概念の登場と背景
4. ～5 社会的排除概念の特徴
6. ～7 社会的排除と福祉
8. ～9 福祉事象(1)と社会的排除
10. ～11 福祉事象(2)と社会的排除
12. ～13 福祉事象(3)と社会的排除
14. 福祉事象と社会的排除概念による分析の意味と意義
15. まとめ

【時間外学習】
・社会問題や福祉問題に対する意識を養う自己学習を期待したい。

【教科書】
使用しない

【参考書】
岩田正美（2008） 社会的排除：参加の欠如・不確かな帰属
その他適宜紹介の予定

【成績評価の方法及び評価割合】
講義に関する感想文及び最終試験により総合的に評価する。

【注意事項】
資料が配付される場合は互いに協力すること。
学生同士協力をして教室が静謐な環境となるように努めること。
遅れた学生は静かに入室すること。

【備考】
資料配付、必要に応じて視覚教材を活用する。

後・水

授業科目名 (科目の英文名)
東南アジアの社会と教育 (Society and Education in Southeast Asia)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水2	平田利文 内線 7545 E-mail

【授業のねらい】
 東南アジアの社会と教育にスポットを当て、東南アジア諸国の社会及び教育の特質を明らかにすることを目的とする。さらに比較教育的な観点から、東南アジア諸国の教育に関する理解を通して、我が国の社会と教育についても考察を加える。
 特に教員をめざすもの、あるいは企業に就職を希望するものは21世紀のボーダレス時代、グローバル時代を生き抜くために、アジア、東南アジアの近隣諸国の理解は避けては通れないだろう。

【具体的な到達目標】

- 1 東南アジアの社会が理解できる。
- 2 東南アジアの教育が理解できる。
- 3 各国の社会と教育について、資料を作成し、プレゼンテーションができる。

【授業の内容】

1. イントロダクション
2. 東南アジアとは
3. 東南アジアの社会：国、地理、歴史
4. 東南アジアの社会：文化、政治、経済
5. 東南アジアの教育（1）－教育制度
6. 東南アジアの教育（2）－教育内容
7. 東南アジアの教育（3）－教育の特色
8. プレゼンテーション（1）－タイ
9. プレゼンテーション（2）－マレーシア
10. プレゼンテーション（3）－シンガポール
11. プレゼンテーション（4）－インドネシア
12. プレゼンテーション（5）－フィリピン
13. プレゼンテーション（6）－ベトナム
14. プレゼンテーション（7）－ラオス
15. まとめ

【時間外学習】

- 1 プレゼンテーションでは、グループ編成をするので、各グループは担当する国について資料収集し、それを読んでおく。
- 2 プレゼンテーションをしないものは、当該国について質問を準備しておく。
- 3 プレゼンテーションのためのレジュメを準備しておく。

【教科書】
 その都度資料を配布する。

【参考書】
 図書館所蔵の『もっと知りたい 東南アジア』（弘文堂）のシリーズ（各国編）

【成績評価の方法及び評価割合】
 プレゼンテーション、期末レポート、講義の態度を総合的に評価

【注意事項】
 なし

【備考】
 なし

後・水

授業科目名 (科目の英文名)
大分の水 II (Water environment in Oita II)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 工・医	後期	水2	川野 田實夫、市原 宏一、前田 寛、本谷るり、芝原雅彦 内 線 7719 E-mail: ich@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

地域の水辺から大分県、さらにアジア・太平洋地域にまで視野を広げ、地球規模での共生社会について実態的に理解を深めます。同時に、自然環境や実際に生活する人々との交流、流域での野外体験と、教室での授業を通じて、地域環境や地域づくりについての考察も深めます。また、野外実習や地域諸行事への参加による集団学習の体験を通じて、学生相互さらには地域の人々と共に学びあいます。

【具体的な到達目標】

1. 地域から地球規模に及ぶ、自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとします。
2. グループ・集団での学習・生活など大学における基盤的な勉強法の習得をめざします。
3. 地域の人々との交流により社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。

【授業の内容】

- 第1回 ガイダンス
 第2回 水と環境 (1) (担当・川野)
 第3回 里山の環境となりわい (担当・市原)
 第4回 地域体験活動：稲刈り等九重飯田地区
 第5回 地域体験活動：稲刈り等竹田岡本地区
 第6回 地域体験活動：里山生業体験安心院
 第7回 水辺のスポーツ (担当・前田)
 第6回 水辺のスポーツ実習 (カヌー)：大分川河口
 第7回 大分の水辺環境史 (担当・市原)
 第8回 地域体験活動：里山の自然観察大分市内
 第9回 水と地球環境 (2) (担当・川野)
 第10・11回 特別講義：おおいた水フォーラム
 第12回 地域体験活動：里山の自然観察 (バードウォッチング)
 第13回 ゼロエミッションコンセプトからとらえる地球水環境 (大分大学学長・羽野先生)
 第14回 まとめ
 試験

【時間外学習】

実際に水辺で、スポーツや川遊び、水質調査、流域保全活動など様々な野外実習を行います。

【教科書】

授業中に資料を配付します

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

試験 (30%)、講義・体験活動参加に際しての小レポート (70%)

【注意事項】

野外体験実習や行事参加など教室外・通常時間外の授業に大きな比重があります。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)						区分・分野・コア
大分を探ろう (Let's find and discuss about Oita)						全学共通科目 人文
必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1,2,3,4	教・経・ 医・工	後期	水3	大嶋誠 (教育担当理事)、岡田正彦 (高等教育開発センター) 他 内線 : 7647 (岡田) E-mail : hecenter@cc.oita-u.ac.jp
<p>【授業のねらい】 皆さんは、大分の魅力をどのくらい知っていますか？また、地元と自分自身の学習・研究内容とのつながりについて考えたことがありますか？本授業では、大分について理解を深めると同時に、大学内外で進められている教育・研究内容等の紹介を通して、地元に対する愛着と広い視点を持った学生の育成を目指します。 なお、本授業は大分県内の8大学が参加して企画・実施するもので、本学の受講生は対面授業、他の7大学の受講生はビデオ視聴による授業となります。</p> <p>【具体的な到達目標】 ①講義を通して、大分に対する理解を深め、大分の特徴や課題を第三者に説明することができる。 ②多角的・複眼的な視点から物事を捉え、考察することができる。 ③レポート提出を通して、自分自身の考えを論理的に表現することができる。</p> <p>【授業の内容】 ・オムニバス形式の授業であり、授業毎にミニレポート (300字以内) を求めます。 ・以下の授業の順序・テーマは変更されることがあります。変更の場合、その都度、お知らせします。 ①大嶋誠 (教育担当理事) 「ガイドランス」 ②立命館アジア太平洋大学担当授業 ③立命館アジア太平洋大学担当授業 ④飯沼賢司 (別府大学) 「八幡神とは何か」 ⑤段上達雄 (別府大学) 「六郷満山文化 衆正鬼会と峰入り」 ⑥大分大学担当授業 (全受講生対象) ⑦大分大学担当授業 (全受講生対象) ⑧小川伊作 (大分県立芸術文化短期大学) 「音楽学入門～音は楽しむものだけにあらず (仮)」 ⑨荻野 哉 (大分県立芸術文化短期大学) 「芸術学入門～アートの世界 (仮)」 ⑩山田繁伸 (大分工業高等専門学校) 「おおいたの歌碑を歩く」 ⑪島岡成治 (日本文理大学) 「大分近世城下町とその近代化～大分のまちの起源を探る～ (仮)」 ⑫工藤順一 (日本文理大学) 「“おおいた”の産学官の連携～新たなビジネスの創造について～ (仮)」 ⑬石井まこと (大分大学) 「大分の労働問題」 ⑭渡辺律子 (ハイパーネットワーク社会研究所) 「情報社会の最新動向と問題点 (仮)」 ⑮大分大学担当授業</p> <p>【時間外学習】 学期全体を通して1回の課題レポート (1200字程度) の提出を求めます。</p> <p>【教科書】 必要に応じて資料を配布します。</p> <p>【参考書】 必要に応じて資料を配布します。</p> <p>【成績評価の方法及び評価割合】 ①授業毎のミニレポート70%、課題レポート30%の総合評価になります。 ②ミニレポートは授業の終わりの時間 (15分から20分程度) を使って作成・提出となります。事後的な提出は認めません。 また、課題レポートの提出は締切を厳守してください。評価できない場合があります。</p> <p>【注意事項】 ①大分大学の受講生は教室で受講 (対面授業) となります。ビデオ視聴による受講は認めません。 ②ミニレポート未提出が5回以上となった時点で、単位認定が不可となります。また、課題レポートを提出しなかった場合も、単位認定ができません。 ③11月14日 (日曜) に、県内8大学の受講生が合同で受講する授業を実施します。</p> <p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
成人教育方法入門 (Introduction to Adult Education Method)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	教・経・ 医・工	後期	水3	中川 忠宣 内線 6027 E-mail:nakagawa@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

現代社会は、高齢者や団塊世代の社会参加促進のための学び直し、家庭教育力や地域社会の教育力の向上、学校と地域社会の教育の協働の推進などの多くの課題を抱えています。大人の地域づくりへの参画のために様々な学習会や研修会等が実施されていますが、それらが効果的に運営され、「学習」が「活動」に繋がるような教育手法が重要です。

そこで、各種調査の活用や事例研究等を「学習」にどう生かすか、「学習」したことを今後の活動にどう生かすかなどは成人グループのリーダーとして重要であり、この授業では「リーダー育成研修」を企画・リードするファシリテーターに関する学習をとおして、成人に対する教育方法を学びます。

【具体的な到達目標】

1. 地域社会の課題に積極的に対応する成人を育成するための会議・研修等に必要な条件を例示できる。
2. 成人教育の企画・構成・運営の手法を理解し、具体的なプログラムを作成することができる。
3. 会議・研修の運営に必要なファシリテーターの役割について例示できる。

【授業の内容】

1. 地域課題から見た成人教育の重要性を考えよう
2. 社会教育から見た成人教育の課題を考えよう
3. 「地域課題へ取り組むための戦略会議」の進め方考えよう
4. 演習①「地域課題へ取り組むための戦略会議」の実際
5. 演習から見えてきた「成人教育の方法」を考えてみよう
6. 成人教育のためのファシリテーターの役割を見てみよう
7. 成人教育のための戦略会議の企画で大切なことを考えてみよう
8. 成人教育のための戦略会議の構成で大切なことを考えてみよう
9. 成人教育のための戦略会議の手法・運営を考えてみよう
10. グループ研究①課題解決のための戦略会議を企画
11. グループ研究②課題解決のための戦略会議を構成
12. グループ発表①私たちが考える「戦略会議」
13. 演習②「課題を考える戦略会議」
14. 演習③「実践するための戦略会議」
15. まとめ

【時間外学習】

○県及び市町村等が主催する成人教育の研修会等を紹介するので、積極的に参加して具体的な場面をとおして、会議や研修のあり方を学び、グループ研究やレポートに生かして欲しい。

【教科書】

○特定の教科書は使用しません。適宜、資料を提示します。

【参考書】

○参考書は適宜紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

①「到達目標」に関する最終レポートによって、社会教育における成人教育の方法についての具体的なプログラムを提案し、企画・構成・運営等の方法の理解度を評価する。(60%)

②グループ研究・発表の評価、時間毎のレポート、時間外学習によって評価する。(40%)

【注意事項】

- 10～14時限は一連の流れですから、ここでの学習が直接レポートに生かされるように留意すること。
- 時間外の学習については、別途様式で提出するよう指示します。

【備考】

○社会人への公開授業とします。

授業科目名 (科目の英文名)
職業とキャリア開発 (Occupation and Career Development)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	教・経・ 医・工	後期	水3	大嶋誠 他 内線 E-mail

【授業のねらい】

各現場で活躍中の講師による実践を踏まえた授業によって、現代社会、特に企業及び行政の実態を多面的に理解させる。また、その多面的把握を背景として、企業においては、経済を取り巻く情勢や労働市場の変化、さらに企業の技術開発と求める技術者像などを講義し、行政では、行政の役割、行財政の概要などの講義を行い、それぞれ企業と行政の職業意識の向上を図るとともに、望ましい職業観・労働観を養成し、社会に貢献できる職業に就くことを支援する。

【具体的な到達目標】

学生が自己の適性に合致し、生涯を通じて打ち込み、社会に貢献できる職業につくことを支援するため、多くの学外講師を含めて、様々な職業・職種を紹介し、多くの就業のチャンスがあることを講義して職業選択の一助とする。

【授業の内容】

授業は、社会の発展と職業・職種の交遷、様々な職種、わが国の特殊性と変化、若者の職業意識、女性の自立と就業従業員の資格・昇進、労働者の権利、就職先の選択などについて講義する。企業内容では、現代社会における企業の役割、職種、業務の種類、形態の違い、専門性のある業務、企業の中での個人の自己実現、企業の求める人材、女性の活用などを講義する。また行政では、現代社会における行政の果たす役割、行政の職種、業務の種類、国家公務員と地方公務員の違い、行政の職種、国家公務員、地方公務員、行財政改革の概要、行政の求める人材、専門性のある行政職などを講義する。

【時間外学習】

各講師が与える課題について調査研究し、レポートとしてまとめる。

【教科書】

必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

- 1 平成13年度以前入学生：優 (80点以上) , 良 (79~70点) , 可 (69~60点) , 不可 (60点未満)
- 2 平成14年度以降入学生：S (100~90点) , A (89~80点) , B (79~70点) , C (69~60点) , D (59~50点) , F (50点未満)
- 3 欠席の場合の評価点は、0点とする。

【注意事項】

講師名や詳細な授業内容については、履修登録時に掲示で通知する。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
統計学入門 (An Introduction to Statistics)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水3	甲斐 隆文 内 線 2011 E-mail:kai-takafumi@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
情報化が進んだ現在社会においても、多くの分野で独自の情報を収集し、統計学的に整理・分析をしなければならない場合があります。本講座はその出発点となる基礎講座で、初めて統計学を学ぶ学生にすすめます。

【具体的な到達目標】
高等学校で学ぶ場合の数・確率の復習から始まり、資料の整理・推測・検定まで、統計学の基本的な事項について演習形式で解説します。

【授業の内容】

1. 高等学校の復習 (1) 順列・組合せ
2. 高等学校の復習 (2) 確率
3. 高等学校の復習 (3) 確率
4. 資料の整理 (1) 度数分布、代表値、平均、分散
5. 資料の整理 (2) 変量の変換
6. 資料の整理 (3) 散布図と相関係数
7. 資料の整理 (4) 同時確率分布
8. 正規分布 (1)
9. 正規分布 (2)
10. 二項分布
11. 標本平均の分布
12. 母平均の推定 (1)
13. 母平均の推定 (2)
14. 母比率の推定
15. 仮説検定

【時間外学習】
必要事項は授業中指示しますが、演習形式なので予習が必要です。日頃から納得するまで考え、自分の力で解くことが大切です。

【教科書】
特定の教科書は使用しません。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
ゼロから学ぶ統計解析 (講談社、小寺平治著)
確率統計□キャンパス・ゼミ□ (マセマ出版社、馬場敬之・久池井茂共著)

【成績評価の方法及び評価割合】
平常点 (30%)、レポート・定期試験 (70%) で総合評価します。

【注意事項】
数学は日々の積み重ねが大切です。欠席をすれば次回から分からなくなります。授業は毎回出席し、積極的に質問に来て下さい。

【備考】
予備知識を必要としない講座です。受講者は50名を限度とします。

授業科目名 (科目の英文名)
医科学入門 (Introduction to Medical Science)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	主に 3～4年 生	教・経 医・工	後期	水3	西園 晃 内線 5710 E-mail: a24zono@med.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

受講者が科学としての医学を理解することで、それを日常生活に役立てると共に、医学以外を専門とする方に医学研究への入り口となる事をねらいとする。毎年一つの病態に的を絞り、その概念とそれがどのような原因で引き起こされるのかについて人体の構造と生理機能の基礎を細胞レベル、遺伝子レベルからわかりやすくひもとき、病気の成り立ちの仕組みとそれに対処する術などの臨床的事項にまで学習を広げる。最終的には疾病を理解するためにどのような科学的アプローチが用いられているかを知る。

本年度は「アレルギー」を主題材に取り上げる。一般的に良く知られるアレルギーとはどのような病気なのか、その病態を知るために我々のからだの仕組みの中の何を知らなければならないか、その仕組みがどんな原因でどのように乱れた時に病気が起こるのか、実際にどのような病気がアレルギーの中に含まれるのか、どのような治療法が実際に行われているのか、これらを知るために、医学部関連分野の複数の教育がオムニバス形式で主題の理解を促す。

【具体的な到達目標】

1. アレルギーとは何か説明できる
2. アレルギー反応に関わる免疫システムについて概説できる
3. 個別のアレルギー疾患について概説できる
4. アレルギーの予防や治療について概説できる

【授業の内容】

1. アレルギー・免疫学総説I (アレルギーとは何か)
2. アレルギー・免疫学総説II (アレルギー反応を司る細胞群)
3. アレルギー・免疫学総説III (I~IV型アレルギー)
4. 寄生体に対するアレルギー(細菌やウイルスに対する反応)
5. 寄生体に対するアレルギー(寄生虫に対する反応)
6. 気管支喘息
7. 食物アレルギー
8. アトピー性皮膚炎
9. 花粉症
10. アレルギーの治療I, II
11. アレルギーによる眼の病気
12. 試験

【時間外学習】

指定参考書の予習

【教科書】

特に定めませんが、講義の理解を充分にするために、推薦する参考書等を購入して、予習・復習を行うことを薦める。

【参考書】

1. わかりやすいアレルギー・免疫学講義
講談社 扇元敬司著 ¥3,045 ISBN: 9784061587293
2. トコトンやさしい免疫・アレルギーの本
日刊工業新聞社 村口篤著 ¥1,470 ISBN: 9784526055614
3. やさしいアレルギー・免疫学(改訂4版)
日本医事新報社 奥平博一、宮本昭正著 ¥2,520
ISBN: 9784784950027

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験 60% 出席率 40%

【注意事項】

特になし

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
社会福祉と自立思想 (Social Welfare and Independent Living)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	教・経・ 医・工	後期	水3	衣笠 一茂 内線 7645 E-mail: kinugasa@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

近年の社会福祉では、生活上の諸困難を抱える人に「自立」出来る環境を整えることが、実践上の最大の課題とされている。そして、その人が「主体的な生」を生きるために、「自己決定」することが肝要であると説かれる。しかし、例えば知的障害を持つ人や認知症の高齢者の問題、あるいは「どこまで利用者の自己決定を尊重しなければならないのか」など、実践上はその原理を巡ってさまざまな問題が生じてきている。本講はこうした現状を踏まえ、社会福祉が真に利用者の主体的な「生」を保障するためには何を考えなければならないのか、を、事例研究などを多用しながらわかりやすく解説することを試みる。

【具体的な到達目標】

【具体的な到達目標】

- ・ 現代の社会福祉が求める原理と価値への理解
- ・ なぜ「自立」が求められるのか、その構造的な理解
- ・ 「自立」と「自己決定」の可能性と限界への認識
- ・ 「合意形成の媒介」としての社会福祉援助の必要性
- ・ 今後の社会福祉が考えるべきこと、についての考察

【授業の内容】

1. 社会福祉の概念と規範、価値、原理の位置づけ
2. 求められる「自立」；社会福祉の原理
3. 「義務としての自立」と「権利としての自立」
4. 自立概念への影響(1) ノーマライゼーション
5. 自立概念への影響(2) 自立生活運動
6. 自立概念への影響(3) コミュニティ・ケア
7. 「自立」と「自己決定権」との関係
8. 我が国における「自立」論の展開
9. 「自己決定」への懐疑(1) 「決定できない人はどうすればよいのか」
10. 「自己決定」への懐疑(2) 「人は何でも決定できるのか」
11. なぜ「自己決定」が目指されるのか；近代社会の構造
12. 「自己決定」から「合意」へ(1) 事例研究
13. 「自己決定」から「合意」へ(2) 「他者」の価値
14. これからの社会福祉と自立思想のあり方
15. まとめ；今、社会福祉が考えなければならないこと

【時間外学習】

- ・ 当日の講義内容についての課題を課す場合がある。提出を怠らないこと。

【教科書】

- ・ 使用しない。教材を適宜配布する。

【参考書】

- ・ 必要な参考書を適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

- ・ 課題などの提出物；40%、定期試験の実施；60%

【注意事項】

- ・ 積極的な学習態度は歓迎するが、講義中の私語は厳禁する。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
医学史のプロムナード (Various Aspects of History of Medicine)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	教・経・ 医・工	後期	水3	甘利 弘樹 内線 7544 E-mail: hiamari@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

本授業では、西洋医学史の大きな潮流を学びます。また、大分に注目しながら、日本に西洋医学がどのように広がったかについても検討します。以上の内容に基づき、西洋医学の歴史的展開の特徴を把握すること、さらに、日本の西洋医学受容がいかなる意味を持っていたかについて考えられるようになることを目標とします。

【具体的な到達目標】

- ・西洋医学史を世界史の動きの中で捉えられる。
- ・西洋医学の形成・発展に貢献した人物について説明できる。
- ・日本の西洋医学受容の過程とその意義を考えられるようになる。
- ・日本の西洋医学受容を担った主要人物について説明できる。
- ・大分で展開した西洋医学受容の歴史に関わる知識を身につける。

【授業の内容】

1. ガイダンス
2. 西洋医学の形成と発展(1) 古代・中世ヨーロッパの医学
3. 西洋医学の形成と発展(2) 18～19世紀ヨーロッパの医学I (感染症に対する医学の進展)
4. 西洋医学の形成と発展(3) 18～19世紀ヨーロッパの医学II (近代医学の展開)
5. 西洋医学の形成と発展(4) 19～20世紀ヨーロッパ医学の新展開I (近代外科学・医用電子工学)
6. 西洋医学の形成と発展(5) 19～20世紀ヨーロッパ医学の新展開II (リハビリテーション医学の展開・感染症をめぐる医学と社会)
7. 日本への西洋医学の広がり(1) プロローグ：古代～中世の日本医学史
8. 日本への西洋医学の広がり(2) 豊後に導入された西洋医学
9. 日本への西洋医学の広がり(3) 江戸時代における西洋医学の進展
10. 日本への西洋医学の広がり(4) 江戸時代豊後の西洋医学
11. 日本への西洋医学の広がり(5) 新たな医学をもたらした医師たち
12. 日本への西洋医学の広がり(6) 近代日本の出発と西洋医学・東洋医学
13. 課外調査成果報告の検討会(1)
14. 課外調査成果報告の検討会(2)
15. まとめ

【時間外学習】

- ・本授業は、高等学校世界史B・日本史Bの教科書レベルの知識が必要ですので、当該教科書あるいはそれと同程度の参考書・研究書に基づく予習・復習を行ってまいります。
- ・下記「注意事項」にあるように、調査活動とその成果報告作成があります。

【教科書】

教科書は使用しません。担当教員が適宜プリント資料を配布します。

【参考書】

授業中に指示します。本授業は、高等学校世界史B・日本史Bの教科書レベルの知識が必要ですので、当該教科書あるいはそれと同程度の参考書・研究書を準備してください。

【成績評価の方法及び評価割合】

出席時のライティングと小テストの成績30%、課題35%、期末試験35% ただしいずれかの成績が不合格の場合、全体として成績が不可になります。

【注意事項】

- ・初回の授業において注意事項を説明します。
- ・禁止する事項(私語・遅刻・マナー違反行為の禁止)は、授業期間中厳守しなければなりません。
- ・世界史・日本史の知識を確認するために、毎回の授業で小テストを実施します。
- ・課題に基づき、授業時間以外(休日等)に受講生各自が医学史に関連する施設(博物館・美術館等)を見学(費用は受講生が負担)し、成果を報告することを課します。原則としていかなる理由にもかかわらず、上記のことができないとき成績は認められません。

【備考】

社会人向けの公開授業とします。

授業科目名 (科目の英文名)
マルチメディアとコミュニケーション (Multimedia and Communication)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・ 医・工	後期	水3	市原 靖士 内 線 7587 E-mail: ichihara-yasushi@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
 コミュニケーションスキルは現代社会においてもっとも重要なスキルの一つである。特に、高度情報社会となった現在社会においては、コンピュータを用いたマルチメディアによるコミュニケーションスキルの習得は必須である。そこで、本授業においては、プレゼンテーションやWeb技術による情報発信の現状やそのスキル、背景にある心理的スキルの習得に関する授業を教育的視点から展開する。

【具体的な到達目標】

- ・ 発信したい情報を正確にプレゼンテーションできる
- ・ Web技術を用いて情報発信ができる
- ・ コミュニケーションと情報に関する知識・技能

【授業の内容】

- ・ コミュニケーションと情報 (2)
- ・ コミュニケーションと認知科学 (2)
- ・ プレゼンテーションの実際 (2)
- ・ プレゼンテーションの演習 (4)
- ・ Web技術の実際 (2)
- ・ Web技術の演習 (3)

など

【時間外学習】
 課題制作 デジタルポートフォリオ

【教科書】
 ・ 適宜配布

【参考書】
 ・ 適宜配布

【成績評価の方法及び評価割合】
 課題制作50 試験 50

【注意事項】
 ・ 授業は教育的視点から展開するため、コミュニケーション対象が小中高生をメインターゲットとしている点に注意してください。

【備考】

後・水

授業科目名 (科目の英文名)
中世イタリアの生活史II (History of urban daily life in Medieval Italy II)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	経・工	後期	木2	城戸 照子 内線 7946 E-mail: tkido@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

11世紀から16世紀までのイタリア北部の都市社会を取り上げ、ヨーロッパ中世史の基本知識を得ることを授業のねらいとする。特に基本的な社会モデルを理解するのがねらいである。IIでは特に、人と人の結びつきに焦点をあて、多様な人間関係を中心としたイタリア中世都市の特徴を考える。

【具体的な到達目標】

イタリア中世都市の社会は、ヨーロッパの他の国々と比較してもかなり特徴的である。この講義では、イタリア都市の政治的・経済的構造を理解し、その特徴を生み出したイタリア的な人間関係の基盤を考え、簡明に言葉で説明できるようにする。

【授業の内容】

- (1) ガイダンス (講義の目的を説明。イタリアの心性へ注目する)
- (2) 都市民と農民の心性の違いを知る
- (3) イタリア都市の支配構造を貫く「党派性」の政治面と感情面を知る
- (4) キリスト教信仰の基礎知識を学ぶ
- (5) 居住空間の中の教会と聖人崇敬について学ぶ
- (6) 生活における信仰の関わりの深さに注目する
- (7) 家族の役割と親子関係を考える
- (8) 家族の役割と結婚・夫婦関係を考える
- (9) 地域社会における人々の地縁について知る
- (10) 中世の大学という知的共同体に注目する
- (11) 中世都市の経済関係における互助組織を知る
- (12) 権力支配と社会的儀礼を、衣食住から考える
- (13) 権力者の義務としての芸術パトロネイジという観念を知る
- (14) 都市統治者から宮廷権力者への権力の成長を知る

【時間外学習】

予習として指定された教科書の章を事前に読んでくるのに30分程度、講義の後で板書ノートとプリントを整理するのに30分程度必要である。

【教科書】

齋藤寛海・山辺規子・藤内哲也編著『イタリア都市社会史入門』、昭和堂、2008年

【参考書】

朝治啓三編『西洋の歴史基本用語集 古代・中世編』、ミネルヴァ書房、2008年

【成績評価の方法及び評価割合】

小テスト (3回程度) またはレポート (30%) と学期末試験 (70%) の成績をあわせて、評価する。

【注意事項】

甚だしい遅刻をしない。私語はその都度注意するが、あまり周囲に迷惑をかけるようであれば退室を促す。携帯電話は、通話、メールについては授業中は使用禁止とする。

【備考】

高校の世界史履修歴にかかわらず受講できる。ただし、必要な基礎知識の補完は、各自で行うことになる。そのために必要な読みやすい文献などについては、講義中に紹介する。「中世イタリアの生活史I」を履修していなくても、受講できる。

授業科目名 (科目の英文名)
言語文化学入門 (Introductions to the Studies of Language and Culture)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1・2・3・4	経・工	後期	木2	柿原 武史 内線 E-mail
<p>【授業のねらい】 言語と文化は切り離せない関係にある。言語文化学は、ことばと文化に関連する様々な事柄を扱う横断的な研究分野である。この授業では、人間の思考活動の中心であることばの多様な側面について考える。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 1. 日本語と外国語の例を通じて、言語と文化の相関について理解を深める。 2. 言語の変化について理解を深める。 3. 多文化主義について理解を深める。</p>						
<p>【授業の内容】 1. ことばによる世界認識 2. 日本語と英語のくい違い 3. 言語相対性仮説とは 4. 言語と社会階層 5. 非言語的コミュニケーション 6. 言語接触と言語変化 7. バイリンガリズムとダイグロシア 8. 言語と方言 9. 国家と言語 10. 言語政策 11. 多言語主義、多文化主義 (カナダ、アメリカ合衆国の例) 12. 多言語主義、多文化主義 (ヨーロッパの例) 13. 言語権とは 14. まとめ</p>						
<p>【時間外学習】 課題以外にも、授業で紹介する図書を読んだり、ウェブサイトを開覧すること。</p>						
<p>【教科書】 プリントを配布する予定。</p>						
<p>【参考書】 授業中に指示する。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 授業中に実施するアンケート・レポート (30%) + 試験 (70%)</p>						
<p>【注意事項】 単に講義を聴くのではなく、常に疑問を持ち、積極的に参加すること。</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
現代社会の諸問題 (The Problems of Modern Societies)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2. 3. 4	経・工	後期	木2	大杉 至 内線 7527 E-mail
<p>【授業のねらい】 現代社会を捉えるわれわれの認知的枠組みの多くはマスコミによって与えられているが、われわれのうちに社会科学적인見方が根底にないと、かえって「情報操作」の餌食となってしまう危険性がある。本講義では、社会の近代化（現代化）に関して、社会科学として基本的な見方をふまえた上で、現実の諸問題を主として社会学の視点から検討する。具体的には、古典的理論の紹介、大衆社会をめぐる問題、自殺の問題などを取り上げる。</p>						
<p>【具体的な到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会科学が「近代」および「現代」をどのようにとらえてきたのかを理解すること。 2 社会科学の基本的視座を身につけること。 3 具体的な社会的諸問題への理解を深めること。 						
<p>【授業の内容】 ほぼ、以下のような順番での授業を行う。 1-2回 現代社会の諸相（産業化、官僚制化等） 3-7回 代表的な社会の近代化の理論（マルクスの場合、近代社会学の場合、…） 8-11回 大衆社会的問題 12-14回 自殺の問題 15回 まとめ</p>						
<p>【時間外学習】 毎日、新聞を読むこと。講義中に紹介する参考文献をできるだけ読むこと。</p>						
<p>【教科書】 適宜プリントを配布する。</p>						
<p>【参考書】 講義のなかで紹介する。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 講義終了後、試験によって評価する（出席はしているものと前提）。その際、講義内容の単なる再現では、高い評価は与えない。</p>						
<p>【注意事項】 特になし。</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
日本の財政 (Public Finance in Japan)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1.2.3.4	経・工	後期	木2	小野 宏 内線 7710 E-mail : onohiro@cc.oita-u.ac.jp
<p>【授業のねらい】 近年日本の財政制度は大きく変わりつつあります。さらに日本の財政は解決しなければならないいくつかの課題に直面しています。そこで本講義では日本の財政制度と日本財政の課題についていくつかのトピックスを取り上げ考えていきたいと思ひます。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 日本の財政に関する基礎的な知識を習得することを目標とします。具体的には、新聞の財政関連の記事が、背景にある経済理論等も含めて理解できるようになることを目標とします。</p>						
<p>【授業の内容】 現在のところは以下のような内容を予定しています。ただし、受講生の履修科目等を考慮して扱う内容を変更することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 日本経済の現状 (1) 3. 日本経済の現状 (2) 4. 財政とは 5. 日本の財政の現状 (1) 6. 日本の財政の現状 (2) 7. まとめ (1) 8. 日本の財政運営 (1) 9. 日本の財政運営 (2) 10. 日本の財政運営 (3) 11. まとめ (2) 12. 日本の財政制度 (1) 13. 日本の財政制度 (2) 14. まとめ (3) 						
<p>【時間外学習】 特に復習を行なってください。また、積極的に新聞の経済記事を読むようにしてください。</p>						
<p>【教科書】 未定</p>						
<p>【参考書】 講義時に随時紹介する予定です。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 期末試験90%、レポート等10%</p>						
<p>【注意事項】</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
雇用社会の揺らぎ (Changing Employment System in Japan)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2. 3. 4	経・工	後期	木2	阿部 誠 内線 7682 E-mail : mabe@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
 今日、日本の「終身雇用の崩壊」が指摘される一方で、フリーターやワーキング・プアの増加が大きな議論をよんでいる。いま日本の働き方はどのように変化し、またどのような問題が生じているのだろうか。この授業では、日本の雇用構造と雇用社会の変化やその背景、また今日の雇用をめぐる問題点等について考えたい

- 【具体的な到達目標】**
1. 経済社会の変化のなかで働き方、そして雇用の構造が変化している姿を理解する。
 2. 今日、雇用構造や雇用慣行の何が変化し、どこが変化していないのかを理解する。
 3. 今日の雇用社会は、いかなる問題を抱えているか、またそれにたいして政策的にどのように対応すべきかを考える。

- 【授業の内容】**
1. 今日の雇用・失業問題
 2. 雇用社会をみる視点
 3. 戦後日本の働き方の変化 (1)
 4. 戦後日本の働き方の変化 (2)
 5. 1990年代以降の失業問題の変化
 6. 日本の長期雇用の慣行
 7. リストラと日本的雇用慣行の揺らぎ
 8. 「非正規」という働き方
 9. 非正規従業員の労働問題
 10. ワーキング・プアの増大
 11. 若者の雇用問題
 12. フリーターとニート
 13. 高齢者の雇用問題と雇用対策
 14. 現代日本の雇用社会の変化と課題

【時間外学習】
 適宜指示する参考文献や雇用問題に関する書籍等を読むとともに新聞やテレビ等を通じて、つねに雇用の動きや今日の雇用問題について情報を入手する。

【教科書】
 とくに指定しない。授業でプリントを配布する。

【参考書】
 適宜指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】
 定期試験100%

【注意事項】
 講義のなかで意見などを聞くので、講義を漫然と聞くのではなく、今日の雇用社会の変化について自分の頭で考えてほしい。

【備考】
 この授業は、雇用構造の変化や雇用問題を社会科学的に分析することが目的であり、学生個人のキャリア形成には直接には結びつかない。自分のキャリアを考える目的でこの授業を受講すると失望するであろう。あくまで日本経済の構造変化の一側面として雇用問題を学びたい学生の受講を求める。

授業科目名 (科目の英文名)
企業ファイナンス入門 (Essentials of Corporate Finance)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1.2.3.4	経・工	後期	木2	鵜崎清貴 内線 E-mail
<p>【授業のねらい】 今日、日本やアメリカをはじめとする先進諸国の経済は、グローバル化を続けている。その中で、わが国の企業は、どのような行動、特に財務戦略を執ろうとしているのであろうか。 本講義では、この企業の財務行動を中心に企業の活動を講義する。 この中では、必要な会計知識や統計学も講義する。 講義に際しては、簿記・会计学や統計学の知識がない学生にも十分理解できるようにする。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 株式会社の財務活動の概要を理解してもらう。</p>						
<p>【授業の内容】 1. 企業ファイナンスの意義 2. 資金調達 3. 資金運用 4. リスク管理 5. 経営分析</p>						
<p>【時間外学習】 日本経済新聞等、新聞の経済面を読んでおくこと。</p>						
<p>【教科書】 Powerpointを利用し、資料を配布する。</p>						
<p>【参考書】 市村昭三編『財務管理』，創成社，1995年</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 出席と試験による。</p>						
<p>【注意事項】</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
企業会計の基礎 (Introduction to Accounting)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2. 3. 4	経・工	後期	木2	大崎 美泉 内線 7699 E-mail : yosaki@cc.oita-u.ac.jp
<p>【授業のねらい】 現代社会における会計の役割を分かりやすく解説します。 会計は、経済社会と企業を結ぶ環として、企業の様々な利害関係者に企業に関する情報を提供することで、彼らの意思決定を手助けしています。 本講義は、会計が現代の経済社会とどのような係わりを持ち、どのような影響を与えているかという観点から話していきたいと考えていますが、多くの人が思っている「会計＝簿記」という誤解を解いてもらうことができればと期待しています。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 経済社会における会計の役割について理解するとともに、管理会計も含めた会計学の総論的知識を習得し、会計の諸理論研究への道筋をつけてもらいたい。</p>						
<p>【授業の内容】 以下の内容について、それぞれ数回講義する予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業の経営と会計 2. 経済社会における会計の役割 3. 財務会計の基本的前提 4. 財務諸表の仕組み 5. 原価計算の目的と手続き 6. 経営管理のための会計情報 7. 業績評価のための会計情報 8. 監査の必要性 9. 職業としての会計 						
<p>【時間外学習】 新聞やインターネットの経済関連記事に関心を持つようにしてほしい。</p>						
<p>【教科書】 『まなびの会計学』（中央経済社、2006年）を予定しています。</p>						
<p>【参考書】 授業中に紹介します。また、必要に応じてプリントも配賦します。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 期末試験（70％）、レポート（20％）、出席状況（10％）の割合で、総合的に評価する予定です。</p>						
<p>【注意事項】</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
地域と地域主義 (Regions and Regionalism)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2. 3. 4	経・工	後期	木2	デイ スティーブン 内線 E-mail : sriday@cc.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 The goal of this module will be to ask to what extent do global issues/problems require global/transnational solutions. In so doing it will seek to highlight contemporary political and economic developments that have/have had an impact on global events/issues						
【具体的な到達目標】 1. Learners should have an in-depth understanding of aspects of the political, economic and organizational developments associated with regional integration. 2. Learners will be expected to have developed an understanding of the economic and political impact of globalization and some of the measures that nation-states take to deal with it 3. Learners should be able to evaluate and comment on, in an objective manner, developments related to aspects of global politics						
【授業の内容】 1. Introduction 2. Understanding Regions and Regionalism I 3. Understanding Regions and Regionalism II 4. From a Free Trade Agreement to Political Union 5. Thinking about Globalization 6. Regional Responses to global developments - Europe I 7. Regional Responses to global developments - Europe II 8. Regional Responses to global developments - the Americas I 9. Regional Responses to global developments - the Americas II 10. Regional Responses to global developments - Asia-Pacific I 11. Regional Responses to global developments - Asia-Pacific II 12. Regional and Global Political Parties I 13. Regional and Global Political Parties II 14. Powerpoint presentation 15. Final Exam						
【時間外学習】 Learners will be expected to read the appropriate material before coming to class						
【教科書】 There is no text book for this course.						
【参考書】 All necessary materials will be provided.						
【成績評価の方法及び評価割合】 Classwork and participation (20%) Powerpoint presentation (30%) Final Exam (50%)						
【注意事項】 An ability to undertake study in English						
【備考】						

授業科目名 (科目の英文名)
大分大学を探ろう (Let's find and discuss our university)

区分・分野・コア
全学共通科目 人文

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	金2	市原宏一(経済学部) 内線 7719 (市原) E-mail: ich@cc.oita-u.ac.jp (市原)

【授業のねらい】

「自由なのは不自由ですね」今年卒業した学生の言葉です。大学の授業、とりわけ教養教育は、高校までとは異なり、学生の側にかかなりの選択の自由があります。しかし、なにを選択したらいいかをはじめ、学生の皆さんにはとまどいも多いと思います。この授業のねらいは、学生の視点から、大分大学の授業・教育のあり方について、意見や疑問をだしあい、改善方を考えようというものです。分大の特徴はどんなところにあるのか、問題点を見つけ、改善策を検討し、その魅力をさらに伸ばすにはどうすべきか、教員も含め、互いに助言しながら、考えてみましょう。

【具体的な到達目標】

ここでは、グループ学習、ディスカッション、レポート作成、発表・プレゼンテーションなどにより、課題発見と解決方策の検討を含む、基盤的な学習方法の習得をめざします。

【授業の内容】

- 1 授業ガイダンス
- 2 大分大学の歴史
- 3 学生教職員共同教育改善①「きっちよむフォーラム」の取組み
- 4 「学生との意見交換会」の取組み
- 5 他大学における学生参加の取組み
- 6～8 学生教職員共同教育改善シンポジウム報告にむけた取組：グループ活動
- 9 シンポジウム
- 10～11 シンポジウムを受けての修正・改善
- 12 中間報告会
- 13～14 最終報告に向けた修正・改善
- 15 最終全体報告会

【時間外学習】

授業以外の時間帯にも、グループ毎の中間報告、あるいは全体としての発表に向けた準備を行います。秋に行われる予定の大分大学「学生教職員共同教育改善シンポジウム」の企画や実施にも参加し、授業での検討してきた事柄を発表、提案します。

【教科書】

特にありませんが、講義中に資料を配付

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

グループ・レポートの作成分担内容とその発表・報告 (70%)、授業の際に提出する意見用紙 (30%)

【注意事項】

11月予定の大分大学「きっちよむフォーラム・学生教職員共同教育改善シンポジウム」に参加し、授業での検討してきた事柄を発表、提案します。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
日本の医療保障制度 (Health care system in Japan)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	金2	深田 聡 内線 7550 E-mail: fukata-satoshi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
 私たちが医療機関の窓口で代金を支払うとき、その金額が治療費用全体のごく一部であり、大部分は医療保険から支払われているということはあまり意識しない。
 この授業では、普段意識されない医療保険制度が、どれだけの金額を患者本人に代わって支払っているか、そのための財源（保険料、税）を誰がどのように負担しているのかなどについて学ぶ。それによって、少子・高齢化社会において医療費を公平・効率的に負担していくには、どうすればよいか考える際の基礎的な知識を身につける。

【具体的な到達目標】

- ・保険の基本的な仕組みについて説明できるようになる。
- ・日本の医療保障制度の体系や特徴について説明できるようになる。
- ・日本の医療保障制度の抱える課題について説明できるようになる。

【授業の内容】

1. オリエンテーション
2. 医療保険の基本的仕組み
3. 保険給付の範囲
4. 診療報酬
5. 審査と支払い
6. 医療保険制度の体系
7. 国民健康保険の課題
8. 高齢者の医療制度
9. 医療提供体制
10. 医療を担う人材
11. 国民医療費の動向、医療保障の財源
12. 医療保障制度の歩み
13. 医療保障の課題と展望
14. 諸外国の医療保障制度
15. まとめ

【時間外学習】
 医療問題に関する新聞や雑誌の記事を読むこと。
 医療保険制度の概要について自習しておくこと。例えば、厚生労働省のHPには『厚生労働白書 平成19年版』など参考になる情報がある。

【教科書】
 使用しない。授業中にプリントを配布する。

【参考書】
 池上直己、J.C. キャンベル『日本の医療』（中公新書）
 池上直己『ベーシック医療問題』（日経文庫）

【成績評価の方法及び評価割合】
 試験60%、平常点40%

【注意事項】

【備考】

後・金

授業科目名 (科目の英文名)
政治と倫理 (Politics and Ethics)

区分・分野・コア
全学共通科目 社会

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	金2	嘉目 克彦 内線 7711 E-mail
【授業のねらい】 政治と倫理の原理的關係について理解する。						
【具体的な到達目標】 西欧における政治思想史を背景に、19・20世紀のドイツの事例について政治と倫理の關係に関する諸問題を概観する。						
【授業の内容】 以下の内容について講義する。 1. 権力と道徳の歴史的展開 2. 政治における倫理 1) マキャベリ問題 2) H. トライチュケの対応 3) M. ヴェーバーの対応 3. 政治文化の差異						
【時間外学習】						
【教科書】						
【参考書】						
【成績評価の方法及び評価割合】 臨時の中間レポート (40%) 及び期末のレポート (60%) により評価する。						
【注意事項】						
【備考】						

授業科目名 (科目の英文名)
抽象化と代数学 (Abstraction and Algebra)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	金2	馬場 清 内線 7564 E-mail

【授業のねらい】
 高校までの代数と言えば、因数分解、式の計算、二次方程式や高次方程式を思い出すであろう。大学での代数学は、抽象化された演算や構造を調べることを目的とする。すなわち、群(ぐん)、環(かん)、体(たい)などの、演算が定義された集合の代数的構造を調べるという抽象的な代数である。この講義の目的は、具体から抽象へと、ゆっくりと歩を進めながら、抽象的な思考に慣れることである。

【具体的な到達目標】
 1. 置換を巡回置換や互換の積に分解できる。
 2. 作りたいあみだくじを構成できる。
 3. 代数的構造の考え方が理解できる。

【授業の内容】
 1. 展望
 2. あみだくじと置換
 3. 互換と巡回置換
 4. あみだくじの合成
 5. あみだくじの分解
 6. 置換の巡回置換の積への分解
 7. 巡回置換の互換の積への分解
 8. 巡回置換とあみだくじ
 9. 置換に対応するあみだくじ
 10. 作りたいあみだくじを作る
 11. 二項演算
 12. 整数の合同
 13. 整数から得られる集合
 14. 群の定義と例

【時間外学習】
 図書館などで、代数学関係の本で、気に入ったものを見つけて読むとよいでしょう。

【教科書】
 なし

【参考書】
 なし

【成績評価の方法及び評価割合】
 数回のレポート(50%)、学期末試験(50%)などにより、総合的に評価する。

【注意事項】
 なし

【備考】
 基本的には、隔年開講

授業科目名 (科目の英文名)
基礎理論化学II (Basic Theoretical Chemistry II)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1年以上	教・経	後期	金2	大賀 恭 内線 7958 E-mail: yohga@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

専門基礎科目「原子と分子」および「物質の状態と変化」では物質科学の基礎である原子や分子の構造と成り立ちと、それらの集合体の性質・特徴を学んだ。これらを基礎として本講義は、分子がその構造や性質によって系統的に分類されていることを理解し、ルールに基づいて名称をつけることおよび名称から分子構造が書けるようになることを目的とする。さらに有機化合物の構造を決定するための分析手法についての解説と演習を行う。

【具体的な到達目標】

- (1) 化合物の系統的な分類を理解すること
- (2) 化合物の系統的な名前の付け方を理解すること
- (3) NMR, IR, Massなど各種スペクトルデータから、化合物の構造を決定すること

【授業の内容】

およそ以下のスケジュールにしたがって行う。講義は説明・解説と演習を交えて進める。進行状況や理解度に応じて演習と解説の時間を増やすこともある。

第1週 ガイダンス (講義内容の紹介)

第2～6週 有機化合物の命名法: 炭化水素, アルコール, カルボン酸誘導体, 含窒素化合物

第7週 中間試験

第8～9週 赤外分光法

第10～11週 : プロトン核磁気共鳴分光法

第12週 炭素-13核磁気共鳴分光法

第13週 質量分析法

第14週 スペクトルによる構造決定の総合演習

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容に関する課題レポートを課す。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書】

小川雅弥・村井真二 監修「有機化合物 命名のてびき」(化学同人)

R. M. Silverstein他著, 荒木 舜 他訳「有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版」(東京化学同人)

【成績評価の方法及び評価割合】

演習・課題レポート40%, 中間試験30%, 期末試験30%。

【注意事項】

講義の開始時にその日に使うプリントを配布するので、遅刻は厳禁。

前期開講「原子と分子」を履修済みであることが望ましいが、最低限、高校「化学I・II」を履修し、内容を理解していることが必要である。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
情報科学の世界 (Introduction to InformationScience)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後	金 2	伊藤哲郎 内線 7868 E-mail: ito@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
我々の周りにはさまざまな情報が渦巻いている。これらの情報は、数値や文字であったり、音声や画像で表現されたりとその形態が一様ではない。また、その内容も広範囲で多岐に渡っている。情報科学は情報を取り扱うときの基礎となる理論の体系であり、20世紀後半に生まれた新しい科学である。
この講義では、我々の身近にある情報を取り上げ、その特徴ならびに使い方にかかわる基礎的な考え方を紹介する。さらに、コンピュータによる情報処理についても言及する。

【具体的な到達目標】
情報科学における考え方には、多くの視点のあることが分かる。
情報科学の基礎となる数学的な考え方について学ぶことができる：確率、統計など。
情報科学・情報技術の応用について知ることができる：WWW、電子図書館、パターン認識など。

【授業の内容】

1) 情報科学とは	
2) データのばらつきを科学する	- 確率と分布 -
3) 意思決定のための情報を作り出す	- データ解析の技術 -
4) 情報洪水に溺れないように	- WWWとインターネット -
5) 知識から情報へ	- 図書館と電子図書館 -
6) 情報の主たる担い手：言葉を解剖する	- 自然言語処理 -
7) 計算機はどこまで知的になれるか	- 人工知能 -
8) 百聞は一見に如かず	- 画像処理とパターン認識 -

【時間外学習】
課題レポート等 (各担当教員の指示による)。

【教科書】
教科書は用いない。適宜、参考資料を配付する。

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】
各担当教員によるレポート・小テストの評価を集計することにより評価を行う。

【注意事項】
工学部知能情報システム工学科の学生は受講不可。

【備考】
・藤田米春(工)、末田直道(工)、越智義道(工)、中島 誠(工)、原 恭彦(工)、行天啓二(工)もあわせて担当する。
・すでに全学共通科目の「情報科学概論」あるいは「情報科学入門」の単位を取得している学生は、本科目を受講することはできない。

後・金

授業科目名 (科目の英文名)
現代の福祉政策 (Welfare Policy in Contemporary Japan)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	金2	垣田裕介 内線 7696 E-mail

【授業のねらい】

福祉政策は、私たちの生活に大きく関わっているものの、各制度の仕組みが複雑だけでなく、相次いで制度改正がなされることもあって、独学自習はなかなか困難です。この講義の基本的なねらいは、国民生活にとっての福祉政策の役割や課題を考える視点や枠組みを学ぶことにあります。そのために、福祉政策を構成する社会保障や社会福祉の制度の仕組みを分かりやすく説明するとともに、福祉政策のあり方や制度改正に関する最新トピックを取り上げて、その争点や課題について具体的な事実や材料にもとづいて考えます。

【具体的な到達目標】

この講義の到達目標を、後述する講義内容の柱・項目に沿って整理すると、次の通りです。
 ○国民生活にとっての福祉政策について、その理念・目的を「温かい心warm hearts」で捉えるのみでなく、その機能・実態を「冷静な頭cool heads」で考える視点を養う。
 ○福祉政策を構成する社会保障・社会福祉制度について、その体系や基本的内容を理解する。
 ○福祉政策の最新トピックについて、国民生活の実態をふまえて問題状況や争点を整理し、その動向と展望について財政や費用・効果の観点も含めてリアルに考える。

【授業の内容】

以下の柱・項目を中心として、最新トピックも盛り込んで進める予定です。

- 講義案内：この講義の趣旨説明、毎回の講義の進め方、成績評価の方法など
- 福祉政策入門
 - 福祉政策とは何か：福祉政策の内容と位置
 - 国民生活と福祉政策：福祉政策の役割と特質
 - 福祉政策の理念と機能：福祉政策を考える視点と枠組み
- 福祉政策のなかの社会保障・社会福祉制度
 - 社会保障・社会福祉の制度体系
 - 社会保障・社会福祉の費用と財政
 - 社会保障・社会福祉の改革と動向
- 福祉政策の動向と論点：最新トピックについて、国民生活の実態をふまえて考える
 - 医療保険：国民健康保険、後期高齢者医療など
 - 介護保険：制度と供給体制、障害者福祉との関係など
 - 生活保護：制度の仕組みと運用の実態、年金給付との関係など

【時間外学習】

講義内容に関連する本や、講義中に紹介する参考書などを積極的に読んでください。
 講義内容に関する新聞・テレビのニュースにも留意してください。

【教科書】

使用しません。毎回の授業で資料を配布します。

【参考書】

講義内容に関連する入門書や専門書のほか、私が読んで面白いと思った本や、オススメの本、注目の本や話題の本など、幅広いジャンルにまたがる参考書を、講義中にたくさん紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

数回の小レポート（約20%）、学期末試験（約80%）。この講義では、出席点を設けていません。自主的に講義に出席してキチンと勉強し、講義内容を消化した方が好成绩で単位を修得できるような仕組みにしています。具体的には講義中に説明します。

【注意事項】

この講義では、受講生・私の双方の集中力持続を図るため、毎回の講義時間を前半と後半とに分け、その間にリフレッシュタイムを設けて気分転換を図ります。受講生とのコミュニケーションを通じて講義内容の充実を図るため、講義内容への感想・意見を毎回の講義で提出していただきます。受講生も私も講義に集中できる環境を保つため、講義の迷惑になるような私語や受講態度は固くご遠慮いただくとともに、厳しく注意します。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
国際関係入門 (A guide to International Relations)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経	後期	金2	高山英男 内線 7686 E-mail: koyama@cc.oita-u.ac.jp
<p>【授業のねらい】 講義を聴くことによって、現代ロシアの政治と経済がどのように動いているかを理解できるようにする。毎日ニュースで聞いているロシアのさまざまな事件の背景に、どのような歴史があり、また、政治家たちの目的があるのか。ロシアで動いているさまざまな勢力の考え方とその対立関係を検討していく。</p>						
<p>【具体的な到達目標】 ソ連時代から、その崩壊後のロシアについて、政治、社会、経済、外交政策の面について、多角的に検討し、現在のロシアがどのような方向へ向かおうとしているかを理解する。ゴルバチョフからプーチンにいたる改革の時代のロシアの簡単な歴史を理解する。</p>						
<p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに：この講義の目的 2. ソ連とはなんだったか 3. 戦後ソ連の改革と停滞 4. ゴルバチョフのペレストロイカ戦略(1) 5. ゴルバチョフのペレストロイカ戦略(2) 6. エリツィンのサバイバル戦略(1) 7. エリツィンのサバイバル戦略(2) 8. エリツィンのサバイバル戦略(3) 9. プーチンの「強いロシア復活」戦略(1) 10. プーチンの「強いロシア復活戦略」(2) 11. プーチンの「強いロシア復活」戦略(3) 12. メドベージェフの近代化戦略 13. メドベージェフの近代化戦略 14. まとめ 						
<p>【時間外学習】 講義の中で紹介する著作について呼んでまとめてもらったり、日常的に起こっている事件についてレポートさせる。</p>						
<p>【教科書】 佐藤信一・太田正登編著『グローバル時代の国際政治史』ミネルヴァ書房、2008年。</p>						
<p>【参考書】 講義の中でそのつど指示する。</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 期末試験が70%、講義中の小テストが20%、出席などが10%。授業態度も考慮する。毎回、質問や感想、意見などを用紙に書いてもらい、それを採点する。</p>						
<p>【注意事項】 教科書をじっくり読んで講義を聴くようにしてください。</p>						
<p>【備考】 ロシアや世界のことに興味を持つ学生を望む。</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
物質の状態と変化 (States and Changes of Matter)

区分・分野・コア
全学共通科目 自然

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3	教・経	後期	金4	飯尾 心 内 線 ; 7959 E-mail: kokoro-i@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

原子・分子の集合体という巨視的観点から物質をとらえ、物質の状態と変化の背後にある原理について学ぶことによって、よりいっそう物質についての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】

以下の概念を理解できるようになる。

1. 状態図
2. 熱力学の第一法則
3. 内部エネルギー
4. エンタルピー
5. 熱力学の第二法則
6. エントロピー
7. 自由エネルギー
8. 反応速度と速度式
9. 化学平衡

【授業の内容】

講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。

- 第1～2週 第6章 分子の世界1 (相図, 気体, 状態方程式)
 第3～4週 第7章 分子の世界2 (固体, 液体, ラウールの法則, 沸点上昇, 凝固点降下)
 第5～6週 第8章 エネルギーとエントロピー (第一法則, エンタルピー, エントロピー, ギブズエネルギー)
 第7～8週 第9章 化学平衡の原理 (平衡定数, ルシャトリエの原理)
 第9～11週 第10章 酸と塩基 (pH, pKa, 中和滴定, 加水分解, 緩衝溶液)
 第12週 第11章 酸化と還元 (酸化数, 電池)
 第13～14週 第12章 反応の速度 (反応速度, アレニウスの式, 触媒)
 中間試験 (試験時間30分程度。試験範囲: 第6～8章) を第8章が終わった翌々週に行う。

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「FRESHMAN化学」(学術図書出版社)

【参考書】

浅野 努, 荒川 剛, 菊川 清 共著「第4版 化学-物質・エネルギー・環境-」(学術図書出版社)
 浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「原子・分子から学ぶ化学の世界-基礎化学・エネルギー・環境-」(学術図書出版社)

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート(30%), 中間試験(20%), 期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】

高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ、その講義内容および方針は高校までの化学と異なり、基本原理の理解に重点を置く。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で、期末試験も同一時間帯・同一問題で行う。人数のアンバランスを防ぐために、工学部1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが、2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】

前期開講の「原子と分子」を受講済みであることを前提として講義をすすめる。

授業科目名 (科目の英文名)
里海と里山Ⅱ (The Relationship between the Coastal Sea and the Country-side)

区分・分野・コア
全学共通科目 総合

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	全	後期	集中	川野 田實夫、市原 宏一、前田 寛、本谷 るり、芝原雅彦 内線 7719 E-mail: ich@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

大分県沿岸のサンゴ等海洋生物の現状と、内陸の緑地環境の関連を理解するとともに、自然環境やそこで生活する人々との交流を通じて、地域づくりや地球規模での共生社会について実態的に理解を深めます。さらに海上巡検、地域における交流や活動支援、集団学習の体験を通じて、学生相互に、また地域の人々と共に学びあいます。

【具体的な到達目標】

1. 自然と他者との共生、循環型社会、持続可能な社会など基礎的知識を習得するとともに、専門学習を深めるきっかけとします。
2. グループ・集団での学習・生活など大学における基盤的な勉強法の習得をめざします。
3. 地域の人々との交流により社会生活上の基本的な関係のあり方も学びます。

【授業の内容】

- 1 ガイダンス (2/1)
- 2～4 特別講義：おおいた学生水フォーラム 2月上旬
- 5～8 講義：里海と里山の関係とそれぞれの地域づくり 2月中旬
- 9～13 体験学習と自然観察巡検：佐伯市蒲江・マリカルチャーセンターでの合宿、海上巡検 (2/19-20土日一泊二日)
- 14～15 水と緑の環境人材養成：水辺自然観察と講義 (2/27日曜日9時半～14時半)

【時間外学習】

実際に川辺・海浜で、生業体験、水質調査、流域保全活動など様々な野外体験活動を行います。したがって、通常の授業日以外に、主に土日が予定されています。

【教科書】

講義中に配布します

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

試験 (30%)、講義・体験活動参加に際しての小レポート (70%)

【注意事項】

学外での地域体験活動 (学外巡検、フォーラム、合宿実習) に比重があります。

【備考】

2/20-21合宿参加費1500円程度

授業科目名 (科目の英文名)
日本のニュースメディアとグローバリゼーション (The Japanese News Media and Globalism)

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・工	前期 後期	火3 月2	南里 敬三 内 線 7635 E-mail:keizo-nanri@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

このコースはメディア・リテラシーを高めることを目的とする。焦点があてられるメディアは新聞および通信社。

【具体的な到達目標】

授業はすべて英語で行われる。(1) 日本のメディア構造の特色を知る。(2) 新聞社の内部構造を知る。(特に社会部と政治部の関係。)(3) 新聞のサポート体制がどのようなものなのかを知る。(4) 上記4点を熟知した上で報道のバイアスが具体的にどのような形で表れるのかを知る。

【授業の内容】

1. メディア産業の構造(新聞中心の構造)。
2. 再販売制度並びに新聞配達制度の長所と短所。
3. 押し紙。
4. 社会部記者と冤罪事件。
5. 政治部記者と政治家の関係。
6. 世界を構築する通信社と国益。
7. イギリス・アメリカの新聞の歴史。

【時間外学習】

【教科書】

授業でプリント配布。

【参考書】

授業でプリント配布。

【成績評価の方法及び評価割合】

小さなプレゼン(授業のまとめ、10分以内)20%、研究発表(15分以内)40%、中間試験30%、クイズ10%。

【注意事項】

授業でのディスカッション(英語)に積極的に参加すること。課題等も全て英語で提出のこと。なお、英語でのレポートの書き方、プレゼンの仕方がわからない生徒は南里研究室まで相談に来ること。

【備考】

聴講希望の学生も全ての課題をこなすこと。

授業科目名 (科目の英文名)
'Contact with the Foreign' in Modern and Contemporary Japanese Literature

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択			教・経・工	前期 後期	火4 木4	菅沼 勝彦 内線 7634 E-mail
<p>【授業のねらい】</p> <p>This course will focus on Japan's contact with foreign modernity as expressed in Japanese literature. It explores the ways in which the foreign concept of modernity is translated into the Japanese context in a variety of literary genres including novels, poetry, memoirs, and popular fiction. Students will be asked to make a close examination of themes within Japanese literature with reference to a variety of topics such as Japanese history, gender, sexuality, cross-cultural communication, and globalisation. This course also offers students both an overview of major literary works in the modern and contemporary periods, and an introduction to literary theory and Japanese contemporary thought.</p>						
<p>【具体的な到達目標】</p>						
<p>【授業の内容】</p> <p>Part I Natsume Sōseki, Kokoro Tanizaki Junichirō, Aguri Writing gender in labour movement Part II Nosaka Akiyuki, American Hijiki Ōe Kenzaburō and post-war Japan Okinawan literature and colonialism Mishima Yukiko and Japanese modernity Takahashi Mutsuo and male homosexual desire Part III Murakami Haruki and postmodernity Yoshimoto Banana and the Japanese family Ekkyō Bungaku (transcendental literature) John Treat and auto-ethnography Zainichi Bungaku (Literature of/on Resident Koreans)</p>						
<p>【時間外学習】</p>						
<p>【教科書】</p> <p>To be prepared and provided by Lecturer</p>						
<p>【参考書】</p> <p>Students who wish to complete some background reading should consult the following text. Donald Keene, Dawn to the West: Japanese Literature of the Modern Era, New York: Holt, Rinehart, and Winston 1984.</p>						
<p>【成績評価の方法及び評価割合】</p> <p>Attendance and Participation: 30% Presentation: 30% Examination: 40%</p>						
<p>【注意事項】</p>						
<p>【備考】</p>						

授業科目名 (科目の英文名)
Understanding Japanese Cybercultures

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択			教・経・工	前期 後期	水3 火3	菅沼 勝彦 内線 7634 E-mail
【授業のねらい】						
This course examines Japanese cybercultures with a particular emphasis on the Internet and other digital communication technology. The specific focus of this course is on how cyber-technology, such as the Internet, has shaped and reshaped the construction of Japanese society, culture, and history, especially among the youth. Students will be asked to make a close examination of Japanese cybercultures with reference to a variety of topics such as politics, history, gender, sexuality, ethnicity, literature, and the economy. In addition, this course also provides a general introduction to key theoretical frameworks in the study of cybercultures.						
【具体的な到達目標】						
【授業の内容】						
Part I Introduction to Cyberculture & Internet Studies Overview on Japanese Cybercultures Individualising the self on the Internet Part II Japanese tradition and the Internet (e.g. emoticons, kaomoji) Politics and the Internet (e.g. political use of the cyberspace) Sexuality and the Internet Gender and the Internet Part III Mobile-phone Communication (e.g. 'subsidised dating', enjo kōsai) Race & Ethnicity and the Internet Re-telling History on the Internet (e.g. historical debates on Ni-channel) Literature and Cyber-technology (I)mobility in the Internet Age (e.g. net cafe) Isolation and Community Building (e.g. mixi) Internet Activism						
【時間外学習】						
【教科書】						
To be prepared and provided by Lecturer.						
【参考書】						
Students who wish to complete some background reading should consult the following text. Gottlieb, N. and McLelland, M. eds. Japanese Cybercultures, London and New York: Routledge, 2003.						
【成績評価の方法及び評価割合】						
Attendance and Participation: 30% Presentation: 30% Examination: 40%						
【注意事項】						
【備考】						

授業科目名 (科目の英文名)
異文化コミュニケーション (Intercultural Communication)

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・工	前期 後期	水4 火4	長池一美(国際教育研究センター) 内線 7953 E-mail

【授業のねらい】

Exploring new types of knowledge and analyzing the structures of cultural activities are both required, in order to enhance cross-cultural communication in this contemporary era of internationalization. In this course, we will attempt to understand the kinds of ideological concept which are required to cultivate intercultural communication; this will mainly involve discussing such issues as Japanese ways of thinking, the structure of Japanese society, globalization, multiculturalism, and so forth.

【具体的な到達目標】

【授業の内容】

(Tentative Schedule)

- 1) Introduction and Orientation
- 2) What is Intercultural Communication?
- 3-5) The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (honne and tatemae, uchi and soto, giri, shudanishiki, zoto, senpai and kohai, amae, etc)
- 6) Gesture and Non-Verbal Communication
- 7) Orientalism and Techno-Orientalism (e.g. the analysis of Hollywood Movies)
- 8) Nationalism and Imagined Community (e.g. the analysis of the movie titled The Great Wall)
- 9) Multiculturalism (e.g. issues of Ainu people)
- 10) Communication and Mass Media (e.g. stereotypical images of foreigners in Japanese mass media)
- 11) Culture Shock
- 12-13) Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine)

【時間外学習】

【教科書】

To be prepared and provided by Lecturer.

【参考書】

To be provided by Lecturer.

【成績評価の方法及び評価割合】

Participation: 30%

Presentation: 30%

Examination: 40%

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
日本ポピュラー・カルチャー論 B: マンガ・アニメ・マスメディア (Japanese Popular Culture B: (Manga, Animation and Mass Media))

区分・分野・コア
短期留学プログラム科目

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
	2	1, 2, 3, 4	教・経・工	前期	木3	長池 一美 内線 7953 E-mail : nagaike@cc.oita-u.ac.jp
【授業のねらい】 The contemporary debate about Japanese popular culture has provided various important perspectives from which to deal with questions concerning Japanese society and culture. In this course, we will examine a variety of Japanese popular cultural materials—e.g. manga comic books, Japanimation (Japanese animations), magazines, pop music, et cetera, and discuss the impact of these genres within both the Japanese socio-cultural and global contexts.						
【具体的な到達目標】						
【授業の内容】 (Tentative Schedule) 1) Introduction to Japanese Popular Culture: Issues of Media Literacy and Otaku 2) Ukiyoe: Pre-modern Japanese Popular Culture 3-6) Manga (e.g. Shonen manga, Shojo manga, Ladies' Comics, Yaoi manga, etc) 7) Japanese Popular Culture and Censorship 8-9) Animation (e.g. "Ghost in the Shell, "Sailor Moon, etc) 10) Japanese "Soft Power" 11) Magazines 12) Japanese Pop Music 13-14) Group Project						
【時間外学習】						
【教科書】 To be prepared and provided by Lecturer.						
【参考書】 To be provided by Lecturer.						
【成績評価の方法及び評価割合】 Participation: 30% Group Project: 30% Examination: 40%						
【注意事項】						
【備考】						

授業科目名 (科目の英文名)
日本文法とディスコース (Japanese Grammar and Discourse)

区分・分野・コア
短期留学プログラム

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・工	前期	金3	南里 敬三 内線 7635 E-mail

【授業のねらい】

本講義の目的は、日本語の特徴を語彙文法、談話構成の二つの視点から眺め、その鳥瞰図を取ることにある。語彙文法では格助詞、動詞群の構造に焦点を当て、談話構成では係助詞「は」の機能、および、修辭構造に焦点を当てる。曖昧だといわれている日本語には曖昧なりの論理が存在していることを確かめる。

【具体的な到達目標】

1. 格助詞の基本的機能を理解し、日本語の基本文型がどのようなものであるかを知る。
2. 動詞群にはどのような情報がどのような順番で組み込まれているかを確認する。
3. 日本人のしゃべりかたまたは文章の作り方にどのようなパターンがあるかを知る。

【授業の内容】

授業はすべて英語で行われる。

1. オリエンテーション、日本語概観。
2. 日本語の品詞、その見分け方と機能。
3. システム理論の三つの視点、および、経験文法からみた日本語の鳥瞰図。
4. 行動節と行動節の特徴。
5. 関係節、言動・心理節の特徴。
6. 対人関係機能の具現と動詞群の構造。
7. 「は」の機能、修辭構造、文化。

【時間外学習】

【教科書】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業でプリントを配布する。

【成績評価の方法及び評価割合】

クイズ12%、研究レポート (A4で1枚全8回) 24%、グループ発表1回15分程度13%、個人発表1回10分程度18%、期末試験33%。

【注意事項】

授業でのディスカッション (英語) に積極的に参加すること。課題等も全て英語で提出のこと。なお、英語でのレポートの書き方、プレゼンの仕方がわからない生徒は南里研究室まで相談に来ること。

【備考】

聴講希望の学生も全ての課題をこなすこと。

授業科目名 (科目の英文名)
日本文法とディスコース (Japanese Grammar and Discourse)

区分・分野・コア
短期留学プログラム

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1, 2, 3, 4	教・経・工	後期	金3	南里 敬三 内線 7635 E-mail

【授業のねらい】

本講義の目的は、日本語の特徴を語彙文法、談話構成の二つの視点から眺め、その鳥瞰図を取ることにある。語彙文法では格助詞、動詞群の構造に焦点を当て、談話構成では係助詞「は」の機能、および、修辞構造に焦点を当てる。曖昧だといわれている日本語には曖昧なりの論理が存在していることを確かめる。

【具体的な到達目標】

1. 格助詞の基本的機能を理解し、日本語の基本文型がどのようなものであるかを知る。
2. 動詞群にはどのような情報がどのような順番で組み込まれているかを確認する。
3. 日本人のしゃべりかたまたは文章の作り方にどのようなパターンがあるかを知る。

【授業の内容】

授業はすべて英語で行われる。

1. オリエンテーション、日本語概観。
2. 日本語の品詞、その見分け方と機能。
3. システミック理論の三つの視点、および、経験文法からみた日本語の鳥瞰図。
4. 行動節と行動節の特徴。
5. 関係節、言動・心理節の特徴。
6. 対人関係機能の具現と動詞群の構造。
7. 「は」の機能、修辞構造、文化。

【時間外学習】

【教科書】

授業でプリントを配布する。

【参考書】

授業でプリントを配布する。

【成績評価の方法及び評価割合】

クイズ12%、研究レポート (A4で1枚全8回) 24%、グループ発表 1回15分程度13%、個人発表 1回10分程度18%、期末試験33%。

【注意事項】

授業でのディスカッション (英語) に積極的に参加すること。課題等も全て英語で提出のこと。なお、英語でのレポートの書き方、プレゼンの仕方がわからない生徒は南里研究室まで相談に来ること。

【備考】

聴講希望の学生も全ての課題をこなすこと。

平成22年度 別府大学, 立命館アジア太平洋大学, 日本文理大学へ開放可能科目一覧 (経済学部)

地域システム学科

(平成22年度)

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	曜限	担当者	備考
地域情報文化論	情報社会論 I	2	22	前	月3	豊島	
	情報社会論 II	2	22	後	月3	豊島	
	異文化間コミュニケーション論 I	2	22	前	木4	柿原	
	異文化間コミュニケーション論 II	2	22	後	木4	柿原	
	アメリカ言語文化論	2	22	後	火3	雲	
	現代英語論	2	22	後	金2	中達	
	現代ドイツ社会論	2	22	後	木3	安岡	
	現代フランス社会論	2	22	前	木3	安田	
	現代中国社会論	2	22	後	月3	森川	
地域経営論	地域経営論 I	2	22	前	火2	奥田	
	地域経営論 II	2	22	後	火2	奥田	
	都市経営論 I	2	22	前	金3	高島	都市行政論 I の単位を取得している場合は受講不可
	都市経営論 II	2	22	後	金3	高島	都市行政論 II の単位を取得している場合は受講不可
	社会分析論 I	2	22	前	金4	嘉目	
	社会分析論 II	2	22	後	金4	嘉目	
	比較地域分析 I	2	22	前	木1	城戸	
	比較地域分析 II	2	22	後	木1	城戸	
	地域構造論 I	2	22	前	月3	宮町	
	地域構造論 II	2	22	後	月3	宮町	
	農村発展論 I	2	22	前	月2	山浦	
	農村発展論 II	2	22	後	月2	山浦	
	地域と商業	2	22	後	水2	松隈	
地域行政論	地方財政論	2	22	後	水2	井田	
	憲法 I	2	22	前	月3	青野	
	憲法 II	2	22	後	月3	青野	
	民法総則	2	22	前	木4	秋山	
	物権法	2	22	後	木4	秋山	
	債権総論	2	22	前	月1	藤村	
	債権各論	2	22	後	月1	藤村	
	労働関係法 I	2	22	前	金2	鈴木(芳)	
	労働関係法 II	2	22	後	金2	鈴木(芳)	
	行政法	2	22	前	月2	吉田	
	租税法	2	22	後	月2	吉田	

※対象学年は、指定のあるものを除き全学年対象である。

授業科目名
情報社会論I (Information and Society I)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	月 3	豊島 慎一郎 内線 7708 E-mail : stoy@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

テーマ: 情報社会とは何か

情報社会について「自ら考える力」を身につけることが本講義のねらいである。本講義では、現代社会におけるメディア環境の変化を踏まえたうえで、情報と人、社会との関わり、コミュニケーションのあり様について社会学の立場から論じていく。前期の「I」では、情報社会論に関する基礎理論や鍵概念、歴史について説明することを重点においた講義をおこなう。

【具体的な到達目標】

1. 情報社会論に関する基礎知識を身につけること
2. 与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を身につけること。

【授業の内容】

- 第1回 講義説明 (この回のみ出欠はとらない)
- 第2回 情報通信技術と社会生活
- 第3回 情報化とコミュニケーションの変容1
- 第4回 情報化とコミュニケーションの変容2
- 第5回 情報化とコミュニケーションの変容3
- 第6回 情報化とコミュニケーションの変容4
- 第7回 情報化とコミュニケーションの変容5
- 第8回 中間のまとめ
- 第9回 情報化と現代社会1
- 第10回 情報化と現代社会2
- 第11回 情報化と現代社会3
- 第12回 情報化と現代社会4
- 第13回 情報化と現代社会5
- 第14回 総論
- 第15回 期末テスト

【時間外学習】

講義中に紹介した文献を読むこと。

【教科書】

とくになし。毎回、講義資料の配付および映像資料の使用をおこなう。

【参考書】

佐藤卓己『メディア社会』岩波新書。

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点 (コミュニケーション・カードへの記入) と期末テスト (論述式。持ち込み不可) を総合して評価する。成績評価の割合 (総合評価: 100点を100%とする) 平常点: 50%、テスト: 50%。

【注意事項】

1. 第1回講義では、講義内容および成績評価について詳しく説明するので、履修希望者はできる限り出席すること。
2. 後期に「情報社会論II」を受講することを希望する。

【備考】

「やる気」がある人の受講を希望する。

授業科目名
情報社会論II (Information and Society II)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	月3	豊島 慎一郎 内線 7708 E-mail : stoy@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

テーマ： 地域情報化とメディア・リテラシー

情報社会について「自ら考える力」を身につけることが本講義のねらいである。前期「I」の講義内容を踏まえて、地域情報化とメディア・リテラシーをテーマとして、これからの情報社会のあり方について社会学の立場から論じていく。

【具体的な到達目標】

1. 地域情報化およびメディア・リテラシーに関する基礎知識を身につけること。
2. 与えられた課題について、自分の考えを論理的に展開できる力を身につけること。

【授業の内容】

- 第1回 講義説明（この回のみ出欠はとらない）
- 第2回 地域情報化とは何か1
- 第3回 地域情報化とは何か2
- 第4回 地域情報化とは何か3
- 第5回 地域情報化とは何か4
- 第6回 地域情報化とは何か5
- 第7回 地域情報化とは何か6
- 第8回 中間のまとめ
- 第9回 メディア・リテラシーとは何か1
- 第10回 メディア・リテラシーとは何か2
- 第11回 メディア・リテラシーとは何か3
- 第12回 メディア・リテラシーとは何か4
- 第13回 メディア・リテラシーとは何か5
- 第14回 総論
- 第15回 期末テスト

【時間外学習】

講義中に紹介した文献を読むこと。

【教科書】

とくになし。毎回、講義資料の配付および映像資料の使用をおこなう。

【参考書】

大石裕『地域情報化』世界思想社
菅谷明子『メディアリテラシー』岩波新書

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点（コミュニケーション・カードへの記入）と期末テスト（論述式。持ち込み不可）を総合して評価する。成績評価の割合（総合評価：100点を100%とする）平常点：50%、テスト：50%

【注意事項】

1. 第1回講義では、講義内容および成績評価について詳しく説明するので、履修希望者はできる限り出席すること。
2. 前期に「情報社会論I」を受講することを希望する。

【備考】

「やる気」がある人の受講を希望する。

授業科目名
異文化間コミュニケーション論I (Studies on Cross-Cultural Communication I)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	木4	柿原 武史 内線 7730 E-mail : kakihara@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

町中に増加しつつある、多言語表示の背景には何があるのか。外国人観光客の増加や定住者の増加が要因か、あるいは他の意図が隠されているのか。この授業では、多言語主義や多文化主義といった考え方について理解を深め、多文化共生社会の可能性について考える。また、日本だけではなく、諸外国の現状についても考察する。

【具体的な到達目標】

「当然」と思われていることに対して、「なぜ?」という疑問を持って接し、その疑問を自らの力で解決する能力を身に付けることを目指す。

【授業の内容】

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 多言語景観を観察する | 8. 国際結婚と言語 |
| 2. 多言語主義とはなにか (1) | 9. 言語と教育 |
| 3. 多言語主義とはなにか (2) | 10. 言語権という考え方 |
| 4. 多文化主義とは何か (1) | 11. 少数言語と言語権 |
| 5. 多文化主義とは何か (2) | 12. 移民と言語 |
| 6. 言語政策と言語計画 | 13. 英語帝国主義とは何か |
| 7. 言語政策と言語計画 | 14.～15. まとめ |

【時間外学習】

指示された課題だけでなく、授業中に紹介された書籍を読み、ウェブサイトを開覧するなどしておくこと。

【教科書】

プリントを配布する予定。

【参考書】

真田信治、庄司博史編 (2005) 『事典 日本の多言語社会』岩波書店
河原俊昭、岡戸浩子編 (2009) 『国際結婚—多言語化する家族とアイデンティティ』明石書店

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験 (70%) + 授業参加態度 (アンケート・小レポート提出) (30%)

【注意事項】

課題はすべて提出すること。

【備考】

授業科目名
異文化間コミュニケーション論II (Studies on Cross-Cultural Communication II)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	木4	柿原 武史 内線 7730 E-mail : kakihara@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

日本では、街中に英会話学校があり、外国語といえば英語だと考える人が非常に多い。「英語ぐらいできなければ」とか「英語ができれば就職に有利」という考え方の背景には何があるのだろうか。また、英語ができれば誰とでもコミュニケーションができるのだろうか。この授業では、このような言語と文化に関連するいくつかの事例を素材として、異文化理解や異文化間コミュニケーションの重要性、必要性だけでなく、異文化間コミュニケーション論やその周辺領域が抱える問題点についても考えていく。

【具体的な到達目標】

「当然」と思われていることに対して、「なぜ？」という疑問を持って接し、その疑問を自らの力で解決する能力を身に付けることを目指す。

【授業の内容】

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1. 言語相対性仮説について | 8. 言語接触と言語の誕生 |
| 2. 言語学の基礎知識 (1) | 9. 言語の変化 |
| 3. 言語学の基礎知識 (2) | 10. ダイグロシア |
| 4. 非言語的コミュニケーション | 11. 言語と国家 (1) |
| 5. 言語とコンテキスト | 12. 言語と国家 (2) |
| 6. 言語のバリエーション (地域方言) | 13. 言語と教育 |
| 7. 言語のバリエーション (社会方言) | 14.~15. まとめ |

【時間外学習】

指示された課題だけでなく、授業中に紹介された書籍を読み、ウェブサイトを開覧するなどしておくこと。

【教科書】

プリントを配布する予定。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験 (70%) + 授業中に指示する課題 (30%)

【注意事項】

課題はすべて提出すること。

【備考】

授業科目名
アメリカ言語文化論 (American Language and Culture)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	後期	火3	雲 和子 内線 7731 E-mail : kkumo@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

バラク・オバマ氏が第44代大統領として就任して以降も依然として問題山積のアメリカであるが、マイノリティの問題も解決を見ない。この授業では、マイノリティの中でも忘れられがちな存在、俗にインディアンと称されるネイティブ・アメリカンに焦点を合わせ、彼らの歴史と社会、さらにはマイノリティの問題を通して見たアメリカ社会を考察する。

【具体的な到達目標】

ネイティブ・アメリカンの過去と現在を理解する。
 マイノリティの諸問題を通しアメリカの国を理解する。
 アメリカを知ることを通し、自国に対しても相対的に眺める視野をもつ。
 少しだけ英語のブラッシュアップ。

【授業の内容】

1. アメリカ史概観
2. アメリカ史概観 その2
3. ネイティブ・アメリカンとは誰か
4. 先住民の国家
5. 先住民の国家 その2
6. 追われゆく先住民
7. 追われゆく先住民 その2
8. 民族自決への道
9. 民族自決への道 その2
10. つくられる先住民像
11. つくられる先住民像 その2
12. 負の再生産と再生への挑戦
13. 「辺境」からの挑戦
14. 他のマイノリティとの比較など
15. まとめ

【時間外学習】

教科書や資料の指示した箇所を予習あるいは復習してくる。

【教科書】

鎌田遵『ネイティブ・アメリカン--先住民社会の現在』、岩波新書、2009年(780円)
 その他資料を配付する。

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

課題を含む平常点40%、レポート60%

【注意事項】

授業は基本的に邦文の教科書、参考書をもとに行うが、時折英文の資料（インターネットを含む）も使用する。今年度は課題・レポートがある程度ヘビーであることを目指す。

【備考】

授業科目名
現代英語論 (Contemporary English)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	後期	金 2	中遠 俊明 内 線 7732 E-mail : nakatuji@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】
正確な英文法の知識が英語の受信力、発信力を高めるのに役立つことを実感してもらうこと。

【具体的な到達目標】
受講者になるほど英文法も役に立つものだなと思ってもらうこと。

【授業の内容】

第1回 授業内容の説明	第2回 文の構造について
第3回 文の種類について	第4回 動詞について
第5回 完了相について	第6回 進行相について
第7回 名詞について	第8回 形容詞について
第9回 副詞について	第10回 前置詞について
第11回 助動詞について	第12回 時制について(1)
第13回 時制について(2)	第14回 文の機能について
第15回 まとめ	

【時間外学習】
教科書の指定された章をその都度読んで、練習問題をしておくこと。その確認のために毎時間小テストを行います。

【教科書】
瀬田幸人『ファンダメンタル英文法』ひつじ書房

【参考書】
Michael Swan, Practical English Usage3, Oxford University Press
安井稔「英文法総覧2」開拓社

【成績評価の方法及び評価割合】
小テスト(30%) + 期末試験(70%)

【注意事項】
教科書は（必要な点は多少の説明はするが）基本的には各自が自宅で読んでおくための教材である。授業は出席者が教科書をすでに読んでいることを前提に進める。

【備考】
英文法の初歩を一から学習する授業ではありません。

授業科目名
現代ドイツ社会論 (Contemporary German Society)

必修 選択	単位	学期	曜・限	担当教員
選択	2	後期	木 3	安岡 正義 内線 7725 E-mail : yasuoka@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

冷戦構造の崩壊、ドイツ統一、ヨーロッパ統合（EU）の進化と拡大という大きな流れの中で、ヨーロッパ屈指の経済・政治大国ドイツの動向は大きな注目を集めている。これからドイツはどこへ向かおうとしているのかを幅広い視点から考察し、グローバル化の時代に生きる我々の糧としたい。

関連科目として異文化間コミュニケーション論、現代フランス社会論などの履修を勧める。

【具体的な到達目標】

1. 現代ドイツの姿を、「変わるドイツ」と「変わらぬドイツ」という切り口から分析し、ドイツ人の生き方や文化の全体像を明らかにする。
2. 異文化としてのドイツの実情を知ることによって、今まで認識していなかった日本の姿を知る。

【授業の内容】

1. はじめに - 悠久の時の流れの中で
2. 旅への誘い - 特色は地方にあり（1）
3. 旅への誘い - 特色は地方にあり（2）
4. ドイツ文化の風景 - 祭りと詩と音楽と（1）
5. ドイツ文化の風景 - 祭りと詩と音楽と（2）
6. 合理的に生きる - ドイツ人の考え方（1）
7. 合理的に生きる - ドイツ人の考え方（2）
8. 質実剛健 - ドイツ人の暮らし
9. 環境・福祉先進国 - 循環型社会を目指して（1）
10. 環境・福祉先進国 - 循環型社会を目指して（2）
11. 伝統と革新 - 教育・文化政策
12. 「過去」の克服 - 戦争の影
13. ヨーロッパの大国として - EUにおける役割
14. やっぱり違うドイツと日本 - 比較文化論の試み

【時間外学習】

教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。教科書のほかに適宜、参考文献を紹介する。

【教科書】

浜本隆志・高橋 憲『現代ドイツを知るための55章』明石書店、2000円

【参考書】

三島憲一『戦後ドイツ』、『現代ドイツ』（ともに岩波新書）

【成績評価の方法及び評価割合】

冬季休暇中の課題レポート（40%）と期末試験（60%）を総合して評価する。

【注意事項】

【備考】

授業科目名
現代フランス社会論 (Contemporary French Society)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	木 3	安田 俊介 内線 7728 E-mail : syasuda@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この講義では、フランス革命以降から現在までのフランス社会の文化と歴史の流れを紹介しながら、フランス社会が抱えているさまざまな問題の歴史的起源に照明をあてていきます。なおこの講義は平成19年度前期に開講した『フランス文化論』の続編ですが、単独でももちろん受講可能です。

【具体的な到達目標】

フランスの文化と歴史のアウトラインを知ること。

【授業の内容】

講義の内容は以下のとおりです。

- 1) フランス革命の現代的意義 1
- 2) フランス革命の現代的意義 2
- 3) 19世紀前半のフランス社会 1
- 4) 19世紀前半のフランス社会 2
- 5) 19世紀後半のフランス社会 1
- 6) 19世紀後半のフランス社会 2
- 7) 20世紀前半のフランス社会 1
- 8) 20世紀前半のフランス社会 2
- 9) 20世紀後半のフランス社会 1
- 10) 20世紀後半のフランス社会 2
- 11) 21世紀フランス社会のゆくえ
- 12) 講義の総括と展望

*講義のポイントは、近代国民国家の形成、宗教的原理と世俗的原理の対立、マイノリティーに対する寛容と排除の問題等におく予定です。

【時間外学習】

必要な予習等については授業のなかで指示します。

【教科書】

特に教科書は指定しません。必要に応じてプリントを配布しますが、以下に挙げる本を予め読んでおくと、この講義の見通しがかなり良くなるはずです。

- 1) 西永良成『変貌するフランス』NHKブックス、1998年。
- 2) 西川長夫『国民国家論の射程 あるいは〈国民〉という怪物について』柏書房、1998年。

【参考書】

講義のなかで紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

評価の基準は平常点20%（授業への積極的取り組み等）と学期末試験80%を合わせて、総合的に評価します。試験はレポートではなく、筆記試験です。

【注意事項】

遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用はきびしくチェックします。

【備考】

この講義はフランス語を選択していなくても受講できます。文学、哲学、社会学、歴史等に関心のある読書好きの学生を歓迎します。

授業科目名
現代中国社会論 (Contemporary Chinese Society)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	月 3	森川 登美江 内 線 7724 E-mail : nihao@cc.oita-u.ac.jp
<p>【授業のねらい】 1912年、中華民国成立以後を対象とする。とりわけ急速に変化しつつある現代中国の政治・経済・文化について出来るだけ幅広く紹介したい。</p>					
<p>【具体的な到達目標】 中国に関心を持ち、自発的に調べられるようになること。</p>					
<p>【授業の内容】 1、中国の概況説明 2、北京 3、天津・上海 4、遼寧省・吉林省・黒竜江省 5、河北省・山東省 6、河南省・陝西省 7、山西省・安徽省 8、湖北省・浙江省 9、江蘇省・福建省 10、江西省・湖南省 11、四川省・雲南省 12、青海省・チベット自治区・内蒙古自治区 13、甘肅省・新疆ウイグル自治区・寧夏回族自治区 14、広東省・海南省・貴州省 15、まとめ</p>					
<p>【時間外学習】 毎時間、配布する資料を次の時間に図表化してくること。毎日ニュースを見ること。</p>					
<p>【教科書】 無し。毎時間、資料を配布する。</p>					
<p>【参考書】 適宜紹介する。</p>					
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 毎時間の講義ノートおよび宿題提出 (50点) レポート (50点)</p>					
<p>【注意事項】 三分の二以上出席しないと受験資格を失う。遅刻しないこと。</p>					
<p>【備考】</p>					

授業科目名
地域経営論I (Regional Management I)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	前期	火 2	奥田 憲昭 内 線 7685 E-mail : nokuda@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

20世紀は世界的都市化の時代であった。しかし、都市化の様相は国によって大きく異なっている。
本講義においては日本の都市化過程を明治期・大正期・高度経済成長期に分け、それぞれの時期における主要な地域問題について述べる。また、アメリカ・韓国・スウェーデンの都市化についても言及する予定である。

【具体的な到達目標】

日本の都市化過程を理解すること。グローバルな視野のなかで都市化と地域問題を理解すること。

【授業の内容】

- 第1回 都市化と地域経営
- 第2回 国家と都市
- 第3回 明治時代の国家政策と都市の発展1
- 第4回 明治時代の国家政策と都市の発展2
- 第5回 大正時代における都市化
- 第6回 大阪の都市問題と関一の都市経営
- 第7回 戦争と都市
- 第8回 高度経済成長期における都市化
- 第9回 都市化と地方の過疎化
- 第10回 シカゴの都市化と都市研究
- 第11回 ニューヨークの都市化と民族コミュニティ
- 第12回 デトロイトの都市化-Don't cry for us, Cry for Detroit-
- 第13回 ソウルの都市化とセグリゲーション
- 第14回 スウェーデンの都市化と自治体改革

【時間外学習】

講義ノートを整理すること

【教科書】

毎回、レジュメを配付する。

【参考書】

授業のなかで紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

主に試験による。

【注意事項】

講義ノートを作成すること。

【備考】

授業科目名
地域経営論II (Regional Management II)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	後期	火2	奥田 憲昭 内線 7685 E-mail : nokuda@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

地域づくり、まちづくりに関する今日的課題について述べる。具体的には大都市と地方都市に分け、大都市においてはインナーシティと郊外のまちづくり、地方都市においては中心市街地の活性化と市町村合併を取り上げる。

【具体的な到達目標】

大都市、地方都市における地域づくりの今日的課題について理解する。

【授業の内容】

- 第1回 都市と地域社会
- 第2回 都市圏の拡大とインナーシティ
- 第3回 インナーシティの地域づくり
- 第4回 日本のニュータウン
- 第6回 ニュータウンの現在
- 第7回 行政都市としての地方都市
- 第8回 地方都市と地域開発
- 第9回 地方都市と中心市街地
- 第10回 世界の地方都市と中心市街地
- 第11回 世界の地方都市と中心市街地
- 第12回 平成の市町村合併の意義と特色
- 第13回 合併しなかった町村の問題点
- 第14回 市町村合併後のまちづくり

【時間外学習】

講義ノートを整理する。

【教科書】

プリント配付。

【参考書】

奥田憲昭著 『現代地方都市論』 恒星社厚生閣 その他授業で紹介

【成績評価の方法及び評価割合】

主に試験による。

【注意事項】

講義ノートを作成すること。

【備考】

授業科目名
都市経営論I (Urban Management I)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	金 3	高島 拓哉 内線 7678 E-mail : tataka@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

近年の自治体行政改革（地方行革）はNPM行革または自治体構造改革などよばれているが、NPMについての正確な理解が立ち遅れているもど、行革内容がたんなるコスト削減を主眼とするものであるかのような誤解が蔓延している。こうした誤解をただすべく、NPMの新展開を解説して行革の方法論を考えるとともに、コミュニティ行政、ごみ（清掃）行政、社会福祉行政を例に、規範的な対立の目立つ政策分野でNPMを活用する条件を考える。

【具体的な到達目標】

NPMの重要な柱とも言える行政評価指標、特に投入、産出、効率、効果（有効性）などの諸概念の理解ができるようにする。
コミュニティの再生を道徳的理念にとどめず客観的な政策論として考える視点を獲得できるようにする。そのためには評価自体にも価値判断が反映することの原理的認識が不可欠である。

【授業の内容】

- 第1回 開講にあたって
- 第2回 NPM- 政策評価と公務の市場化・営利化（1）
- 第3回 NPM- 政策評価と公務の市場化・営利化（2）
- 第4回 サービスのコストと質
- 第5回 コミュニティ行政の再発見（安全の喪失のもとで）
- 第6回 ジェンダーフリー、性教育論議にみるコミュニティ状況
- 第7回 コミュニティ・スケールで考えるごみ問題
- 第8回 ソーシャル・キャピタルとアンペイドワーク
- 第9回 社会問題の社会的性格
- 第10回 普遍主義・選別主義と福祉ニーズ論
- 第11回 公的介護保険と障害者自立支援法
- 第12回 社会福祉基礎構造改革
- 第13回 広域行政と公共サービス

【時間外学習】

新聞等で時事問題や世相について常に理解するよう努めること。

【教科書】

高島拓哉『都市経営論』つむぎ出版

【参考書】

成瀬龍夫『くらしの公共性と地方自治』自治体研究社、安達智則『自治体「構造改革」批判』旬報社、三富紀敬『イギリスのコミュニティケアと介護者』ミネルヴァ書房、寄本勝美『自治の現場と「参加」』学陽書房ほか

【成績評価の方法及び評価割合】

学期末レポート（100%）

【注意事項】

講義計画は多少変更する場合がある。講義中の私語厳禁（目立つ者は不合格）。感想文を毎回書いてもらい質問・疑問にはなるべく答えていく。レポートの採点基準を1回目講義で説明する（基準から外れると不可になるので注意）。

【備考】

都市経営論を都市計画・都市開発などの「まちづくり」に関する議論だと誤解している人が多い。私は「都市経営論II」でそれらを扱っているが、普通はごみ問題や保育、学校給食の問題こそが都市経営の主要な問題領域である。この点の誤解は講義の中で是正してもらおうこととする。

授業科目名
都市経営論II (Urban Management II)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	金 3	高島 拓哉 内 線 7678 E-mail : tataka@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

都市計画法改正により郊外大規模小売店への規制を行なう方針を国が明らかにしたが、こうした流れは欧米ではすでに進んできたものであり、その背景には環境重視、高齢者・障害者の在宅生活の広がりに加えて、郊外拡散型都市化が財政負荷を重くし、非効率や浪費など「大きな政府」につながってきたことへの反省がある。都市計画制度の概説を行い、都市計画領域でのNPM（ニュー・パブリック・マネジメント）の具体化がどのようになされているかについて検討を行なう。

【具体的な到達目標】

規制と計画の攻防を通じて規制手法そのものが洗練され、今日のNPMの最先端の実践を切り開いてきたことを理解してもらおう。特に、都市経営論Iでは詳論しなかったインパクト指標について、それが政策の合理化に対して果たしている意義を含めて理解してもらおう。

【授業の内容】

第1回 開講にあたって
第2回 ヒートアイランド
第3～4回 都市開発規制の理論と歴史
第5回 ゲーテッドシティ（要塞都市）
第6～9回 都市計画の対象・制度
第10回 「本末論」から考える都市計画の論理
第11～13回 アメリカにみる成長管理型都市計画とインパクト指標
第14回 NPMにとっての教訓

【時間外学習】

各人の出身地または現住所の都市計画図や合併協議会の資料を役場で入手して、具体的なイメージをふくらませながら受講されたい。

【教科書】

高島拓哉『都市経営論』つむぎ出版

【参考書】

大野輝之『現代アメリカ都市計画』学芸出版社、福川裕一ほか『持続可能な都市』岩波書店、吉川富夫『米国における地域経営の新展開』公人社ほか講義で紹介。

【成績評価の方法及び評価割合】

学期末レポート（100%）

【注意事項】

講義計画は多少変更する必要がある。講義中の私語厳禁（目立つ者は不可）。毎回感想文を書いてもらい質問・疑問等にはなるべく答えていく。1回目講義で学期末レポートの採点基準を説明する（基準から外れると不可になるので注意）。

【備考】

授業科目名
社会分析論I (Socialstructure Analysis I)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	金 4	嘉目 克彦 内 線 7711 E-mail : yoshime@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この講義では、社会分析の基礎概念と基本的な理論枠組みを解説する。この講義は一種の原理論であり、その応用編は後期の講義で展開する。前後期の講義を通じて社会学的思考の特性を明らかにすることが主要な狙いであるが、受講生は、社会現象を常識的に理解するのではなくて科学的に理解しようとする場合、社会学という一個の学問分野がどのような概念や理論枠組みで、どのような社会像を描いているかを学び、他の分野と比較しつつ、自らの思考を組み立てるさいの参考にしてほしい。

【具体的な到達目標】

社会分析の基礎概念と基本的な理論枠組みを理解する。

【授業の内容】

- 1 社会学の成立
- 2 社会的行為
- 3 社会関係
- 4 社会秩序
- 5 社会関係の諸類型
- 6 社会集団・団体
- 7 コミュニティー
- 8 社会システム

【時間外学習】

各回の授業の開始前に前回の講義内容について小テストを行うことがあるので、復習が必要となる。

【教科書】

特に使用しない。

【参考書】

講義の中で紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

学期末に筆記試験を行う。

【注意事項】

抽象的思考に慣れることが望ましい。

【備考】

授業計画に即して講義ノートを用意し、それを中心に授業を進める。資料もその都度配付する。

授業科目名

社会分析論II
(Socialstructure Analysis II)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	金 4	嘉目 克彦 内 線 7711 E-mail : yoshime@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

この講義は、社会分析の基礎概念と基本的な理論枠組みを解説する前期の講義の応用編であり、社会学の原理論に基づいて社会的諸現象をさまざまな視角から考察する。前後期の講義を通じて社会学的思考の特性を明らかにすることが一貫した狙いであるが、受講生は、社会現象を常識的に理解するのではなくて科学的に理解しようとする場合、社会学という一つの学問分野がどのような概念と理論枠組みで、どのような社会像を描いているかを学び、他の分野と比較しつつ、自らの思考を組み立てるさいの参考にしてほしい。

【具体的な到達目標】

社会分析の基礎概念と基本的な理論枠組みを理解する。

【授業の内容】

- 1 生活構造と社会構造
- 2 宗教・文化と社会意識
- 3 政治システムと経済システム
- 4 社会階層と社会移動
- 5 社会システムと社会変動
- 6 社会問題

【時間外学習】

各回の授業の開始前に前回の講義内容について小テストを行うことがあるので、復習が必要となる。

【教科書】

特に使用しない。

【参考書】

講義の中で紹介する。

【成績評価の方法及び評価割合】

学期末に筆記試験を行う。

【注意事項】

社会の出来事に関心を寄せ、その関心を持続させることが望ましい。

【備考】

授業計画に即して講義ノートを用意し、それを中心に授業を進める。資料もその都度配付する。

授業科目名
比較地域分析I (Comparative Analysis of Regions I)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	木1	城戸 照子 内線 7946 E-mail : tkido@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

ヨーロッパの進出により生成された17世紀以降の世界システムにおいて、世界商品となった砂糖の生産と消費を通して、近代以降の世界経済の発展を考える。

【具体的な到達目標】

- 1 16世紀以降のカリブ海諸島域（新大陸）、アフリカ大陸、イギリス（ヨーロッパ）の経済関係を知る。
- 2 新しい食文化が社会の何を変化させるか、その受容と影響を考える指標を得る。
- 3 世界システム論に関する知識を得る。

【授業の内容】

- 1 世界システム論の重要性
- 2 大航海時代のカリブ海諸島域
- 3 砂糖の生産・日本の砂糖
- 4 ステイタス・シンボルとしての砂糖
- 5 サトウキビプランテーションの労働力
- 6 奴隷貿易1 ヨーロッパ商人
- 7 奴隷貿易2 アフリカの傷跡
- 8 茶・コーヒー・チョコレート
- 9 農業革命と商業革命
- 10 生活革命と産業革命
- 11 産業革命下のイギリス社会
- 12 国家とサトウキビプランターの攻防
- 13 国家と砂糖と税金と
- 14/15 世界システム論からみた砂糖

【時間外学習】

テキストを読み、板書ノートと資料の整理をするのに、講義後30分程度をあててほしい。

【教科書】

川北稔『砂糖の世界史』岩波書店

【参考書】

授業中に文献目録を配付する。

【成績評価の方法及び評価割合】

中間試験もしくはレポート（50%）と学期末試験（50%）の成績を合わせて評価する。

【注意事項】

はなはだしい遅刻をしない。授業中は、メールも含め携帯電話の使用禁止。私語はその都度注意する。

【備考】

世界史を履修しなくても受講できるが、高校程度の知識の整理は各自で行うこと。その際必要な文献については、講義中に紹介する。

授業科目名
比較地域分析II (Comparative Analysis of Regions II)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	木1	城戸 照子 内線 7946 E-mail : tkido@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

アジアとヨーロッパを結ぶ香辛料貿易が、17世紀以降アジアのインド洋貿易圏や地域の政治権力構造をどのように変化させたか、「港市国家」論に注目して考える。

【具体的な到達目標】

- 1 16世紀以降の東南アジアへの、ヨーロッパ勢力の進出を知る。
- 2 香辛料生産地における、ヨーロッパ各国と東南アジアの現地政権との関係を考える。
- 3 東南アジア諸島部に独特の、市場管理と商業特権を基盤とする政治権力構造について知識を深める。
- 4 現代の東南アジア経済を知るために必要な、近代以降の東南アジア諸国（特に群島部）の国家形成過程の知識を得る。

【授業の内容】

- 1 東南アジア諸島部の基礎知識＝政治構造
- 2 東南アジア諸島部の基礎知識＝経済構造
- 3 東南アジア諸島部の基礎知識＝文化構造
- 4 四大香辛料と食文化
- 5 ポルトガルの大航海時代
- 6 ポルトガルのインドおよびマラッカ進出
- 7 ポルトガルのテルナテ島進出
- 9 海洋帝国ポルトガルの誤算
- 10 ポルトガル、マカオへ
- 11 オランダとイギリスの進出
- 12 独占貿易の失敗から中継貿易へ
- 13 中継貿易から土地経営へ
- 14 土地経営に始まるオランダの農業植民地形成
- 15 ヨーロッパ支配下のアジア植民地経営の功罪

【時間外学習】

テキストを読み、板書ノートと資料の整理をするのに、講義後30分程度をあててほしい。

【教科書】

東南アジアに関する基本テキストとして、桐山・根本・栗原著『東南アジアの歴史- 人・物・文化の交流史-』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2003年。

さらに歴史的な詳細な説明については、講義中にプリントを配布する。

【参考書】

授業中に文献目録を配付する。

【成績評価の方法及び評価割合】

3000字以上のレポート1回（50%）と学期末試験（50%）をあわせて評価する。

【注意事項】

はなはだしい遅刻をしない。授業中は、メールも含め携帯電話の使用禁止。私語はその都度注意する。

【備考】

世界史を履修しなくても受講できるが、高校程度の知識の整理は各自で行うこと。東南アジアについての知識は皆、あまり持っていないことが多い。この機会に勉強するつもりで、新しい知識と出会おう。

授業科目名
地域構造論I (Regional System)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	前期	月3	宮町 良広 内線 7684 E-mail : ymiya@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

【地域経済の構造や活性化を学習・研究するための基本的論点を解説します】

スポーツに強いチームと弱いチームがあるように、地域活性化にも「成功」する地域と「失敗」する地域があります。両者を分けるものはいったい何でしょうか。本講義では、経済活性化の視点から日本の地域構造と地域政策について学習します。

なお担当教員自身の授業目標は次の通りです。

「難しいことをわかりやすく、わかりやすいことをおもしろく、おもしろいことを深く」 (作家・井上ひさし)

【具体的な到達目標】

1. 日本の地域構造を考察するための基本的考え方を理解すること
2. 日本の地域構造の全体像を理解すること
3. 地域政策と経済活性化の関係について理解すること

【授業の内容】

講義を中心に、3回の小テストとセットで進めます。答案は採点后に返却します。毎回の講義、テキストの理解、小テストに備えた学習、返却答案による弱点チェックを繰り返すことで、卒業後も使える学習成果が身に付くと思います。授業ではパワーポイントやビデオなどを活用します。

1. ジャンプ・スタート
2. 人口からみた日本の地域構造
3. 産業立地と日本の地域構造
4. 産業立地と日本の地域構造 (続き)
5. 産業立地と日本の地域構造 (続き)
6. 小テスト#1, 国土政策の類型化
7. 全国総合開発計画の変遷
8. 全国総合開発計画の変遷 (続き)
9. 新産業都市計画と大分
10. 小テスト#2, 大分市の産業経済構造
11. 一村一品運動の軌跡
12. 温泉観光地の地域づくり
13. 地域社会と地域づくり
14. 小テスト#3

【時間外学習】

教科書や指定参考文献を必ず読んでください。授業で学習したことが自分の頭のなかで整理され、文章力が向上します。小テストは準備して受験してください。授業ノートと文献内容を自分の言葉で整理したテスト対策ノートを作りましょう。

【教科書】

未定

【参考書】

授業の中で指示します。

【成績評価の方法及び評価割合】

小テストの合計点によって評価します (60%以上の得点で合格)。合格点に達しないが、学習意欲のある人には、リベンジ・テストを実施することがあります。

【注意事項】

学問は自分自身への最大の投資です。オフィスアワー (質問や相談を研究室で受け付ける時間) も利用してください。

【備考】

地域研究入門の理解を前提とします。地域構造論IIとのセット受講をすすめます。授業アンケート対象科目となった場合、アンケート結果を受講生に開示します。

授業科目名
地域構造論II (Regional System II)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	後期	月 3	宮町 良広 内 線 7684 E-mail : ymiya@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

【地域経済の構造や活性化について自立して学習していく力を養成します】

基本的なねらいは地域構造論Iと同様ですが、本講義では諸外国における地域経済構造、サービス経済下の地域構造など応用的側面に重点をおき、最後に21世紀の地域づくりのあり方について考察します。

なお担当教員自身の授業目標は次の通りです。

「難しいことをわかりやすく、わかりやすいことをおもしろく、おもしろいことを深く」 (作家・井上ひさし)

【具体的な到達目標】

1. 英米における地域構造と地域政策について理解すること
2. 経済グローバル化が地域構造に及ぼす影響について理解すること
3. 経済サービス化が地域構造に及ぼす影響について理解すること

【授業の内容】

講義を中心に、3回の小テストとセットで進めます。答えは採点后に返却します。毎回の講義、テキストの理解、小テストに備えた学習、返却答案による弱点チェックを繰り返すことで、卒業後も使える学習成果が身に付くと思います。授業ではパワーポイントやビデオなどを活用します。

1. ジャンプ・スタート
2. イギリスの地域構造
3. イギリスの地域構造 (続き)
4. 経済のグローバル化とアメリカ農村
5. 経済のグローバル化とアメリカ農村 (続き)
6. 小テスト#1, 産業クラスターの形成と構造
7. 産業クラスターの形成と構造 (続き)
8. サービス経済下の地域構造
9. サービス経済下の地域構造 (続き)
10. 小テスト#2, 商社のグローバル立地と地域構造
11. 商社のグローバル立地と地域構造 (続き)
12. 21世紀の国土ビジョン
13. 21世紀の国土ビジョン (続き)
14. 小テスト#3

【時間外学習】

教科書や指定参考文献を必ず読んでください。授業で学習したことが自分の頭のなかで整理され、文章力が向上します。小テストは準備して受験してください。授業ノートと文献内容を自分の言葉で整理したテスト対策ノートを作りましょう。

【教科書】

未定

【参考書】

授業の中で指示します。

【成績評価の方法及び評価割合】

小テストの合計点によって評価します (60%以上の得点で合格)。合格点に達しないが、学習意欲のある人には、リベンジ・テストを実施することがあります。

【注意事項】

学問は自分自身への最大の投資です。オフィスアワー (質問や相談を研究室で受け付ける時間) も利用してください。

【備考】

地域構造論Iの理解を前提とします。授業アンケート対象科目となった場合、アンケート結果を受講生に開示します。

授業科目名
農村発展論I (Rural Development I)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	月 2	山浦 陽一 内 線 7677 E-mail : yamaur@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

「農村発展論Ⅰ・Ⅱ」では、日本、そして大分の農村の現状と性格の変化、また抱えている課題とその解決の方向性を、実態に即して学ぶことをねらいとしています。「Ⅰ」では、農村で今まさに起きている変化と、その背景について解説します。

【具体的な到達目標】

「日本は農村の中にある」、
「農村は日本社会の最先端である」、
「農村こそ若者の自己実現の場である」、
講義を通じて、これらのことを皆さんと共有できればと考えています。

【授業の内容】

第1回：ガイダンス
第2回：「農村」とは？－農村問題の意味－
第3回：農村の疲弊の実態－「限界集落」問題－
第4回：農村の疲弊の実態－農村の生活問題－
第5回：農村問題の背景－いつ勝負がついたか？－
第6回：集落営農とは？－農村問題の中の集落営農－
第7回：中山間地域等直接支払制度
第8回：地産地消の広がり－「想像」と「創造」－
第9回：農村の社会保障－高齢者医療・介護－
第10回：まつりと地域－農村と都市の異同－
第11回：農村の買物問題－「ノーゾン」の挑戦－
第12回：農村の交通問題
第13回：ワークショップ－復習と共有－
第14回：前期まとめ－農村問題の本質と展望－
(以上は2009年度の内容であり、変更することがあります。)

【時間外学習】

希望者は新聞のスクラップを提出して下さい。質・量に応じて成績に加点します。記事は農業・農村に関係するものに限定します。

【教科書】

教科書は指定しません。講義は、主にパワーポイントでおこない、スライドを印刷し配布する予定です。

【参考書】

毎回、講義内容に関連する書籍やビデオ、講演会等を紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

毎回講義中に小テストを行います。この小テストと定期試験で成績をつけます。定期試験は記述式を予定しています。配点の割合は概ね小テスト4割、定期試験6割で、それに新聞スクラップ分を加点します。

【注意事項】

特になし。

【備考】

将来就農を希望する人はもちろん、農村部の市町村や農協等への就職を考えている方、是非受講してください。なお、講義の内容は、受講者の要望、時宜に応じて変更することがあります。また、外部からテーマに関連するゲストを招き、議論に加わってもらう可能性があります(2009年度は3回ゲストに来てもらいました)。

授業科目名
農村発展論II (Rural Development II)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	月 2	山浦 陽一 内 線 7677 E-mail : yamaur@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

「農村発展論Ⅰ・Ⅱ」では、農村の現状と性格の変化、また抱えている課題とその解決の方向性を、実態に即して学ぶことをねらいとしています。「Ⅱ」では、「Ⅰ」で学んだ農村の現状を頭に置きながら、若者、大学生である皆さんが農村とどうかかわれるのかを解説、紹介します。

【具体的な到達目標】

農村は、単なる知的的好奇心、研究の対象ではありません。訪ね、学び、行動するフィールドです。講義を聞き、1人でも実際に農村へ行き活動する学生が出ることを目標としています。

【授業の内容】

- 第1回：ガイダンス
 - 第2回：前期試験解説- 農村発展の鍵-
 - 第3回：「票田」としての農業・農村- 民主党大勝の背景-
 - 第4回：「JA」と農業・農村
 - 第5回：シンポジウム「焼畑サミット」参加
 - 第6回：農村女性の活躍と課題
 - 第7回：農業大学校農場体験+ワークショップ
 - 第8回：棚田保全の課題と模索- 今私がやれること①-
 - 第9回：農村を支える多様な主体- 今私がやれること②-
 - 第10回：市町村農政の実像と模索- 山国からの報告と模索-
 - 第11回：グリーン・ツーリズム- 現状・成果・課題・展望-
 - 第12回：コミュニティー・ビジネス
 - 第13回：ワークショップ- 復習と共有-
 - 第14回：後期まとめ- 農村と若者-
- (以上は2009年度の内容です。)

【時間外学習】

希望者は新聞のスクラップを提出して下さい。質・量に応じて成績に加点します。記事は農村に関係するものに限定します。

【教科書】

教科書は指定しません。講義は、主にパワーポイントでおこない、スライドを印刷し配布する予定です。

【参考書】

毎回、講義内容に関連する書籍やビデオ、講演会等を紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

毎回講義中に小テストを行います。この小テストと定期試験で成績をつけます。定期試験は記述式を予定しています。配点の割合は概ね小テスト4割、定期試験6割で、それに新聞スクラップ分を加点します。

【注意事項】

特になし。

【備考】

「農村発展論Ⅰ」を受講していることを希望します。なお、講義の内容は、受講者の要望、時宜に応じて変更することがあります。また、外部からテーマに関連するゲストを招き、議論に加わってもらう可能性があります(2009年度は4人のゲストに来てもらいました)。

授業科目名
地域と商業 (Region and Commerce)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	水 2	松限 久昭 内 線 7680 E-mail : himatsu@cc.oita-u.ac.jp
<p>【授業のねらい】 都市および地域における商業の構造、行動、成果を分析し、その役割を理解すること。また、商業の現状と問題点を理解すること。</p>					
<p>【具体的な到達目標】 地域における商業を分析できるようになること。</p>					
<p>【授業の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商業の役割 (1) 2. 商業の役割 (2) 3. 分析アプローチ 4. 小売業 (1) 5. 小売業 (2) 6. 卸売業 (1) 7. 卸売業 (2) 8. 都市と小売業 (1) 9. 都市と小売業 (2) 10. 地域と小売業 (1) 11. 地域と小売業 (2) 12. 過疎地の小売業 13. 欧米の小売業 (1) 14. 欧米の小売業 (2) 15. まとめ 					
<p>【時間外学習】 商業、地域政策に関する経済誌、新聞を読むこと。</p>					
<p>【教科書】 未定。初回の授業時に指定する。</p>					
<p>【参考書】 講義中に紹介する。</p>					
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 出席 (10) 、レポート (20) 、試験 (70) の総合評価。</p>					
<p>【注意事項】 出席が基準に満たない場合は、評価しないので注意すること。3年生以上が望ましい。私語は厳禁です。</p>					
<p>【備考】</p>					

授業科目名
地方財政論 (Local Public Finance)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	2,3,4	後期	水2	井田 知也 内線 7705 E-mail : ida@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

各地方自治体の財政状況は危機的な状況にある。このような中、地方財政をめぐる問題も様々な角度から議論を呼び、各メディアで取上げられる機会が増加している。本講義ではこのように多くの関心が寄せられている地方財政を、制度と理論の両面からそのあり方を考察する。

【具体的な到達目標】

地方財政の理論・制度を明確に理解すると共に日本経済の現状を適切に把握する。

【授業の内容】

以下の講義内容を予定している。

- 1.地方財政の概説(地方財政とは、地方財政の現状)
- 2.地方財政の役割と構造(地方公共支出の役割、地方公共団体と公共財の供、地方公共支出の変貌)
- 3.地方公共支出の経済学(地方公共支出の効率化、地方公共サービスの最適供給、地方公共サービスの費用負担、行政区域の最適規模)

適時日本経済新聞等の掲載記事の解説や経済学の基礎理論の復習も行う。

【時間外学習】

日本経済新聞の購読

【教科書】

講義中に指示する。

【参考書】

- ・『地方財政論』(齊藤慎・林宜嗣・中井英雄著)新世社
- ・『入門価格理論 第2版』(倉沢資成著)日本評論社

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験(70%)と講義参加度(30%)を総合的に評価する。

【注意事項】

講義中の私語・携帯電話は厳禁である。

【備考】

授業科目名
憲法I (Constitution I)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	月 3	青野 篤 内 線 7726 E-mail : aaono@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

本講義では、日本国憲法の基本的人権に関する部分について解説を加える。本講義を通じて、日本国憲法が保障する基本的人権の意義・内容・限界について、正確な理解を深めることをねらいとする。

【具体的な到達目標】

- 1 日本国憲法ではどのような人権が保障されているのか説明できる。
- 2 基本的人権に関する憲法解釈上の重要論点について、関連する判例・学説を踏まえて、自分の見解を論理的に述べることができる。
- 3 憲法を単なる知識として習得するのではなく、管理・統制化の進む現代社会において、自分らしい生き方を貫くための拠り所（＝使える道具）にできる。

【授業の内容】

- | | |
|------------|------------|
| 1 生存権 | 8 表現の自由(2) |
| 2 教育権 | 9 集会・結社の自由 |
| 3 労働権 | 10 信教の自由 |
| 4 職業の自由 | 11 幸福追求権 |
| 5 財産権 | 12 法の下での平等 |
| 6 思想・良心の自由 | 13 人権の享有主体 |
| 7 表現の自由(1) | 14 人権の到達範囲 |

1回目から授業に入ります。

憲法に関する時事問題も積極的に取り上げる予定ですので、その時々々の政治情勢等によっては、予定通りに進まない場合もあります。

【時間外学習】

大学で学ぶ憲法は、高校時代に「現代社会」や「政治・経済」で学んだ憲法とは質・量ともに大きく異なります。指定の教科書を活用して、予習と復習に励んでください。また、憲法に関係する時事問題（非常に幅広くあります）にも関心を向けてください。

【教科書】

渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1人権〔第3版〕』（有斐閣，2007年）

【参考書】

主要なものは、1回目の講義の際にまとめて紹介します。その他、必要に応じて、講義中に紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験（論述式問題は必ず出題します）（80%），小テスト（20%）で評価します。

【注意事項】

- ・各自、上記の教科書に加え、最新版の六法（小型のものでよい）を準備することが望ましい。
- ・遅刻、途中退出、私語、携帯電話の使用等、授業に集中できる環境を乱す行為は厳禁とします。

【備考】

憲法を全体として理解するために、憲法IIとあわせて受講することが望ましい。

授業科目名
憲法II (Constitution II)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	月 3	青野 篤 内 線 7726 E-mail : aaono@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

本講義では、日本国憲法の統治機構に関する部分について解説を加える。本講義を通じて、日本国憲法が規定する統治機構とその基本原理について、正確な理解を深めることをねらいとする。

【具体的な到達目標】

- 1 日本国憲法の統治機構の基本原理（法の支配・権力分立）について説明できる。
- 2 統治機構に関する憲法解釈上の重要論点について、関連する判例・学説を踏まえて、自分の見解を論理的に述べることができる。
- 3 憲法を単なる知識として習得するのではなく、日本の政治制度・司法制度を分析するための道具にできる。

【授業の内容】

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 国会と内閣 | 8 地方自治 |
| 2 国会の権限 | 9 国民主権 |
| 3 内閣の権限 | 10 有権者と国会 |
| 4 国会と内閣の内部組織 | 11 選挙制度と選挙権 |
| 5 司法権の意義と限界 | 12 天皇 |
| 6 司法権の独立・組織・権能 | 13 戦争の放棄 |
| 7 違憲審査制 | 14 法の支配・権力分立 |

1回目から授業に入ります。

憲法に関する時事問題も積極的に取り上げる予定ですので、その時々々の政治情勢等によっては、予定通りに進まない場合もあります。

【時間外学習】

大学で学ぶ憲法は、高校時代に「現代社会」や「政治・経済」で学んだ憲法とは質・量ともに大きく異なります。指定の教科書を活用して、予習と復習に励んでください。また、憲法に関係する時事問題（非常に幅広くあります）にも関心を向けてください。

【教科書】

渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法2統治〔第3版〕』（有斐閣，2007年）

【参考書】

主要なものは、1回目の講義の際にまとめて紹介します。その他、必要に応じて、講義中に紹介します。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末試験（論述式問題は必ず出題します）（80%），小テスト（20%）で評価します。

【注意事項】

- ・各自、上記の教科書に加え、最新版の六法（小型のものでよい）を準備することが望ましい。
- ・遅刻、途中退出、私語、携帯電話の使用等、授業に集中できる環境を乱す行為は厳禁とします。

【備考】

憲法を全体として理解するために、憲法Iとあわせて受講することが望ましい。

授業科目名
民法総則 (General Rules of Civil Law)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	木 4	秋山 智恵子 内線 E-mail :

【授業のねらい】

「民法総則」(民法1条～174条の2)に関する基礎的な知識および重要論点に関する判例・学説の知識とともに、民法導入として民法の全体像を把握させることを目的とする。

【具体的な到達目標】

- (1)民法の全体構造・基本原理を理解する。
- (2)民法総則の諸制度、各条文の趣旨・要件・効果を理解する。
- (3)民法総則に関する判例・学説を理解する。

【授業の内容】

1. 導入
2. 自然人
3. 法人
4. 物
5. 法律行為
6. 意思表示①—心裡留保・通謀虚偽表示
7. 意思表示②—錯誤
8. 意思表示③—詐欺・強迫
9. 代理①
10. 代理②—表見代理
11. 代理③—無権代理
12. 無効・取消
13. 条件・期限・期間
14. 時効①—消滅時効
15. 時効②—取得時効

【時間外学習】

教科書の該当ページの予習・復習等、講義内容の定着に必要な学習を行って下さい。

【教科書】

- (1)遠藤浩他編『民法(1)総則』(有斐閣)
- (2)講義には、必ず六法を持参すること。

【参考書】

開講時に指摘する(各自の学習の目的・進行状況に合わせて選択して下さい)。
講義では、必要に応じてレジュメ・資料等を配布する。

【成績評価の方法及び評価割合】

- (1)主に定期試験の結果によって評価するが、他にレポート等(任意)の成績を加点する予定である。
- (2)レポートは、各自の関心のある分野について作成したもの(民法総則の他、一般的な法学に関連する新聞記事等の調査・分析も含める)を複数回提出させる。

【注意事項】

講義中の他の学生の受講の妨げになる行為を禁止する。

【備考】

公務員試験や各種資格試験の勉強のために、ただ判例・通説を暗記するというだけではなく、「法」という小さな視点から「社会」という大きな視野を展望するということを意識して欲しいと思います。

授業科目名

物権法
(Property Law)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	木4	秋山 智恵子 内線 E-mail :
<p>【授業のねらい】 「物権法」(民法175条～398条の22)に関する基礎的な知識および重要論点に関する判例・学説の把握を目的とする。</p>					
<p>【具体的な到達目標】 (1)物権法に関する諸制度、各条文の趣旨・要件・効果を理解する。 (2)物権の種類・内容・効力・変動などについて理解する。 (3)物権関連諸制度について理解する。</p>					
<p>【授業の内容】 1. 導入 2. 物権変動①—物権変動概論 3. 物権変動②—不動産物権変動 4. 物権変動③—動産物権変動 5. 所有権①—取得・内容・限界 6. 所有権②—物権的請求権 7. 占有権 8. 用益物権—地上権・永小作権・地役権・入会権 9. 担保物権導入 10. 約定担保物権①—抵当権(1) 11. 約定担保物権②—抵当権(2) 12. 約定担保物権③—抵当権(3) 13. 約定担保物権④—質権 14. 非典型担保物権 15. 法定担保物権—留置権・先取特権</p>					
<p>【時間外学習】 教科書の該当ページの予習・復習等、講義内容の定着に必要な学習を行って下さい。</p>					
<p>【教科書】 (1)遠藤浩他編『民法(2)物権』、『民法(3)担保物権』(有斐閣) (2)講義には、必ず六法を持参すること。</p>					
<p>【参考書】 開講時に指摘する(各自の学習の目的・進行状況に合わせて選択して下さい)。 講義では、必要に応じてレジュメ・資料等を配布する。</p>					
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 (1)主に定期試験の結果によって評価するが、他にレポート等(任意)の成績を加点する予定である。 (2)レポートは、各自の関心のある分野について作成したもの(物権法の他、一般的な法学に関連する新聞記事等の調査・分析も含める)を複数回提出させる。</p>					
<p>【注意事項】 講義中の他の学生の受講の妨げになる行為を禁止する。</p>					
<p>【備考】 公務員試験や各種資格試験の勉強のために、ただ判例・通説を暗記するというだけではなく、「法」という小さな視点から「社会」という大きな視野を展望するということを意識して欲しいと思います。</p>					

授業科目名
債権総論 (General Provisions of Obligations)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	前期	月 1	藤村 賢訓 内 線 7703 E-mail : masa-f@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

民法第三編第一章債権総則についての基本的理解をめざします。なお債権法分野は学説・判例の進展が著しく、近年大規模改正が予定されている分野のため、改正動向についても若干の補足を行いたいと考えています。

【具体的な到達目標】

- ・ 債務不履行の基本概念を理解する
- ・ 債権の意義と内容、損害賠償の意義および方法について理解する
- ・ 多数当事者間の債権債務関係について基本理解を図る。
- ・ 人的担保を含む債権法分野の総合理解を目指す。

【授業の内容】

- 1.民法における債権法の位置づけ
- 2.債権の意義と内容
- 3.債務不履行総説
- 4.債務不履行基礎理論
- 5.損害賠償の要件と効果
- 6.損害論・債権の実現
- 7.第三者による債権侵害
- 8.債権譲渡
- 9.人的担保制度-保証・連帯保証-
- 10.債権者代位権
- 11.詐害行為取消権
- 13.弁済と相殺
- 14.多数当事者間の債権関係
- 15.まとめ

【時間外学習】

適宜予習・復習を心がけてください。

【教科書】

野村豊弘ほか『民法3債権総論』有斐閣（Sシリーズ）2005年

【参考書】

民法判例百選Ⅱ債権（第6版） 有斐閣・2009年

【成績評価の方法及び評価割合】

定期試験による(100%)
円滑な理解のために講義中に練習問題を行う用意がありますが、その評価を上乗せすることも検討しています。

【注意事項】

- ・ 講義に臨むにあたっては六法を必携のこと（小型のもので構いません）
- ・ 講義中の私語・不必要な携帯電話の使用を禁じます。

【備考】

法学入門の履修が完了していることが望ましいです。
民法は全分野一体の理解が必須ですので、民法総則・物権法・債権各論もあわせて履修されることをお勧めします。

授業科目名
債権各論 (Special Provisions of Contracts and Torts)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2	3,4	後期	月 1	藤村 賢訓 内 線 7703 E-mail : masa-f@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

債権の発生原因を規定する民法第三編第二章以下の契約・事務管理・不当利得・不法行為の各制度の基本的理解を目指します。

各論部分においては判例を重視し、具体的なイメージがもてるような解説を心掛けて講義を展開したいと考えています。

【具体的な到達目標】

- ・債権の発生原因について具体的な制度の説明ができる。
- ・典型契約の基本的制度設計が説明できる。
- ・不法行為に対する救済理論の基本的理解を身につける。

【授業の内容】

- 1.債権各論の規定するもの
- 2.契約総論
- 3.典型契約と債務不履行
- 4.売買契約Ⅰ-総論-
- 5.売買契約Ⅱ-担保責任-
- 6.賃貸借Ⅰ-総論-
- 7.賃貸借Ⅱ-信頼関係破壊の法理-
- 8.金銭消費貸借
- 9.請負・委任
- 10.事務管理・不当利得
- 11.不法行為総論
- 12.一般不法行為-§709-
- 13.損害の範囲と因果関係
- 14.特殊な不法行為
- 15.まとめ

【時間外学習】

予習・復習に励んでください。

【教科書】

藤岡康宏ほか『民法Ⅳ債権各論』有斐閣（Sシリーズ）2009年

【参考書】

民法判例百選Ⅱ債権（第6版）有斐閣・2009年

【成績評価の方法及び評価割合】

定期試験による(100%)

【注意事項】

講義に臨むにあたっては六法を必携のこと（小型のもので構いません）
講義中の私語・不必要な携帯電話の使用を禁じます。

【備考】

法学入門を履修していることが望ましい
民法総則・物権法・債権総論を併せて履修することにより、民法の理解が深まるでしょう。

授業科目名
労働関係法I (Labor Relations Law I)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	金 2	鈴木 芳明 内 線 7692 E-mail : ysuzuki@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

労働関係法の基礎知識の提供・修得を目的とする。
「雇用関係法」の分野を中心に、法制度のしくみやルールについて解説する。

【具体的な到達目標】

社会人として備えておくべき労働関係法の基礎知識の修得をめざす。

【授業の内容】

以下の順序で、講義を行う予定である。

- 第1回 総論（1）
- 第2回 総論（2）
- 第3回 総論（3）
- 第4回 雇用関係の成立に関する法的ルール
- 第5回 人事異動の法的諸問題
- 第6回 賃金保護制度と法的諸問題
- 第7回 労働時間・休暇の法制度（1）
- 第8回 労働時間・休暇の法制度（2）
- 第9回 年少者・女性労働者の保護
- 第10回 労災補償制度（1）
- 第11回 労災補償制度（2）
- 第12回 就業規則制度と法的問題点
- 第13回 職場規律と懲戒制度
- 第14回 解雇・定年に関する法制とルール
- 第15回 まとめ

【時間外学習】

必要に応じてレポートの提出を求める。

【教科書】

安枝英紳＝西村健一郎『労働法〔第10版〕』（有斐閣、2009年）

【参考書】

別冊ジュリスト『労働判例百選〔第8版〕』（有斐閣、2009年）

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点（40％）と試験の結果（60％）を総合的に評価して判定する。

【注意事項】

六法全書を準備のこと。

【備考】

講義に真面目に出て、労働関係法の基礎知識を修得していただきたい。

授業科目名
労働関係法II (Labor Relations LawII)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	金 2	鈴木 芳明 内 線 7692 E-mail : ysuzuki@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

労働関係法の基礎知識の提供・修得を目的とする。
「労使関係法」の分野を中心に、法制度のしくみやルールについて解説する。

【具体的な到達目標】

社会人として備えておくべき労働関係法の基礎知識の修得をめざす。

【授業の内容】

以下の順序で、講義を行う予定である。

- 第1回 総論 (1)
- 第2回 総論 (2)
- 第3回 労働組合の法的規制
- 第4回 労働組合の組織と運営 (1)
- 第5回 労働組合の組織と運営 (2)
- 第6回 組合活動の自由・権利
- 第7回 団体交渉の法的ルール
- 第8回 労働協約制度 (1)
- 第9回 労働協約制度 (2)
- 第10回 争議行為をめぐる法的諸問題 (1)
- 第11回 争議行為をめぐる法的諸問題 (2)
- 第12回 争議行為をめぐる法的諸問題 (3)
- 第13回 不当労働行為制度 (1)
- 第14回 不当労働行為制度 (2)
- 第15回 まとめ

【時間外学習】

必要に応じてレポートの提出を求める。

【教科書】

安枝英紳＝西村健一郎『労働法〔第10版〕』（有斐閣、2009年）

【参考書】

別冊ジュリスト『労働判例百選〔第8版〕』（有斐閣、2009年）

【成績評価の方法及び評価割合】

平常点 (40%) と試験の結果 (60%) を総合的に評価して判定する。

【注意事項】

六法全書を準備のこと。

【備考】

講義に真面目に出て、労働関係法の基礎知識を修得していただきたい。

授業科目名
行政法 (Administrative Law)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	月 2	吉田 初志 内 線 6752 E-mail : yoshida-hatsushi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

我々の日常生活は、行政の多様な活動に支えられている。こうした行政の組織や諸活動を規律している多数の法規の体系が行政法である。本講義では、行政法の基本理念や基礎的な知識を習得することを目的とする。

【具体的な到達目標】

行政法の基礎的な思考方式を理解した上で、行政法総論の基本的な論点を理解できること。

【授業の内容】

次のテーマについて、教科書に従い、基本的なことに重点を置いて講義していく。場合によっては、教科書の項目の順番を変えたり、臨時に違う項目を取り上げることもある。

1. 行政活動と法
2. 行政活動の基本原理
3. 行政組織法
4. 行政作用法
5. 行政手続・行政情報法
6. 行政救済法

【時間外学習】

教科書の予習・復習をして受講すること。

【教科書】

見上崇洋ほか著『レクチャー行政法 〔第2版〕』（法律文化社、2005年）

【参考書】

原田尚彦著『行政法要論 全訂第6版』（学陽書房、2005年）
今村成和著・畠山武道補訂『行政法入門〔第8版補訂版〕』（有斐閣、2007年） など

【成績評価の方法及び評価割合】

数回の課題レポートにより評価する。
なお、単位を取得するには、レポートを全回提出して評価を受けることが必要。

【注意事項】

他人に迷惑となる行為を禁止する。

【備考】

ほかの法律科目の履修を前提としないが、法学入門や憲法などの法律科目を受講しているとより理解しやすいと思われる。

授業科目名
租税法 (Tax Law)

必修 選択	単位	対象 年次	学 期	曜・限	担当教員
選択	2		後期	月 2	吉田 初志 内線 6752 E-mail : yoshida-hatsushi@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

租税は、国民の経済活動や生活に密接に関連しており、様々な影響を与えている。本講義では、法学の一分野としての租税法について、その基本的な考え方や基礎知識を学習する。

【具体的な到達目標】

租税法の基本理念や主な税法の基礎的な概念が理解でき、租税法の基礎知識を習得すること。

【授業の内容】

次のテーマの基本的なことを分かりやすく講義するが、進捗状況などによっては、テーマの順番を変えたり、臨時に違うテーマを取り上げることもある。テーマによって複数回にわたったり、1回で複数のテーマを扱うこともある。

1. 租税の意義・機能・租税法の基本原則
2. 租税法の法源・法体系・解釈と適用
3. 国税庁ホームページ等の活用
4. 所得税の基本的な仕組み（その1から3）
5. 法人税の基本的な仕組み（その1から3）
6. 相続税・贈与税の基本的な仕組み（その1、2）
7. 消費税の基本的な仕組み（その1、2）
8. 租税手続法
9. 租税救済法

【時間外学習】

理解できなかったことや疑問点は、質問したり参考書を読んで解決しておくこと。各税法の詳細な説明までではできないので、より深く学習したい皆さんは、本などで自習すること。

【教科書】

初回講義時に指示する。また、毎回プリントを配付する。

【参考書】

初回講義時に紹介する。租税法の入門書を読むこと。また、国税庁ホームページの中の「税務大学校」のコーナーの「税大講本」も参考に。

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート（40%）と期末試験（60%）を総合的に評価する。

【注意事項】

他人に迷惑となる行為を禁止する。

【備考】

できれば、事前に法学入門を履修することを勧める。

平成22年度 別府大学, 立命館アジア太平洋大学, 日本文理大学へ開放可能科目一覧(工学部)

科目名	単位	学期	曜	限	担当教員	備考
情報理論	2	前期	火	5	田中	
プログラミング	2	前期	月	2	佐藤(輝)	
数値解析	2	後期	金	4	工藤	「付帯条件：初等関数（三角関数・指数関数・対数関数など）の微分・積分に関する知識を有すること」
コンピュータグラフィックス	2	後期	月	4	西野	
情報数学	2	前期	金	2	越智	
データサイエンス基礎	2	前期	火	3	和泉	
データベースシステム	2	前期	木	2	二村	
画像処理	2	前期	木	4	行天	
数理計画論 I	2	後期	月	3	越智	
情報ネットワーク	2	前期	火	5	宇津宮	
原子と分子	2	前期	月	4	飯尾	
物質の状態と変化	2	後期	月	4	大賀	
基礎理論化学 I	2	前期	月	1	大賀	
基礎理論化学 II	2	後期	金	2	大賀	
建築総論	2	前期	月	1	福祉建築全教員	
応用解析 II	2	前期	火	1	福田	
応用解析 II	2	前期	水	1	福田	
応用解析 II	2	後期	火	2	福田	
応用解析 III	2	前期	火	2	福田	

授業科目名 (科目の英文名)
情報理論 (Information Theory)

区分・分野・コア
選択 A 選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
A 選択	2	3	工学部	前期		田中充 内線 7850 E-mail tanaka-m@oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

情報理論の原点は、1948年に出版されたC. E. Shannonの論文「A Mathematical Theory of Communication」にある。この授業では、確率論に関する簡単な数学的知識だけで情報の数量的構造を理解し、情報理論の基礎とその応用を修得することを目的としている。

情報理論の概念や原理は科学の諸分野に適用でき、特に通信工学の分野において広汎な応用が試みられている。情報理論は、電気電子工学科で開講している通信工学関連の授業科目（電磁波工学Ⅰ,Ⅱ, 通信工学, 通信方式など）と関連がある。

【具体的な到達目標】

情報理論を履修することによって、情報源や通信路に関する確率的モデルの構築法や情報の定量化を行うための方法を理解する。具体的には、(1)情報源から発生する情報量をいかに数量化するか、(2)情報源の統計的性質を利用して符号化の効率をいかに向上させるか、(3)通信路をいかに能率良く利用するか、(4)通信路に生じた雑音による悪影響をいかに回避して通信を行うか、(5)デジタル信号とアナログ信号を同一の理論体系でいかに取り扱うか、などについて理解する。

【授業の内容】

○授業の進め方・形式

講義形式で行う。毎週、授業内容に関連した演習問題を宿題として課し、次週の授業開始時にレポートを提出してもらう。試験は、中間試験と期末試験を行う。授業内容を以下に示すが、進度により開講週と内容に多少ずれが生じることがある。

○授業内容

- ・第1～4週 シャノンの情報理論の概要と通信のモデル、確率モデルの構築と情報量の定義、エントロピーの定義とその性質、複合事象系のエントロピーと各エントロピー間の関係、情報源のモデル化とマルコフ情報源
- ・第5～7週 通信路のモデル化と通信路に関するパラメータ、雑音のない通信路及び雑音のある通信路の通信路容量、符号化の能率と冗長度、ブロック符号化
- ・第8週 中間試験
- ・第9～11週 符号化と通信路に関するシャノンの第一・第二定理、シャノン・ファノの符号化法とハフマンの符号化法、ハミング距離とハミング符号
- ・第12週～14週 連続的信号のエントロピーとその性質、最大エントロピー、フーリエ解析と標本化定理
- ・第15週 期末試験

【時間外学習】

毎週、宿題として課す演習問題のレポートを必ず提出する。この演習問題の解答例をホームページにアップロードするので、必ず復習する。また、授業終了後に授業内容の復習を行うとともに、教科書を読んで次週に行う授業内容について予習し、疑問点を整理しておく。

【教科書】

小沢一雅：情報理論の基礎，国民科学社。

【参考書】

笠原正雄ほか：情報理論－基礎と応用－，昭晃堂。 中川聖一：情報理論の基礎と応用，近代科学社。 今井秀樹：情報理論，昭晃堂。

【成績評価の方法及び評価割合】

以下に示す配分に基づいて成績評価を行い、総合点が60点以上を合格とする。

中間試験 35%，期末試験 35%，課題レポート 30%

【注意事項】

次週の授業の最初に、宿題として与えた演習問題のレポートを提出する。授業開始後に出席カードを配布し、出席カードの提出によって出席を確認する。出席カードの配布時に教室内にいない場合、遅れて来ても欠席として取扱う。授業回数 $\frac{2}{3}$ 以上出席していなければ、試験の受験資格を与えない。なお、授業への出席は受験資格の判定のみに用い、成績評価には反映させない。

【備考】

質問は授業時間中に随時行うこと。

授業科目名 (科目の英文名)
プログラミング (Computer Programming)

区分・分野・コア
必修

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	3	工学部	前期		佐藤輝被 内線 7847 E-mail tsato@eee.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

近年、電気電子工学のあらゆる分野において計算機支援による解析・設計が行われるようになってきており、そのために必要なプログラミングに関する知識や技術の習得が不可欠となっている。
本講義では、C言語を用いて、コンピュータの取り扱いやプログラムの作成法を学習する。

【具体的な到達目標】

C言語の文法を理解する。
C言語による簡単なプログラムの作成ができる。

【授業の内容】

- [第1回] コンピュータとプログラミング言語
- [第2回] データ型・演算子・式
- [第3回] 処理の流れ
- [第4回] 関数 (1)
- [第5回] 関数 (2)
- [第6回] 関数 (3)
- [第7回] ポインタと配列 (1)
- [第8回] ポインタと配列 (2)
- [第9回] 構造体 (1)
- [第10回] 構造体 (2)
- [第11回] プリプロセッサ
- [第12回] 入出力
- [第13回] 標準関数 (1)
- [第14回] 標準関数 (2)
- [第15回] 試験

【時間外学習】

講義終了後、演習または課題レポートを指示するので、定められた期限までに提出すること。

【教科書】

「プログラミング言語C 第2版 ANSI規格準拠」B.W.カーニハン、D.M.リッチー／石田晴久訳 (共立出版)

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

評価点は期末試験の点数を80%、課題レポートの点数を20%とする。

【注意事項】

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
数値解析 (Computational Methods)

区分・分野・コア
選択 A 選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
A選択	2	2	工学部	後期		工藤孝人 内線 7851 E-mail tkudou@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

1. 授業の意義・目的

電気電子工学の分野における研究・開発では、コンピュータによるデータ処理やシミュレーションが重要な役割を果たしています。コンピュータ・シミュレーションに基づく研究の進め方の一例を示すと、次のようになります：①研究の動機付け、②実験によるデータ収集、③数学モデルの構築、④数値計算法の選択、⑤シミュレーションによる数値解の取得、⑥実験結果との比較による数値解の検証、⑦理論の完成。この授業の内容は、④の部分に関係しています。工学部の学生にとって数値計算法は、身につけておくべき基礎的技術の1つです。この授業では、電気電子工学の諸問題と関係の深いいくつかの数値計算法について、それらの基本的な考え方や使い方を修得することを目的としています。

2. 他の授業科目との関連、および受講前提

この科目は「電気電子基礎実験・工学実験」、「電磁気学」、「電気回路」、「電気電子数学」、「電磁波工学」、「プログラミング」などの授業科目と密接に関連しています。なお、この科目では、初等関数（三角関数・指数関数・対数関数）の微分・積分、および2階までの線形常微分方程式の解法に関する知識を有することが受講前提です。

【具体的な到達目標】

- (1) 授業で取り上げる数値計算法の基本的な考え方、公式の導出手順などを説明できる。
- (2) 数値計算法を実際に使用して、具体的な問題が解ける。

【授業の内容】

授業計画は次のとおりですが、多少前後することがあります。講義資料、PowerPointのスライド、板書により、授業を進めます。また、授業中に受講者に質問したり、演習を行うこともあります。

- [第1回] 電気電子工学と数値解析の関係、絶対誤差と相対誤差、無限小・無限大とランダウの記号
- [第2回] 非線形方程式の解法(1)： 2分法、ニュートン法
- [第3回] 非線形方程式の解法(2)： ベアストウ法
- [第4回] 連立1次方程式の解法： ガウス・ジョルダン法、ヤコビ法、ガウス・ザイデル法、SOR法
- [第5回] 関数補間と近似式(1)： ラグランジュの補間法、ニュートンの補間法
- [第6回] 関数補間と近似式(2)： 最小2乗法と回帰直線・回帰曲線
- [第7回] 数値積分法： 台形公式、シンプソンの公式、ニュートン・コーツの公式
- [第8回] 常微分方程式の解法(1)： オイラー法、台形法、改良オイラー法
- [第9回] 常微分方程式の解法(2)： ルンゲ・クッタ法、常微分方程式の解法における不安定現象
- [第10回] 偏微分方程式の解法(1)： 偏導関数の差分近似、放物型偏微分方程式の解法
- [第11回] 偏微分方程式の解法(2)： 双曲型偏微分方程式の解法、楕円型偏微分方程式の解法
- [第12回] 逆行列と固有値(1)： 逆行列の計算手順、行列の三角分解
- [第13回] 逆行列と固有値(2)： 固有値と固有ベクトル、対称行列の対角化とヤコビの方法
- [第14回] 離散フーリエ変換： 離散フーリエ変換とサンプリング定理、高速フーリエ変換
- [第15回] 期末試験

【時間外学習】

講義資料をよく読んで授業に臨んで下さい。また、宿題を課すので、解答をレポートにして期限までに提出して下さい。レポートは内容をチェックした後に返却します。必ず復習して授業内容の更なる理解に努めて下さい。

【教科書】

講義資料を配付します。

【参考書】

講義資料に載せます。

【成績評価の方法及び評価割合】

宿題レポート 40%、 期末試験 60%

誤答があるレポートや取り組み方が不十分と判断されるレポートについては減点します。「レポート提出点」と「期末試験の点数」の合計が60点以上を合格とします。正当な理由が無いのに期末試験を受けなかった受講者を含め、不合格者はすべて「再履修」とします。再試験は実施しません。

【注意事項】

授業回数の3分の2以上出席しなければ、期末試験を受けることができません。遅刻については授業開始後30分までを限度とし、それ以上の遅刻は欠席扱いとします。常に緊張感をもって授業に臨んで下さい。

【備考】

質問があれば、遠慮せずに教員室（電子棟507号室）まで来て下さい。

授業科目名 (科目の英文名)
コンピュータグラフィックス (Computer Graphics)

区分・分野・コア
選択 A 選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
A選択	2	3	工学部	後期		西野浩明 内線 7876 E-mail hn@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

1. 授業の目的

ゲーム、医療、製品設計、芸術教育など、さまざまな分野に应用されているコンピュータグラフィックスの基本原理について学びます。物体の形状を立体的に定義したり（モデリング）、ディスプレイ装置上に本物らしく画像を描き出したり（レンダリング）、物体等に動きをつけたり（アニメーション）するための仕組み、処理アルゴリズム、データ構造等について学習します。また、基本原理の修得と並行して、各種の技法を用いて制作した映像作品などについても随時紹介します。

2. カリキュラムに占める位置

ベクトル、線形代数、幾何学などの基礎理論に基づいて、数値計算結果を分かりやすく表示したり、映像による直観的なヒューマンインタフェースを実現したりするための重要な基盤技術として位置づけられます。また、処理結果として2次元画像を生成するため、「画像処理」および「画像処理演習」の内容とも密接に関連しています。さらに、「コンピュータ援用設計」に必要な幾何変換を学習するので、同科目の履修予定者は必ず受講してください。

3. 他の授業科目との関連

平成21年度以前入学生：

先修科目：解析学I、代数学I

並修科目：ヒューマン・インタフェース、画像処理、画像処理演習

後修科目：コンピュータ援用設計

平成22年度以降入学生：

先修科目：解析学I・II、代数学I・II、マルチメディア処理

関連科目：ウェブサイエンス

【具体的な到達目標】

(1) 2次元および3次元図形の座標変換、図形データのコンピュータ上でのモデル化とその解析・編集方法、色や光の表現とその計算方法を活用できる。

(2) コンピュータグラフィックスの基本原理とディスプレイ等の表示機器上に表現される映像とを技術的に関連づけて理解している。

【授業の内容】

1. 授業の形態・進め方

スライドと資料を用いた講義を行います。講義の中で小テストおよび演習を実施します。

2. 授業概要

第1週 歴史と概要 コンピュータグラフィックス (CG) の歴史、ディスプレイ装置の構造

第2週 2次元CGの基礎 基本形状、アンチエイリアシング

第3～5週 3次元CGの基礎 座標系、境界表現法、CSG法、メタボール、自由曲線・曲面

第6～9週 3次元幾何変換 アフィン変換、同次座標、投影変換

第10～11週 レンダリング手法 隠線・隠面消去、シェーディング、ライティング、テクスチャマッピング、レイトレーシング

第12～14週 CGプログラミング演習 CGプログラミング環境, CGプログラミング演習

第15週 期末試験

【時間外学習】

講義資料の内容にしたがって復習をしっかりとしておくこと。また、講義内容に加えて参考書および関連するWebページなどを参照しながら、資料の設問部分（空欄になっている部分）の解答を完成させておくこと。

【教科書】

特定の教科書は使用しません。講義資料を配布します。

【参考書】

- (1) 前川佳徳：新世代工学シリーズ コンピュータグラフィックス, オーム社出版局.
- (2) 小笠原祐治：C++による簡単実習 3次元CG入門, 森北出版.
- (3) 中前栄八郎, 西田友是：3次元コンピュータグラフィックス, 昭晃堂.
- (4) 荒屋真二：明解3次元コンピュータグラフィックス, 共立出版.

【成績評価の方法及び評価割合】

到達目標の達成度を次の方法により評価します。

期末試験 60%

小テスト 30%

課題レポート・演習 10%

（「再試」判定の受講者に対しては、学期終了後、半年以内に再試験を実施します）

【注意事項】

【備考】

教員免許「情報」指定科目。 JABEE「知能情報コース」学習・教育目標(A3),(d4)関連科目。

授業科目名 (科目の英文名)
情報数学 (Information Mathematics)

区分・分野・コア
必修

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	平成21 年度以 前入学生は2年	工学部	平成 21年 度以前入		越智義道 内線 7869 E-mail ochi@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

1. 授業の目的

情報技術の基礎となる数理的な考えや知識として、集合・写像・論理などの離散数学について学びます。また、小テストと課題に取り組むことを通して理解を深めます。

2. カリキュラムに占める位置

情報・知能分野の専門科目のための基礎となる重要な数理関係科目として位置づけられます。

3. 他の授業科目との関連

平成21年度以前入学生：

後修科目：情報代数系

平成22年度以降入学生：

先修科目：情報論理学

後修科目：情報代数系

【具体的な到達目標】

- (1) 集合・写像・関係の概念を理解する。
- (2) 基本的命題と証明法を理解する。

【授業の内容】

1. 授業の形態・進め方

講義形式で実施します。授業終了時に、小テストを実施します。また練習問題を課題として出題し、レポートの提出を求めます。

2. 授業概要

第1～2週 離散集合とその演算

集合の表現, 集合演算

第3～4週 集合と論理

述語, 論理演算, 背理法など

第5～6週 対応と写像

対応, 集合の直積, 写像, 関数表, 写像の合成など

第7週 帰納法とアルゴリズム

自然数とペアノの公理, 数学的帰納法, 帰納的定義,
再帰呼出しと再帰的アルゴリズムなど

第8週 中間試験

第9～10週 離散関係

2項関係, 関係行列, 関係グラフ, 同値関係, 同値類など

第11～13週 順序集合と束

順序関係, 順序集合, 束など

第14～15週 離散グラフ

有向グラフ, 連結性, 隣接行列, 無向グラフ, 木

全域木, 根付き木, グラフの探索と探索木, 順序木, 順序木の探索

第16週 期末試験

3. 試験および出題範囲

中間試験：学期途中で実施，出題範囲は「帰納法とアルゴリズム」まで。

期末試験：全範囲

【時間外学習】

- ・事前に教科書の予習を行うこと。
- ・授業の後は，その内容を復習すること。ポイントとなる内容確認のために宿題を課すことがあります。

【教科書】

平成22年度前期授業まで

小倉久和：情報の基礎離散数学－演習を中心とした－，近代科学社。
(ISBN:978-4-7649-0276-3)

平成22年度後期授業から

佐藤泰介・高橋篤司・伊藤利哉・上野修一：情報基礎数学，昭晃堂。
(ISBN：978-4-7856-3160-4)

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

到達目標の達成度を次の方法により評価します。

中間試験 40%，期末試験 40%，小テスト・レポート 20%

【注意事項】

第15週分の講義は補講期間中に設定します。

【備考】

JABEE「知能情報コース」学習・教育目標 (A1),(d3) 関連科目。

平成21年度以前入学生：

教員免許「情報」指定科目

授業科目名 (科目の英文名)
データサイエンス基礎Ⅱ (Foundations of Data Science Ⅱ)

区分・分野・コア
必修

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
平成22 年度以 降入学 生は必	2	3	工学部	前期		和泉 志津恵 内線 7867 E-mail shizue@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

1. 授業の目的

情報科学の基礎を支えるデータサイエンスにおける統計的推測法の基礎理論について学びます。この講義では、推定・検定、単回帰について学びます。

2. カリキュラムにおける位置づけ

現実の問題の数理的な表現と推測法に関する知識や技術の習得のための教科として、「多変量解析」とつながった情報科学基礎科目の中の1つです。理論面では、「解析学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ微分・積分の知識のほか、「データサイエンス基礎Ⅰ」で学んだ確率の基礎知識も活用します。さらに市販のソフトウェアなどで行われている基本的な統計処理の具体的な手法についても学びます。

3. 他の授業との関連

先修科目：解析学Ⅰ・Ⅱ，データサイエンス基礎Ⅰ 並修科目：データサイエンス演習

後修科目：多変量解析

【具体的な到達目標】

現実の世界で観察されるデータを整理・解析・解釈するため、データをもとに推測を行う技術として、推定や検定などの統計的な推測法を習得します。

【授業の内容】

1. 授業の形態・進め方

講義形式で実施し、毎回講義での説明のあと、小テストを実施します。また、テスト問題に対する解答などの解説も行います。WebClassを用いて、授業の資料を配布しお知らせを掲示します。

2. 授業概要

第1～2週 確率の基礎知識 WebClassの説明, 確率の基本性質, 確率変数, 確率密度関数,

分布関数, 期待値, 分散, 2変量の確率分布

第3～4週 標本分布

母集団, 標本, 母集団分布, 無作為, 復元抽出, 非復元抽出,

標本分布 (正規分布, カイ自乗分布), 大数の法則, 中心極限定理

第5～6週 点推定

推定量, 推定値, 不偏性, 一致性, 最尤推定法

第7～8週 区間推定

信頼水準, 母平均の区間推定, 母分散の区間推定

第9～11週 仮説検定

帰無仮説, 対立仮説, 第1種の誤り, 第2種の誤り, 有意水準

第12～14週 単回帰

回帰式, 最小2乗法, 正規方程式, 母数の推定, 母数の検定

第15週 まとめ

第16週 期末試験

3. 試験および出題範囲

期末試験：全範囲

4. 質疑応答

授業期間中、口頭での質問を2回以上すること。質問はオフィスアワーにおいても受け付けます。

【時間外学習】

講義は教科書の予習を前提として進めます。自ら勉強する姿勢を強く求めます。

【教科書】

濱田 昇, 田澤 新成: 統計学の基礎と演習, 共立出版.

【参考書】

松原 望: わかりやすい統計学 (第2版), 丸善株式会社.

間瀬, 神保, 鎌倉, 金藤: 工学のためのデータサイエンス入門, 数理工学社.

【成績評価の方法及び評価割合】

到達目標の達成度を次の方法により評価します。

期末試験 76%, 小テスト 14%, 質疑応答 10%

【注意事項】**【備考】**

JABEE「知能情報コース」学習・教育目標(A1),(d3)関連科目。

授業科目名 (科目の英文名)
データベースシステム (Database Systems)

区分・分野・コア
必修

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	3	工学部	前期		二村祥一 内線 7881 E-mail futamura@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

1. 授業の目的

大量データを効率よくコンピュータで処理するには、それらをデータベースとして管理することが重要です。この科目では、現在最も利用されているリレーショナルデータベースシステムの基本概念と基本知識を学習します。

2. カリキュラムに占める位置

データベースは企業や大学、各種団体などで使われる共有データを集中管理し、矛盾なく効率的にデータ提供する仕組みです。種々のシステムやプログラムのもとで基底システムとして使われます。並修科目の「データベース演習」を併せて受講してください。

3. 他の授業科目との関連

[平成22年度入学生]

並修科目：データベース演習

後修科目：ウェブサイエンス

関連科目：アルゴリズム論、情報構造論、オペレーティング・システム

[平成21年度以前の入学生]

並修科目：データベース演習

後修科目：情報検索

関連科目：オペレーティング・システムⅠ、情報構造論、情報論理学Ⅰ・Ⅱ

【具体的な到達目標】

- (1) データベース応用やデータベースシステム管理のための基礎知識を理解する。
- (2) リレーショナルデータベースを総合的に理解する。
- (3) データベース問合せ言語SQLを活用できる。
- (4) 現実世界のデータから、計算機上のデータベースを設計できるようになる。

【授業の内容】

1. 授業の形態・進め方

教科書とこれを補完するプリントを用いて、講義形式で実施します。また、「データベース演習」の課題レポートで内容理解の確認を行っていきます。

2. 授業概要

第1週	データベース基本概念	データベース言語, データモデル
第2週	データモデリング	実体関連モデル, 関係モデル, 概念設計, 論理設計
第3~4週	データモデル	関係, データ制約, 関数従属性, 関係代数
第5~6週	データベース言語	SQL, データ定義, 問合せ
第7週	中間試験, 物理的格納方式	記憶装置, ハッシュファイル, 索引ファイル
第8~9週	問合せ処理	問合せ最適化, 処理木, データ操作実行法
第10~11週	同時実行制御	トランザクション, 直列化可能性, 同時実行制御
第12週	障害回復	障害の分類, ログを用いた障害回復
第13~14週	データベース設計論	論理設計, 関数従属性, 正規形の表
第15週	期末試験	

【時間外学習】

教科書を予習して来てください。また、復習で教科書を読み返し、内容を理解して行ってください。課題レポートを着実に提出していくこと。

【教科書】

北川博之：データベースシステム，昭晃堂.

【参考書】

- (1) 増永良文：リレーショナルデータベース入門 [新訂版]，サイエンス社.
- (2) データベース操作言語SQLの参考書（図書館などに多数あります）.

【成績評価の方法及び評価割合】

到達目標の達成度を次の方法により評価します。

期末試験 50%， 中間試験 40%， 課題レポート 10%

【注意事項】

並修科目の「データベース演習」で，この講義の演習問題を扱い，また計算機を使ったデータベースの構築・検索をします。「データベース演習」を併せて受講してください。

【備考】

教員免許「情報」指定科目。JABEE「知能・情報コース」学習・教育目標(A3),(d4)関連科目。

授業科目名 (科目の英文名)
画像処理 (Image Processing)

区分・分野・コア
選択 A選択

必修 選択	単位	対象 年次	学 部	学 期	曜・限	担当教員
A選択	2	平成20 年度以 前入学生は3	工学部	平成 20年 度以前入		行天啓二 内線 7865 E-mail gyohten@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

【注】平成21年度以降入学生は、「注意事項」を参照してください。

1. 授業の目的

この授業は、コンピュータ上における画像の表現およびその処理方法について学ぶことを目的とします。画像がコンピュータにどのようにして入力され、表現されるかについて学んだ後、画像データに対してどのような処理を施すことにより、どのようなデータを獲得でき、どのような効果を期待することができるかについて学びます。

2. カリキュラムに占める位置

コンピュータ上で扱う画像データは一種のデジタル信号であるため、画像処理は、デジタル信号処理の応用分野であると捉えることができます。また、コンピュータにおけるデータの表示系に関する内容という点で、「コンピュータグラフィックス」と密接に関連します。「画像処理」で学んだ技術は、「画像理解」で学ぶ内容の基盤となっています。

3. 他の授業との関連

先修科目：基礎数学，解析学I・II，代数学I・II，確率統計，デジタル信号処理

並修科目：画像処理演習，コンピュータグラフィックス

後修科目：画像理解

【具体的な到達目標】

- (1) コンピュータに画像をどのようにデジタル化して取り込み、表現するかについて、データ構造レベルで理解している。
- (2) 画像データに対してどのような変換処理を適用することにより、どのようなデータを獲得することができるかについて理解している。
- (3) 画像処理において有用である各種特徴の獲得方法について理解している。

【授業の内容】

1. 授業の形態・進め方

スライドを用いて授業を行います。スライドの内容については資料としてWeb上に事前に公開するので、各自印刷して手元に準備しておいてもらいます。また、毎回の授業の後で授業に関する質問を受け付けたり小テストを行います。質問の回答や小テストの解答の説明は、次の授業の最初に行います。

2. 授業概要

第1週

画像処理の基本概念

画像処理の目的，現在の画像処理技術

第2週

画像のデジタル化

画像のデータ構造，画像の種類，画像の入力，
標本化，量子化

第2～4週

画像の種類の変換

2値化（しきい値法，判別分析法），
擬似階調表示（ディザ法，誤差分散法）

第4～7週

2値画像処理

連結性，連結成分，ラベリング，細線化，
膨張・収縮処理，輪郭線追跡

第7・9・10週

濃淡画像の変換処理

幾何学変換, エッジ抽出フィルタ,
平滑化フィルタ, パターン抽出フィルタ

第8週

中間試験

第11・12週

正規直交変換

フーリエ変換, 高速フーリエ変換, コサイン変換,
画像の正規直交変換の応用例

第13週

カラー画像処理

表色系

第14週

特徴抽出

テクスチャ特徴, 領域分割

第15週

期末試験

【時間外学習】

資料を, 毎回, 授業の1週間前にWeb上に公開します。授業に先立って資料をあらかじめ読んでおき, 資料内での説明が不十分な点を自ら把握したうえで, 授業に臨んでください。また, 授業の最後に実施される小テストについては, 過去の授業で既に説明済みの内容を問題にします。授業終了後に復習を怠らないようにしてください。

【教科書】

【参考書】

- (1) 安居院猛, 長尾智晴: 画像の処理と認識, 昭晃堂.
- (2) 白井良明, 谷内田正彦: パターン情報処理, オーム社.

【成績評価の方法及び評価割合】

到達目標の達成度を次の方法により評価します。

小テスト 30%, 中間試験 35%, 期末試験 35%

【注意事項】

本内容は, 平成20年度以前入学生向け「画像処理(前期開講)」について記述したものです。平成21年度以降入学生は, 「マルチメディア処理(後期開講)」のシラバスを参照してください。

毎回の資料は, 授業の1週間前にWeb上に公開されます。各自, 資料を印刷して授業に持参してください。

【備考】

教員免許「情報」指定科目。JABEE「知能情報コース」(必修), 学習・教育目標(A3),(d4)関連科目。

授業科目名 (科目の英文名)
数理計画論I (Mathematical Programming I)

区分・分野・コア
必修

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	2	工学部	後期		越智義道 内線 7869 E-mail ochi@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

1. 授業の目的

数理計画問題の基礎理論，特に線形計画法について学びます。線形計画法では制約や目的関数が線形式を用いて表現されるような問題を扱い，この授業では，その表現法，解法，適用法について学びます。

2. カリキュラムにおける位置づけ

現実の問題の数理的な表現と推測法に関する知識や技術の習得のための教科として，「数理計画論I・II」あるいは「オペレーションズ・リサーチ」，「生体工学」とつながった情報科学基礎関連の応用・展開科目の中の重要な基礎科目です。理論面では線形代数の知識を活用しますが，「数値解析I」で学ぶ線形計算の方法を応用した計算機での実際の適用法についても学びます。

3. 他の授業との関連

先修・並修科目：代数学I・II，数値解析I

後修科目：数理計画論II，オペレーションズ・リサーチ

関連科目：生体工学

【具体的な到達目標】

現実の世界の問題における制約条件や目的関数について，線形式を用いた数理モデルによる表現方法を理解し，その問題解決の各種の方法を学ぶとともに，それぞれの解法の基礎となる理論的背景，さらに特性や限界などに関する知識を身につけます。

【授業の内容】

1. 授業の形態・進め方

講義形式で実施し，授業内容に関連した宿題を課します。

2. 授業概要

第1週 線形計画問題の定式化

線形制約，目的関数，最適化問題

第2週 線形計画問題のグラフ解法

可能領域，最適解

第3週 線形計画問題の一般化と標準形

正準形，標準形，スラック変数，連立一次方程式

第4週 線形計画問題の解法の原理

解の生成，基底変数，非基底変数，可能解

第5～8週 シンプレックス・タブローによる解法

係数ベクトル，相対費用係数

第9週 改訂シンプレックス法

逆行列計算の効率化

第10週 中間試験

第11週 双対問題・ブランドの方法

第12週 2段解法と罰金法

正準形と一般の問題の違い，初期設定の自動化，

技巧変数，目的関数の調整

第13～14週 シンプレックス・タブローの計算の根拠

第15週 期末試験

3. 試験および出題範囲

<p>中間試験：学期途中で実施，範囲はシンプレックスタブローまで。 期末試験：全範囲</p>
<p>【時間外学習】 毎時間，授業での確認すべきポイントと次回の授業に必要な事前知識の注意をします，それをもとに内容の確認と準備をして授業に臨むようにすること。ポイントの確認にレポート課題の形態をとることもあります。</p>
<p>【教科書】 河原 靖：オペレーションズ・リサーチ入門，共立出版。</p>
<p>【参考書】 (1) 刀根 薫：オペレーションズ・リサーチ読本，日本評論社。 (2) 一森 哲男：数理計画法，共立出版。 (3) 室津，大場，米沢，藤井：システム工学，森北出版。</p>
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 到達目標の達成度を次の方法により評価します。 中間試験 40%，期末試験 40%，レポート・宿題 20%</p>
<p>【注意事項】</p>
<p>【備考】 教員免許「工業」指定科目。JABEE「知能情報コース」学習目標(A1),(d3)関連科目。</p>

授業科目名 (科目の英文名)
情報ネットワーク (Computer Network)

区分・分野・コア
必修

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	3	工学部	前期		宇津宮孝一 内線 7872 E-mail utsumiya@csis.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

1. 授業の目的

インターネットの普及により、通信とネットワークの利用は人々の生活に必要な不可欠なものとなっています。これらのネットワークを社会で活用するとともに、新たな分野に適用していくためには、その基本的な仕組みや動作原理などネットワーク技術を理解しておくことが必要です。コンピュータネットワークに関して、物理的な構成や機能ばかりでなく、目に見えない論理的な構成や機能など、その概念や原理について学びます。

2. カリキュラムに占める位置

コンピュータと通信の基礎の上に、コンピュータネットワークの基本構造とその上で動くソフトウェアやシステムの構築法に関する授業科目。

3. 他の授業科目との関連

平成21年度以前入学生

先修科目：計算機システムI, 計算機システムII,
オペレーティング・システムI, 情報理論

平成22年度以降入学生

先修科目：オペレーティング・システム
後修科目：ウェブサイエンス

【具体的な到達目標】

通信技術とコンピュータネットワークの基本概念や原理を理解し、下記の学習・教育目標に到達すること。

- (1) ネットワークの階層化方式、各階層の機能および階層間の関係を理解する。
- (2) 代表的なデータ伝送方式を理解する。
- (3) インターネットの基本的な経路方式を理解する。
- (4) ネットワークセキュリティについて理解する。
- (5) 情報ネットワークを社会へ導入する際に、その利点と克服すべき課題について述べることができる。

【授業の内容】

1. 授業の形態・進め方

講義形式で実施し、授業時間ごとに授業内容に関連した宿題を課します。

2. 授業概要

第1週	通信技術とコンピュータネットワークの概要 通信網とコンピュータネットワークの発展
第2週	通信の基礎(1) 信号の基礎と情報の符号化 信号、情報の符号化、データ圧縮
第3週	通信の基礎(2) データ伝送方式 伝送方式、伝送装置・媒体、多重化、交換方式
第4週	ネットワークの基礎(1) 階層化 ネットワークの階層化方式、プロトコル階層
第5週	ネットワークの基礎(2) データリンク制御 データリンク層、フロー制御、誤り制御、HDLC
第6週	ネットワークの構成 ローカルエリアネットワーク (LAN), WAN
第7週	インターネットとプロトコル インターネットとプロトコル, LANの相互接続
第8週	中間試験
第9～11週	ネットワーク層と経路制御

第12週	ネットワーク層, IPプロトコル, 経路制御方式 トランスポート層
第13週	トランスポート層, TCPプロトコル アプリケーション層
第14週	DNS, SMTP, Telnet, FTP, SNMP, HTTP, Web ネットワークセキュリティとネットワークの応用と課題 暗号, 認証, ファイアウォール, ネットワーク社会の諸問題, 情報倫理など
第15週	期末試験
<p>【時間外学習】 学習した内容をインターネットなどにより実際に試し, その原理や仕組みを体得してください。</p>	
<p>【教科書】 森本喜一郎: 通信とネットワークの基礎知識, 昭晃堂および配布資料を使用します。</p>	
<p>【参考書】 (1) 村山優子: ネットワーク概論, サイエンス社. (2) 江崎浩: ネットワーク工学, 数理工学社. (3) 石田晴久監修: インターネット教科書(上), I & E 神藏研究所.</p>	
<p>【成績評価の方法及び評価割合】 到達目標の達成度を次の方法により評価します。 期末試験 50%, 中間試験 25%, 課題レポート 25%</p>	
<p>【注意事項】 今回の授業内容プリントを参考にして予習をしておいてください。授業で出す課題に必ず取り組んでください。</p>	
<p>【備考】 教員免許「情報」指定科目。JABEE「知能情報コース」学習・教育目標(A3),(E),(d1)関連科目。</p>	

授業科目名 (科目の英文名)
原子と分子 (Atoms and Molecules)

区分・分野・コア
選択 A選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1~3	工学部	前期		飯尾 心 (月曜4限), 大賀 恭 (金曜2限) 内線 7959 (飯尾); 7958 (大賀) E-mail kokoro-i@cc.oita-u.ac.jp (飯尾); yohga@cc.oita-u.ac.

【授業のねらい】

物質科学の基礎としての化学を、原子・分子という微視的観点から学ぶことによって、物質の成り立ちについての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】

原子構造の基本すなわち原子内に存在する電子の状態を知り、それらがどのようにしてイオン結合、金属結合、共有結合などをつくるかを知る。またその知識に基づいてイオン性物質、金属、共有結合性物質などの構造と性質を理解する。

【授業の内容】

講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。

第1~3週 ガイダンス, 第1章 化学の基本 (物質の分類, 元素, 元素記号, 原子量)

第4週 第2章 単位と測定値の扱い (単位, 物理定数, 有効数字)

第5~8週 第3章 原子の構造と性質 (原子の構造, 原子スペクトル, ボーアのモデル, 電子の波動性, 軌道関数, 電子配置, 周期表)

第9~11週 第4章 原子から分子へ (共有結合, 混成軌道, π 結合, 配位結合, 電気陰性度, 分散力, 水素結合)

第12~13週 第5章 いろいろな結晶 (イオン結晶, 金属結晶, 共有結合結晶, 半導体)

中間試験 (試験時間30分程度。試験範囲: 第1~3章) を第3章が終わった翌々週に行う。

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「FRESHMAN化学」(学術図書出版社)

【参考書】

浅野 努, 荒川 剛, 菊川 清, 榊原 邁 共著「第3版 化学-物質・エネルギー・環境-」(学術図書出版社)

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート(30%), 中間試験(20%), 期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】

高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ、その講義内容および方針は高校までの化学と異なり、基本原理の理解に重点を置く。できるだけ毎回課題レポートを課す。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で、試験問題も同一で行う。人数のバランスをとるために、1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが、2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】

後期開講の「物質の状態と変化」を合わせて受講することを強く勧める。

授業科目名 (科目の英文名)
物質の状態と変化 (States and Changes of Matter)

区分・分野・コア
選択 A 選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
A 選択	2	1~3	工学部	後期		飯尾 心 (金曜4限) ; 大賀 恭 (月曜4限) 内線 7959 (飯尾) ; 7958 (大賀) E-mail kokoro-i@cc.oita-u.ac.jp (飯尾) ; yohga@cc.oita-u.ac.

【授業のねらい】

原子・分子の集合体という巨視的観点から物質をとらえ、物質の状態と変化の背後にある原理について学ぶことによって、よりいっそう物質についての理解を深めることを目指す。

【具体的な到達目標】

以下の概念を理解できるようになる。

1. 状態図
2. 熱力学の第一法則
3. 内部エネルギー
4. エンタルピー
5. 熱力学の第二法則
6. エントロピー
7. 自由エネルギー
8. 反応速度と速度式
9. 化学平衡

【授業の内容】

講義項目と予定は以下の通りである。章番号と内容は教科書のものである。

- 第1~2週 第6章 分子の世界1 (相図, 気体, 状態方程式)
 第3~4週 第7章 分子の世界2 (固体, 液体, ラウールの法則, 沸点上昇, 凝固点降下)
 第5~6週 第8章 エネルギーとエントロピー (第一法則, エンタルピー, エントロピー, ギブズエネルギー)
 第7~8週 第9章 化学平衡の原理 (平衡定数, ルシャトリエの原理)
 第9~11週 第10章 酸と塩基 (pH, pKa, 中和滴定, 加水分解, 緩衝溶液)
 第12週 第11章 酸化と還元 (酸化数, 電池)
 第13~14週 第12章 反応の速度 (反応速度, アレニウスの式, 触媒)
 中間試験 (試験時間30分程度。試験範囲: 第6~8章) を第8章が終わった翌々週に行う。

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容の課題レポートを課す。

【教科書】

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「FRESHMAN化学」(学術図書出版社)

【参考書】

浅野 努, 荒川 剛, 菊川 清, 榎原 邁 共著「第3版 化学-物質・エネルギー・環境-」(学術図書出版社)

【成績評価の方法及び評価割合】

課題レポート(30%), 中間試験(20%), 期末試験(50%)で評価する。

【注意事項】

高校での化学の履修を前提とせず基本からはじめ、その講義内容および方針は高校までの化学と異なり、基本原理の理解

に重点を置く。できるだけ毎回課題レポートを課す。遅刻は厳禁。月曜と金曜は同一内容の講義で、試験問題も同一で行う。人数のバランスをとるために、1年生については学科・コースにより受講曜日を指定するが、2年生以上および他学部の受講生はどちらで受講してもよい。

【備考】

前期開講の「原子と分子」を受講済みであること。

授業科目名（科目の英文名）
基礎理論化学I (Basic Theoretical ChemistryI)

区分・分野・コア
選択 A 選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	2年以上	工学部	前期		大賀 恭 内線 7958 E-mail yohga@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

大学の化学を受講してつまづく原因の一つとして、大学の化学にでてくる理論や法則に関する難しそうな方程式に対する拒絶反応があげられる。ところが一見複雑そうで高度に見える方程式も、実は高校数学の基礎知識レベルで十分理解できるものが大部分である。本講義では、専門基礎科目「原子と分子」および「物質の状態と変化」の内容の理解を前提に、これらの講義の中で扱った化学に関する理論や法則を、演習をまじえながらより深く理解することを目的とする。

【具体的な到達目標】

- (1) 自然科学に関する基本的な理論・法則に関する理解を深めること
- (2) 演習を通じて、理論・法則の使い方を身につけること
- (3) 化学を理解する上で必要な基本的な数学を復習する

【授業の内容】

およそ以下のスケジュールにしたがって行うが、進行状況や理解度に応じて演習と解説の時間を増やすこともある。

- 第1週 ガイダンス（講義内容の紹介）
- 第2週 基本事項1：単位の取り扱い方・有効数字
- 第3週 基本事項2：特殊関数とグラフ
- 第4週 基本事項1, 2に関する演習と解説
- 第5週 中間試験
- 第6週 熱力学1：気体の状態方程式
- 第7週 熱力学2：熱力学の第一法則と第二法則
- 第8週 熱力学3：自由エネルギー
- 第9週 熱力学4：相変化
- 第10週 熱力学1～4に関する演習と解説
- 第11週 中間試験
- 第12週 化学平衡1：解離度・pH
- 第13週 化学平衡2：平衡定数
- 第14週 化学平衡1, 2に関する演習と解説

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容に関する課題レポートを課す。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書】

浅野 努, 上野正勝, 大賀 恭 共著「FRESHMAN化学」(学術図書出版社)

【成績評価の方法及び評価割合】

演習・課題レポート40%, 試験(中間・期末)60%。

【注意事項】

専門基礎科目「原子と分子」および「物質の状態と変化」を履修済みであること。
毎回の講義開始時にその日に使うプリントを配布する。遅刻は厳禁。関数電卓必携。

【備考】

授業科目名 (科目の英文名)
基礎理論化学II (Basic Theoretical ChemistryII)

区分・分野・コア
選択 A 選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1年以上	工学部	後期		大賀 恭 内線 7958 E-mail yohga@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

専門基礎科目「原子と分子」および「物質の状態と変化」では物質科学の基礎である原子や分子の構造と成り立ちと、それらの集合体の性質・特徴を学んだ。これらを基礎として本講義は、分子がその構造や性質によって系統的に分類されていることを理解し、ルールに基づいて名称をつけることおよび名称から分子構造が書けるようになることを目的とする。さらに有機化合物の構造を決定するための分析手法についての解説と演習を行う。

【具体的な到達目標】

- (1) 化合物の系統的な分類を理解すること
- (2) 化合物の系統的な名前の付け方を理解すること
- (3) NMR, IR, Massなど各種スペクトルデータから、化合物の構造を決定すること

【授業の内容】

およそ以下のスケジュールにしたがって行う。講義は説明・解説と演習を交えて進める。進行状況や理解度に応じて演習と解説の時間を増やすこともある。

第1週 ガイダンス (講義内容の紹介)

第2～6週 有機化合物の命名法：炭化水素、アルコール、カルボン酸誘導体、含窒素化合物

第7週 中間試験

第8～9週 赤外分光法

第10～11週 : プロトン核磁気共鳴分光法

第12週 炭素-13核磁気共鳴分光法

第13週 質量分析法

第14週 スペクトルによる構造決定の総合演習

【時間外学習】

毎回その時間に講義した内容に関する課題レポートを課す。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考書】

小川雅弥・村井真二 監修「有機化合物 命名のてびき」(化学同人)

R. M. Silverstein他著, 荒木 舜 他訳「有機化合物のスペクトルによる同定法 第7版」(東京化学同人)

【成績評価の方法及び評価割合】

演習・課題レポート40%, 中間試験30%, 期末試験30%。

【注意事項】

専門基礎科目「原子と分子」を履修済みであること。

講義の開始時にその日に使うプリントを配布するので、遅刻は厳禁。

【備考】

授業科目名（科目の英文名）
建築総論 (Introduction to Architectural Engineering)

区分・分野・コア
必修

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1	工学部	前期		建築全教員 内線 7936（事務室） E-mail kenchiku@arch.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

建築物が生み出され、使用年月を経て消滅するまでの過程は下図に示すフローチャートで表される。建物の安全性や使用上の機能性、デザイン、経済性だけでなく建物の全生涯にわたる環境負荷を考慮した設計、さらには、建物のメンテナンスや補修・補強、そして、建物の解体や再資源化を考慮した設計など、建築技術者には多くの専門知識が要求される。建築工学は、このように、非常に幅の広い分野から構成されていることから、この授業の目的はこれから建築工学を学ぶ学生に対して、導入教育という位置づけのもと、《建築ってなに?》ということを中心に、建築系全教官により建築工学における学問体系の概要について説明・解説を行い、今後の学習に意欲的に取り組むための《オリエンテーション》を実施する。

【具体的な到達目標】

建築工学の学問体系を構成している建築設計・計画、建築構造、建築環境・設備、建築生産の各分野がお互いに密接に関連していることを理解し、建築技術者に求められる幅広い専門性を認識する。
建築—そのなりたち（建築とは何か、建築の歴史）／建築技術（建築物ができるまでのプロセスと各分野との関連、維持管理、補修・補強、解体）

【授業の内容】

授業ではOHP、スライド、ビデオなどを使用する。また、必要に応じて資料を配布する。授業は、主として、オフィスビルの設計を例にあげて下記のフローチャートに従って進めるが、その内容は次のとおりである。

- 1.序
- 2.オフィスビルの歴史、企画・立案
- 3.建築環境工学とオフィスビル内外環境 1 音環境
- 4.建築環境工学とオフィスビル内外環境 2
- 5.オフィスビルの設備
- 6.建築計画①-基本計画
- 7.建築計画②-各部の計画
- 8.オフィスビルと都市デザイン
- 9.建築材料の特性
- 10.建設業界の現状と就職先
- 11.構造計画
- 12.構造設計
- 13.建築の施工、維持管理
- 14.住宅の建設から解体まで
- 15.期末レポート

【時間外学習】

より多くの建築物を見学や建築関連書籍を閲覧することによって、講義内容の理解度を増すとともに、建築への関心を高める。

【教科書】

教科書は使用せず、各教員が必要に応じて講義資料を配付する。

【参考書】

講義中に指示をする。

【成績評価の方法及び評価割合】

期末レポート：30％，理解確認レポート：70％

【注意事項】

遅刻，欠席，私語や居眠り等の受講態度を厳しくチェックし成績評価に反映させる。

JABEE学習・教育目標及び他の関連授業科目を理解しておくこと。

【備考】

建築コースのみ受講可能。

●JABEE関連情報

1) JABEE学習・教育目標との対応

A, D, E(1-4)

2) 他の授業科目との関連

○先修科目

なし

○並修科目

建築構法

○後修科目

建築CAD製図Ⅰ，福祉住居論等

授業科目名 (科目の英文名)
応用解析II (Applied Mathematical Analysis II)

区分・分野・コア
選択 B 選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
エネ,電 気:必 修,メ カ:S選,	2	2	工学部	前期 後期		福田亮治 内線 7860 E-mail rfukuda@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

複素数, 複素平面に関する基本的な概念を理解し, 複素数を用いた基本的な演算を図形的な性質との関連を理解したうえで自由に使えるようになる. さらに実関数の複素数への拡張や複素数を用いた微分や積分を正しく理解し, フーリエ変換などの複素数を用いた解析や, 留数を用いた実積分の計算など, 応用上複素数が使用されている場面に正しく対応できる能力を身に着ける.

【具体的な到達目標】

複素数, 複素平面に対する基本的な概念(実軸, 虚軸, 加減乗除, 極座標表示, 原始 n 乗根など)を正しく理解する. 多項式, 3角関数, 指数関数といった初等関数の複素数への拡張, 一般的な複素関数の微分可能性(コーシー・リーマンの方程式), テイラー展開, ローラン展開といった複素関数特有の性質を理解する. 複素線積分に関する留数の定理を正しく理解し, 実積分を留数を使って計算する手法を身につける.

【授業の内容】

授業を受ける上で必要となる数学の知識:

<<高校数学>>

微分積分の数学的な定義 n 次関数や三角関数, 指数対数関数, 有理関数などの微分や積分の公式. 複素(数)平面. 二次元ベクトルの和スカラー倍, 内積.

<<大学初年度での数学>>

逆三角関数や有理関数などの積分. 1変数のテイラーの定理, 任意回数の導関数計算. (これらの内容については, この授業の開講期までに他の授業で扱われないものも含まれるので, 授業で概説したうえで扱うが, 予習しておくことが望ましい)

授業内容

複素数, 複素平面. 加減乗除

極座標表示原始 n 乗根

初等関数(多項式, 指数関数, 3角関数)の複素数への拡張

複素微分, コーシー・リーマンの方程式

複素線積分, コーシーの積分定理, テイラー展開

ローラン展開, 留数の定理

留数を用いた積分の計算

【時間外学習】

演習時に理解が不足していると思われる部分を中心にレポートを課すことがある.

【教科書】

理工系のための 解く! 複素解析

講談社サイエンティフィック

【参考書】

とくに指定しないが, 関数論, 複素関数などをキーワードに自分に合ったものを見つけることを勧める.

【成績評価の方法及び評価割合】

演習(3割)および期末試験(7割)をもって評価とする.

ただし, 出席は原則として3分の2以上している場合に評価の対象とする. 必要に応じてレポートを課し, 演習の評価に加

える。

【注意事項】

理解度には個人差があるので、わからない部分は積極的に質問するなどして、自分の責任で解決してほしい。

【備考】

電子メールの読み書きやホームページの閲覧は必ずできるようになっておいてください。

授業科目名 (科目の英文名)
応用解析III (Applied Mathematical Analysis III)

区分・分野・コア
選択 A 選択

必修 選択	単位	対象 年次	学部	学期	曜・限	担当教員
A 選択	2	2年生(機 械、建 築)	工学部	前期		福田 亮治 内線 7860 E-mail rfukuda@cc.oita-u.ac.jp

【授業のねらい】

3次元空間の中の物体など、ベクトルで表された解析対象を、微分や積分を用いて解析する上で必要となる概念や性質についてその基本的な部分を解説する。

形式的な計算だけでなく、理論的な背景を正しく理解して

3次元空間のイメージをベクトル解析の立場からとらえ、実際の現象を数式に結びつけることのできる感覚を身に付けることを目的とする。

【具体的な到達目標】

曲線の長さ、曲率、曲面の面積、

スカラー場やベクトル場の勾配、ラプラス演算子、線積分、面積分、体積分などについて正しく理解し、関連する基本性質を把握する。

グリーンの公式、ガウスの発散定理、ストークスの定理などの記述を上概念を用いて正しく表現し、成り立ちを理解した上で正しく応用する能力を身につける。

【授業の内容】

前提となる高校数学の知識

微分積分の数学的な定義、 n 次関数や三角関数、指数対数関数、有理関数などの微分や積分の公式。

二、三次元ベクトルの和スカラー倍、内積。

前提となる大学初年度での数学

逆三角関数 や 有理関数などの積分、 3×3 行列の行列式

これらの内容については、この授業の開講期までに

他の授業で扱われないものも含まれるので、

授業で概説したうえで扱うが、予習しておくことが望ましい)

授業内容

1. 基本ベクトル, 右手系の座標
2. ベクトルの基本演算
(和, スカラー倍, 内積, 外積, スカラー三重積)
3. ベクトル関数の微分, 積分
4. 曲線, 曲面に関する計算
(接線ベクトル, 法線ベクトル, 曲率, 曲線の長さ, 曲面の面積)
5. スカラー場, ベクトル場の微分
(演算子ベクトル, ラプラス演算子)
6. スカラー場, ベクトル場の積分
(線積分, 面積分, 体積分)
7. ガウスの発散定理, グリーンの公式, ストークスの定理

1項目を2時間程度で講義する

【時間外学習】

授業を休んだ場合を含めて、当日行った授業について理解できないところは、自分の責任で理解をするようにする

【教科書】

パワーアップ「ベクトル解析」(共立出版)

【参考書】

【成績評価の方法及び評価割合】

授業中の演習・課題(30%)，期末(70%)で評価する。
状況に応じて追加のレポート，試験を課すことがある。

【注意事項】

授業のガイドのためのホームページ <http://www.hwe.oita-u.ac.jp/ufukuda> を授業の前後で見ても、連絡事項などを確認する。

【備考】

平成22年度 別府大学, 立命館アジア太平洋大学, 日本文理大学へ開放可能科目一覧(医学部)

科目名	単位	学期	曜	限	担当教員	備考
成人看護学概論	1	前期	月	2	福井	ただし、人数制限10名程度

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
成人看護学概論	必修	1	2	前	月・2	福井 幸子 内線：5053 E-mail:fukui@med.oita-u.ac.jp
【科目名の英文】 Introduction to Adult Nursing						
【授業のねらい】 ライフサイクルにおける成人期の人を身体的・精神的・社会的側面から総合的にとらえ、対象の持つ健康課題及びその援助について学ぶ。さらに援助の目的をセルフケアの促進という視点からとらえ、将来を見据えた看護の機能や役割の方向性を考えることをねらいとする。 成人期にある人の健康は、家族や重要他者との関係と相互に影響しあうため、成人看護学においてはこれらの人々を含めて成人看護の対象とする。						
【具体的な到達目標】 (1) ライフサイクルからみた成人期の特徴を、人間の発達、生活という側面から理解する。 (2) 成人期にある人の健康に影響をおよぼす要因について理解する。 (3) 成人期にある人に提供される医療・保健サービスと、理解する。 (4) 成人期にある人の健康課題を解決するために必要な概念や理論について理解する。 (5) 上記のことからこれからの成人看護の目的や機能、役割について考える。						
【授業の内容】						
回数	題目	内容			担当者	
1	オリエンテーション 人の人生、成人の発達と健康	成人とは ライフサイクルにおける成人期 成人各期の心身の発達とその過程			福井	
2	成人の生活と健康	ライフイベントや社会の動きと健康 健康破綻が個人や家族、社会へ及ぼす影響			福井	
3	成人を対象とした医療・保健サービス(活動)と 提供システム	成人の健康を護るためのシステム チーム医療と看護の役割			福井	
4	成人看護に必要な概念や基礎理論	さまざまな健康レベル 一次・二次・三次予防と看護			福井	
5		セルフケア理論を中心に コンプライアンスからアドヒアランスへ			福井	
6	成人期にある人とその家族に対する看護の教 育的援助	成人の生活における学習の重要性 看護における教育的機能 成人への教育			福井	
7	成人看護の目的と機能、役割	成人看護の目的を達成するための援助技術 倫理的課題と人権の尊重・擁護 これからの成人看護の展望			福井	
注：方法は講義が中心であるが一部グループディスカッションなどを組み合わせて行います。						
【時間外学習】 必要に応じて課題を提示します。						
【教科書】 小松浩子他：成人看護Ⅰ 成人看護学総論，医学書院，2010 厚生統計協会編：国民衛生の動向 2009年，厚生統計協会，2009						
【参考書】 パトリシア・クラントン著：おとなの学びを拓く，鳳書房，1999。他 その他の参考文献等は適宜提示します。						
【成績評価方法及び評価の割合】 試験，出席・発表などの参加度，レポート等で総合的に評価します。						
【注意事項】 提示された参考文献を読んだりディスカッションへの意見など、積極的な学習を期待します。						
【備考】						